元総社蒼海遺跡群（35）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１１．２

前橋市教育委員会

oumi035.indd 1 2011/01/28 10:44:20

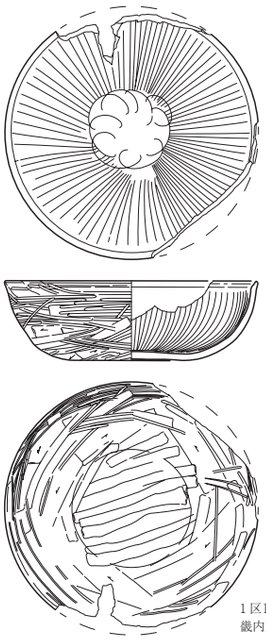
oumi035.indd 2 2011/01/28 10:44:20

oumi035.indd 3 2011/01/28 10:44:20

oumi035.indd 4 2011/01/28 10:44:20

元総社蒼海遺跡群（35）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



1区H－18出土
畿内産土師器(1/4)

２０１１．２

前橋市教育委員会

oumi035.indd 5 2011/01/28 10:44:20

oumi035.indd 6 2011/01/28 10:44:20

１区　全景（上が北）

１区　Ｈ－18号住居跡出土　畿内産土師器

３区　Ｈ－７号住居跡　遺物出土状況（西から）

３区　Ｈ－７号住居跡　出土遺物

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（35）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、縄文、古墳、奈良・平安時代の竪穴住居跡等を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 23 年２月

前橋市教育委員会
教育長　　佐　藤　博　之

oumi035.indd　9　　2011/01/28　10:44:34

例　　言

1　本報告書は前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（35）発掘調査報告書である。

2　発掘調査・整理作業は前橋市（市長　高木政夫）から委託を受けた技研測量設計株式会社が前橋市教育委員会の指導のもと実施した。

3　発掘調査の組織体制は次の通りである

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（35）
調査場所	群馬県前橋市元総社町 1389 ほか
遺跡コード	22 A 130 － 35
発掘調査期間	平成 22 年 8 月 10 日～平成 22 年 10 月 23 日
整理・報告書作成期間	平成 22 年 10 月 25 日～平成 23 年 2 月 10 日
調査・整理担当者	佐野良平（技研測量設計株式会社）

4　原稿執筆はＩを神宮　聡（前橋市教育委員会）、他を佐野が担当した。本書はデジタル編集・組版により作成し、その作業は佐野が行った。

5　発掘調査及び整理作業参加者は次の通りである。

山田誠司（技研測量設計株式会社）

石川輝子　石田てい子　稲数美枝子　内嶋勝義　宇貫美代子　岡野　茂　女屋みどり　栗原　隆　木暮孝一　佐藤和彦　佐藤初子　佐藤文江　佐藤政雄　篠田貞子　須田博治　関口勝司　高橋一巳　瀧澤佳子　竹澤賢司　田部井美砂子　角田耕二　長岡　保　長田友香　南雲誠一　西潟　登　羽鳥千鶴子　平野ミツ子　福島禄子　水野さかゑ　武藤　光　湯浅澄子　吉田文江　渡辺義雄

（以上、作業員・整理補助員）

6　遺物の分類・実測においては前田和昭・中村岳彦・大川明子（以上、技研測量設計株式会社）の助力を得た。

7　本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

8　下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します（順不同、敬称略）。

小川卓也　鏑木　洋　坂口　一　桜岡正信　瀬田哲夫　永井智教　山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、縄文時代の竪穴住居跡：Ｊ、古代の竪穴住居跡：Ｈ、掘立柱建物跡：B、溝：W、井戸跡：Ｉ、落ち込み：O、土壙墓：ＤＢ、土坑：Ｄ、ピット：Ｐである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡・土坑・ピット・・・1/60　竈・・・1/30　溝・・・1/100

全体図・・・1/200

遺物　土器・石製品・・・1/3、1/4　鉄製品・・・1/2　古銭・・・1/1

5　表中の計測値については（　）は現存値を表す。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構図・・・焼土・炭化物範囲：　灰範囲：　硬化面：

遺物実測図・・・須恵器（還元焔焼成）：　灰釉陶器：

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-A（浅間Ａ軽石：1783）、As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）、Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）

oumi035.indd　10　　2011/01/28　10:44:34

目　　次

巻頭図版１
巻頭図版２
はじめに
例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 2
Ⅲ　調査の方針と経過 …… 6
Ⅳ　基本層序 …… 6
Ⅴ　遺構と遺物 …… 9
Ⅵ　まとめ …… 61

挿図目次

Fig.１　遺跡の位置 …… 1
Fig.２　周辺遺跡図 …… 3
Fig.３　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図 …… 5
Fig.４　基本層序 …… 6
Fig.５　元総社蒼海遺跡群（35）調査区全体図 …… 7
Fig.６　１区　Ｊ－１・Ｈ－１号住居跡 …… 16
Fig.７　１区　Ｈ－２～４号住居跡 …… 17
Fig.８　１区　Ｈ－５・６号住居跡 …… 18
Fig.９　１区　Ｈ－７～12号住居跡 …… 19
Fig.10　１区　Ｈ－11～13号住居跡 …… 20
Fig.11　１区　Ｈ－13号住居跡竈、Ｈ－14号住居跡 …… 21
Fig.12　１区　Ｈ－15・16号住居跡 …… 22
Fig.13　１区　Ｈ－17号住居跡 …… 23
Fig.14　１区　Ｈ－18号住居跡、Ｐ－31号ピット …… 24
Fig.15　１区　Ｈ－19・20号住居跡 …… 25
Fig.16　１区　Ｈ－20号住居跡竈、Ｈ－21・22号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡 …… 26
Fig.17　１区　Ｂ－２号掘立柱建物跡、Ｗ－１号溝 …… 27
Fig.18　１区　Ｗ－１～４号溝、Ｉ－１号井戸 …… 28
Fig.19　１区　Ｉ－２号井戸、Ｏ－１号落ち込み、ＤＢ－１号土壙墓、Ｄ－１～８号土坑、Ｐ－16号ピット …… 29
Fig.20　１区　Ｄ－９・10号土坑、Ｐ－１～15・17～26・32～37号ピット …… 30
Fig.21　１区　Ｊ－１・Ｈ－１～３・５号住居跡出土遺物 …… 31
Fig.22　１区　Ｈ－５・７・10号住居跡出土遺物 …… 32
Fig.23　１区　Ｈ－10～13・15～17号住居跡出土遺物 …… 33
Fig.24　１区　Ｈ－18～20号住居跡、ＤＢ－１号土壙墓出土遺物 …… 34
Fig.25　１区　Ｄ－２号土坑、遺構外出土遺物 …… 35
Fig.26　２区　Ｈ－１～３号住居跡 …… 38
Fig.27　２区　Ｈ－４号住居跡、Ｗ－１・２号溝、Ｄ－１～３号土坑、Ｐ－１号ピット …… 39
Fig.28　２区　Ｈ－４号住居跡出土遺物 …… 40
Fig.29　３区　Ｈ－１号住居跡 …… 45
Fig.30　３区　Ｈ－２～４号住居跡、Ｄ－１号土坑 …… 46
Fig.31　３区　Ｈ－３・４号住居跡 …… 47
Fig.32　３区　Ｈ－４号住居跡竈、Ｈ－５号住居跡 …… 48
Fig.33　３区　Ｈ－５号住居跡竈、Ｈ－６号住居跡 …… 49
Fig.34　３区　Ｈ－７・11・12号住居跡 …… 50
Fig.35　３区　Ｈ－７号住居跡遺物出土状況・竈 …… 51
Fig.36　３区　Ｈ－８・10号住居跡 …… 52
Fig.37　３区　Ｈ－９号住居跡、Ｄ－３・４号土坑 …… 53
Fig.38　３区　Ｈ－９号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡 …… 54
Fig.39　３区　Ｂ－１号掘立柱建物跡、Ｗ－１・２号溝、Ｄ－２・５～７号土坑、Ｐ－18～21号ピット …… 55
Fig.40　３区　Ｈ－１～５・７号住居跡出土遺物 …… 56
Fig.41　３区　Ｈ－７号住居跡出土遺物 …… 57
Fig.42　３区　Ｈ－７～９号住居跡出土遺物 …… 58
Fig.43　３区　Ｈ－９・10号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡、遺構外出土遺物 …… 59
Fig.44　元総社蒼海遺跡群（35）３区　周辺遺跡 …… 63

oumi035.indd　11　　2011/01/28　10:44:34

表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧表……4
Tab.2　１区　掘立柱建物跡計測表……15
Tab.3　１区　井戸・土坑・ピット計測表……15
Tab.4　１区　出土遺物観察表……35
Tab.5　２区　土坑・ピット計測表……38
Tab.6　２区　出土遺物観察表……40
Tab.7　３区　掘立柱建物跡計測表……44
Tab.8　３区　土坑・ピット計測表……44
Tab.9　３区　出土遺物観察表……59
Tab.10　棚状施設計測表……62

写真図版目次

PL.1　１区　Ｊ－１号住居跡　全景、１区　Ｈ－１号住居跡　全景、１区　Ｈ－１号住居跡竈　全景、１区　Ｈ－２号住居跡　全景
　　１区　Ｈ－３号住居跡　全景、１区　Ｈ－４号住居跡　全景、１区　Ｈ－５号住居跡　全景、１区　Ｈ－５号住居跡竈　全景
PL.2　１区　Ｈ－７号住居跡　全景、１区　Ｈ－７号住居跡竈　全景、１区　Ｈ－９号住居跡　全景、１区　Ｈ－10・11号住居跡　全景
　　１区　Ｈ－13号住居跡　全景、１区　Ｈ－13号住居跡竈　全景、Ｈ－14号住居跡　全景、１区　Ｈ－14号住居跡竈　全景
PL.3　１区　Ｈ－15号住居跡　全景、１区　Ｈ－16号住居跡　全景、Ｈ－16号住居跡竈　全景、１区　Ｈ－17号住居跡　全景
　　１区　Ｈ－18号住居跡　全景、１区　Ｈ－19号住居跡　全景、１区　Ｈ－19号住居跡竈　全景、１区　Ｈ－20号住居跡　全景
PL.4　１区　Ｈ－20号住居跡　全景、１区　Ｈ－22号住居跡　全景、１区　Ｂ－１・２号掘立柱建物跡　全景
　　１区　Ｗ－１号溝東側　全景、１区　Ｗ－１号溝西側　土層断面全景
PL.5　２区　調査区　全景、２区　Ｈ－１号住居跡　全景、２区　Ｈ－２・３号住居跡　全景、２区　Ｈ－４号住居跡　全景
　　２区　Ｈ－４号住居跡竈　全景、３区　調査区　全景、３区　調査区　全景、３区　Ｈ－１号住居跡　全景
PL.6　３区　Ｈ－１号住居跡　全景、３区　Ｈ－２号住居跡　全景、３区　Ｈ－３号住居跡　全景、３区　Ｈ－３号住居跡竈　全景
　　３区　Ｈ－４号住居跡　全景、３区　Ｈ－４号住居跡竈　全景、３区　Ｈ－５号住居跡　全景、３区　Ｈ－５号住居跡　全景
PL.7　３区　Ｈ－６号住居跡　全景、３区　Ｈ－７・11号住居跡　全景、３区　Ｈ－７号住居跡竈　全景、３区　Ｈ－７号住居跡竈　検出状況
　　３区　Ｈ－７号住居跡　遺物出土状況、３区　Ｈ－７号住居跡貯蔵穴　遺物出土状況
　　３区　Ｈ－７号住居跡棚状施設　全景、３区　Ｈ－８号住居跡　全景
PL.8　３区　Ｈ－８号住居跡竈　全景、３区　Ｈ－９号住居跡　全景、３区　Ｈ－９号住居跡棚状施設　全景
　　３区　Ｈ－10号住居跡　全景、３区　Ｂ－１号掘立柱建物跡　全景
PL.9　１区　Ｊ－１・Ｈ－１～３・５号住居跡出土遺物
PL.10　１区　Ｈ－５・７・10～13・15～17号住居跡出土遺物
PL.11　１区　Ｈ－17～20号住居跡、ＤＢ－１号土壙墓、Ｄ－２号土坑、遺構外出土遺物
　　２区　Ｈ－４号住居跡出土遺物
　　３区　Ｈ－１号住居跡出土遺物
PL.12　３区　Ｈ－２～５・７号住居跡出土遺物
PL.13　３区　Ｈ－７号住居跡出土遺物
PL.14　３区　Ｈ－７～10号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡、遺構外出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、11 年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成 22 年 7 月 8 日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成 22 年 8 月 5 日付けで前橋市と民間調査組織である技研測量設計株式会社 代表取締役社長 嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (35)」（遺跡コード：22A130-35）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(35)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Fig.1　遺跡の位置

oumi035.indd　1　　2011/01/28　10:44:35

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置（Fig. 1）　本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約 3km の地点、前橋市元総社地内に所在し、西には関越自動車道が南北に、南には国道 17 号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高３～５ｍを測る。遺跡が立地する台地上は主として畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にあたる。

歴史的環境（Fig. 2、Tab. 1）　本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東［15］・産業道路西［16］・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡［61］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］・元総社小見Ⅲ遺跡［59］・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡［18］・［19］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］、正観寺遺跡［21］等があるがその分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳［７］、二子山古墳［12］、愛宕山古墳［10］、宝塔山古墳［13］、蛇穴山古墳［８］等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺［２］、国分尼寺［３］、山王廃寺［４］の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域におよそ 900 m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［14］、元総社寺田遺跡［43］、元総社宅地遺跡［55］などがある。また元総社明神遺跡［24］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［25］では東西方向の大溝が確認され、国府域の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和 55 年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度試掘調査、元総社蒼海遺跡群（20）で調査が行われた。調査の結果、南大門想定位置の前面で瓦敷遺構等が確認されている。関連遺跡として中尾遺跡［17］、鳥羽遺跡［20］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］などが挙げられる。

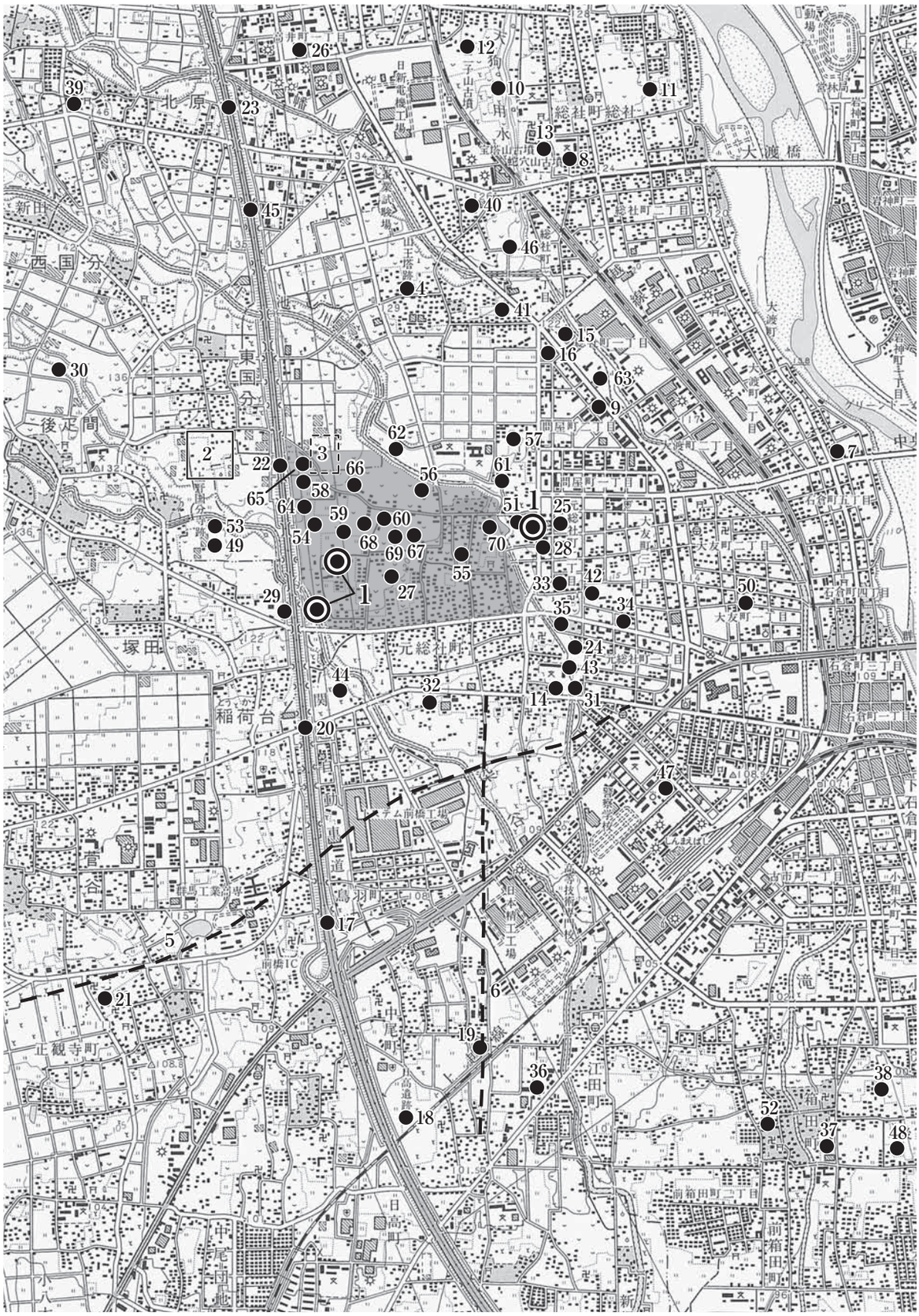
山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ～ 56 年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成９～ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約 1.5km にはＮ－ 64°－Ｅ方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡［19］では幅約 4.5 ｍの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。

天正年間以降は諏訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。

oumi035.indd　2　　2011/01/28　10:44:35



＝元総社蒼海遺跡群

1：25,000

500m　0　500　1000　1500

Fig.2　周辺遺跡図

oumi035.indd　3　　2011/01/28　10:44:37

Tab.1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山道（推定）	－	
6	日高道（推定）	－	
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7ｃ初）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５ｃ後半）
12	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６ｃ末～７ｃ初）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	(1978)	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
22	上野国分僧寺･尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡(群馬町)	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
25	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柿木遺跡･Ⅱ遺跡	1983、1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
28	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡･Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡･Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
41	昌楽寺廻向遺跡･Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
39	熊野谷Ⅱ･Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	弥勒遺跡･Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
45	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
49	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
51	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
52	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
56	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
51	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
58	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
61	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
62	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡、水田跡・火葬墓
63	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
64	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
65	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
60	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
66	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
67	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
64	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
68	元総社小見Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
68	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡

oumi035.indd　4　　2011/01/28　10:44:38

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
69	元総社小見内Ｘ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
70	総社閑泉明神北Ｖ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（１）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（２）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（３）・元総社小見Ⅶ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（６）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（７）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（８）	2006	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（９）・（10）	2006	縄文：竪穴住居跡、古墳：竪穴住居跡、奈良・平安：竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・竪穴状遺構・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世以降：土壙墓・井戸跡、不明：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・溝跡、中世：土壙墓・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：蒼海城の堀跡・盛土状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：方形竪穴・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南宋～元時代の青白磁梅瓶２個体
－	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳～平安：竪穴住居跡、中近世：掘立柱建物跡・土壙墓・火葬跡・地下式坑・蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：道路状遺構・土壙墓・火葬跡・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（31）	2009	古墳：住居跡、中世：道路状遺構、蒼海城の堀跡

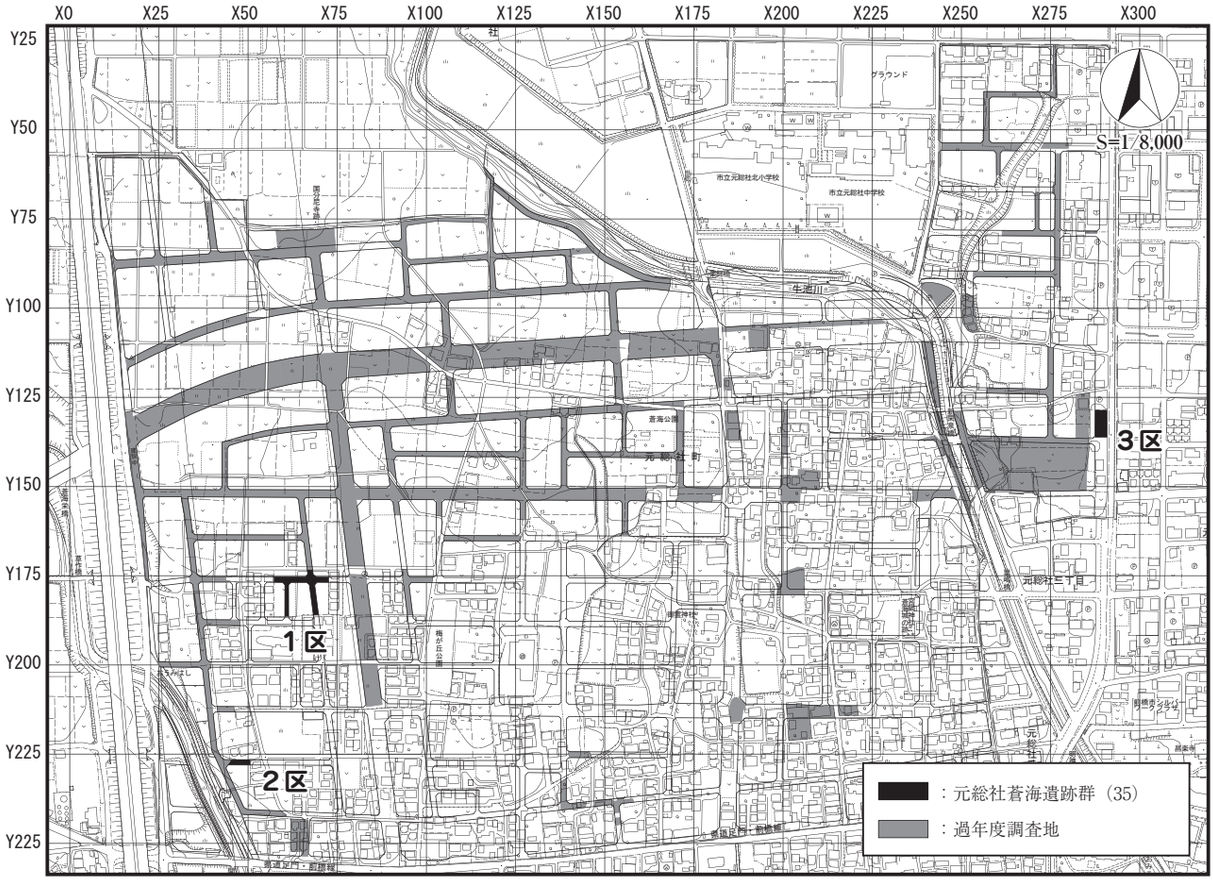


Fig.３　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

oumi035.indd　5　　2011/01/28　10:44:41

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は１区 800 ㎡、２区 85 ㎡、３区 350 ㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = 44000.000 m、Y = − 72200.000 を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をＸ、緯線をＹとして、北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は以下のとおりである。

	測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
１区	X 60、Y 180	X = 43280.000 m、Y = − 71960.000	X = 43634.912 m、Y = − 72251.757
２区	X 47、Y 227	X = 43092.000 m、Y = − 72012.000	X = 43446.916 m、Y = − 72303.759
３区	X 290、Y 130	X = 43480.000 m、Y = − 71040.000	X = 43834.904 m、Y = − 71331.766

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.25・0.45 バックホー）で表土掘削を行った。遺構の確認・掘削は発掘作業員により移植コテ・鋤簾などで慎重に行われた。遺構調査に関しては土層の堆積状況を確認するために土層ベルトを住居跡は主軸方向、土坑・ピット等は長軸方向を基本として設定した。住居跡の遺物に関しては床面直上や住居跡に伴うものは No 遺物とし、覆土中の破片は一括遺物として取り上げた。

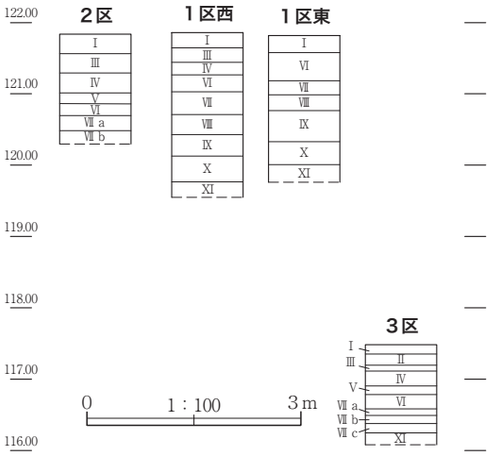
遺構図化については空中写真測量と電子平板を用いて平面図・断面図の測量・編集を行った。断面図についてはオルソーフォトに変換して編集を行った。遺構の記録写真については 35mm カラーフィルム・リバーサルフィルム・デジタルカメラの３種類を用いて担当者が撮影、遺跡全体に対してはラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施した。

2　調査経過

現地調査は平成 22 年８月 10 日から開始し、表土掘削は８月 17 ～ 24 日、発掘調査は２区→１・３区の順序で行った。各区の開始日は１区：９月３日、２区：８月 25 日、３区：８月 31 日からである。なお３区については排土置き場設置の関係上、調査区を南・北に二分割し南側から調査を開始、調査終了後南側調査区を埋め戻し北側調査区へ移行した。各区の全景撮影は１区：10 月７日、２区：９月２日、３区：９月 15 日・10 月 14 日に実施、埋め戻しは１区：10 月 21 ～ 23 日、２区：10 月 20 日、３区 10 月 20 日に行われ、10 月 23 日に現地での調査を終了した。

Ⅳ　基本層序

各調査区良好な堆積状況が確認できる場所を基本層序とした（１区東：W − １東側、１区西：W − １西側、２区：調査区北壁中央部、３区：調査区西壁中央部）。上層で若干の差異があるものの、下層での堆積状況は概ね共通している。遺構確認面は１区：Ⅳ～Ⅵ層、２区：Ⅳ層、３区：Ⅳ～Ⅵ層である。



基本層序
Ⅰ　現耕作土
Ⅱ　暗褐色土（10YR3/3）　As-C 混土層。締まり有り、粘性有り。
Ⅲ　暗褐色土（10YR3/3）　As-C を少量含む。締まり有り、粘性有り。
Ⅳ　黒褐色土（10YR3/1）　黒色粘質土層。As-C を微量ふくむ。締まり有り、粘性やや強い。
Ⅴ　褐色土（10YR4/4）　漸移層。締まり有り、粘性やや強い。
Ⅵ　黄褐色土（10YR5/8）　ローム土層。締まり有り、粘性やや強い。
Ⅶ　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　総社砂層。締まり強い。粘性弱い。
Ⅷ　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　総社砂層。Ⅴ層より砂粒を多く含む。締まり強い。粘性弱い。
Ⅸ　灰黄褐色土（10YR6/2）　総社砂層。Ⅵ層土を少量含む。締まり強い、粘性弱い。
Ⅹ　灰黄褐色土（10YR6/2）　総社砂層。硬質な堆積層。締まり強い、粘性弱い
XI　青灰色土（5PB6/1）　総社砂層。硬質な細粒砂堆積層。締まり強い。粘性なし。

Fig. 4　基本層序

oumi035.indd　6　　2011/01/28　10:44:42

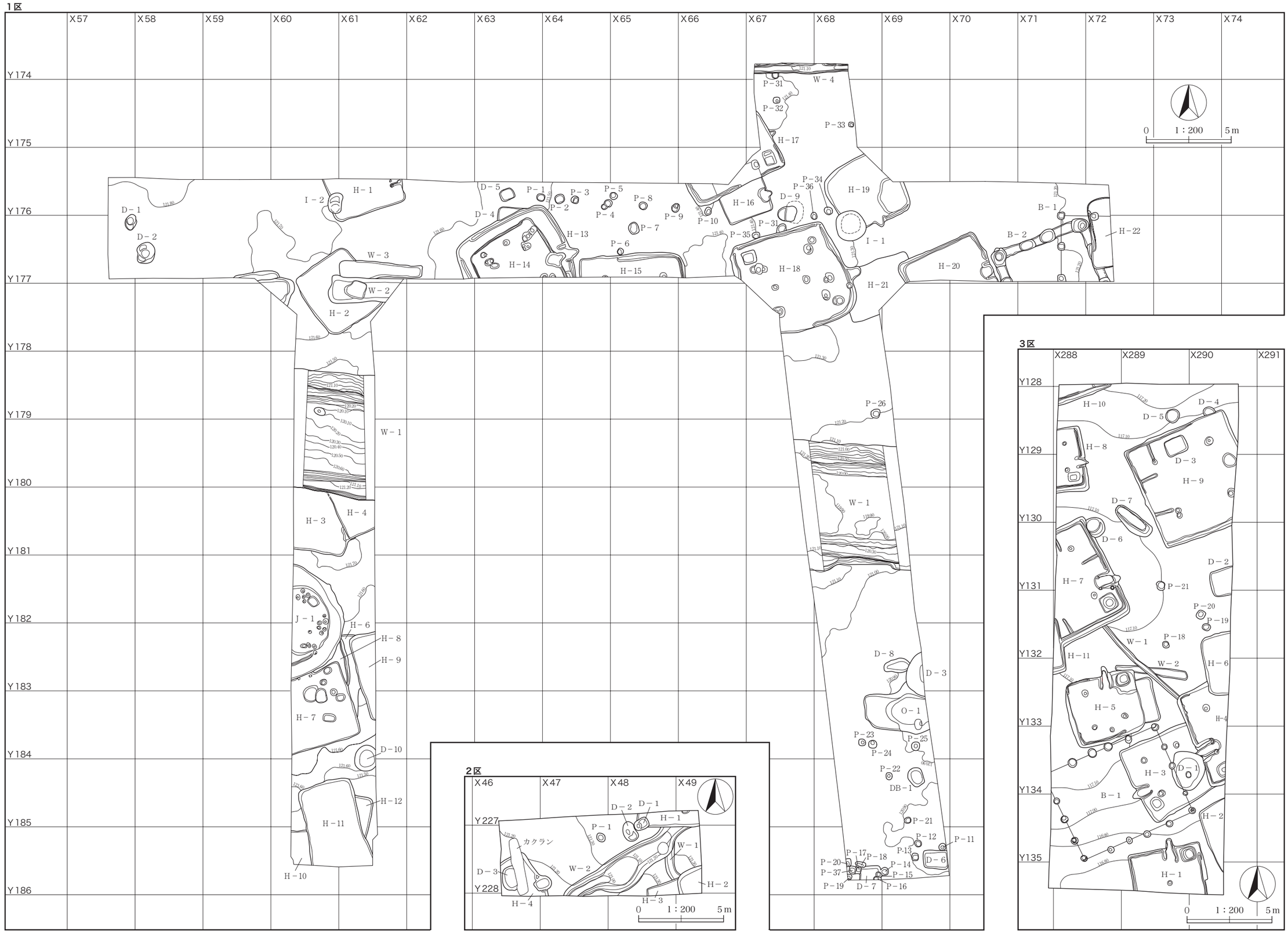


Fig.5　元総社蒼海遺跡群（35）調査区全体図

oumi035.indd 8 2011/01/28 10:44:43

Ⅴ　遺構と遺物

１　１区

（１）竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（Fig. ６・21、PL １・９）

位置　Ｘ 60・61、Ｙ 181・182　**規模**　南北 6.84 m、東西（3.11）m、壁現高 0.80 m。　**面積**　（13.42）㎡　**床面**　地山硬化床。　**重複**　Ｈ－５～８と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－５～８である。　**出土遺物**　深鉢（１・２）、敲石（３）、石鏃（４）、石鏃未成品（５）、削器（６）を図示。深鉢は諸磯ｃ式に帰属するものである。　**時期**　出土遺物から縄文時代前期後半と想定される。

Ｈ－１号住居跡（Fig. ６・21、PL １・９）

位置　Ｘ 60・61、Ｙ 175・176　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**規模**　東西軸 4.50 m、南北軸（2.74）m、壁現高 0.27 m。北半部が調査区外。　**面積**　（7.99）㎡　**床面**　地山硬化床。比較的平坦、中央部の硬化が顕著。一部、暗褐色土による貼床。　**竈**　東壁面に位置。北半部が調査区外。確認長 1.27 m、燃焼部幅（0.23）m。撹乱により煙道・袖の一部が消失。袖は暗褐色粘質土で構築されている。心材として総社砂層ブロックが使用されており、被熱し一部焼土化している。焚口は崩落し、床面に心材の切石（凝灰質砂岩）が散在する。　**重複**　Ｉ－２と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｉ－２である。　**出土遺物**　覆土から土師器・須恵器が出土。床面直上出土の須恵器高盤（１）、土師器坏（２・３）を図示。土師器坏は口縁部Ｃ字状に内湾し、丸底、口径 10.7cm、高さ 3.5cm とやや小振りである。　**時期**　出土遺物より８世紀前半と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. ７・21、PL １・９）

位置　Ｘ 60・61、Ｙ 176・177　**主軸方向**　Ｎ－54°－Ｅ　**規模**　南北軸 4.30 m、東西軸 3.88 m、壁現高 0.10 m。Ｗ－２・３により東側が消失。　**面積**　（9.31）㎡　**床面**　暗褐色粘質土による貼床。硬化面は捉えられず。**竈**　検出されず。Ｗ－２によって消失か。　**重複**　Ｗ－２・３と重複しており、新旧関係は本遺跡→Ｗ－２・３である。　**出土遺物**　土師器片が少量出土。覆土中からの土師器坏（１、模倣坏）、床面直上から土師器甕（２）を図示。　**時期**　出土遺物から古墳時代後期（６世紀末～７世紀初頭）と想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. ７・21、PL １・９）

位置　Ｘ 60・61、Ｙ 180　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｗ　**規模**　東西軸（4.07）m、南北軸（4.07）m、壁現高 0.04 m。北側はＷ－１により消失、西側は調査区外。　**面積**　（12.1）㎡　**床面**　黒褐色土の貼床。竈周辺の硬化が顕著。　**竈**　東壁に位置。確認長 0.94 m、燃焼部幅 0.67 m。袖は崩落しており基底部のみ確認。燃焼～煙道部は壁面を約 0.40 m掘り込んで造られており、焚口から浅く窪み煙道部へと緩やかに立ち上がる。　**重複**　Ｈ－４・Ｗ－２と重複しており、新旧関係はＨ－４→本遺構→Ｗ－２である。　**出土遺物**　竈周辺で出土した灰釉陶器埦（１）、須恵器坏（２・３）、羽釜（４）を図示。灰釉陶器埦は折戸 53 号窯式。　**時期**　出土遺物から 10 世紀と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig. ７、PL １）

位置　Ｘ 60・61、Ｙ 180　**主軸方向**　Ｎ－65°－Ｅ　**規模**　南北軸（3.15）、東西軸（2.36）m、壁現高 0.24 m。北側Ｗ－１により消失、東側は調査区外。　**面積**　（4.37）㎡　**床面**　暗褐色粘質土の貼床。硬化面は捉えられず。　**重複**　Ｈ－３・Ｗ－２と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－３→Ｗ－２である。　**出土遺物**　覆土中より土師器出土。　**時期**　重複関係・出土遺物の傾向から古墳時代後期（６世紀末～７世紀初頭）と想定される。

Ｈ－５号住居跡（Fig. ８・21・22、PL １・９・10）

位置　Ｘ 60・61、Ｙ 182～183　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｗ　**規模**　東西軸（3.08）、南北軸 4.73 m、壁現高 0.37 m。西側は調査区外。　**面積**　（12.62）㎡　**床面**　暗褐色粘質土の貼り床。中央部に硬化面を確認。　**竈**　東壁中

oumi035.indd　9　　2011/01/28　10:44:43

央部に位置。確認長 1.28 m、燃焼部幅 0.65 m。灰黄褐色粘質土で構築されており大部分が崩落している。燃焼部は焚口から浅く窪み、燃焼～煙道部は壁面を約 0.60 m掘り込み奥壁でやや直立気味に立ち上がり、途中幅狭の段を有する。袖・焚口の心材に凝灰質砂岩の切石・ブロックを使用、焚口前面に崩落した切石が散在する。燃焼部奥には分割された切石（11・12）が直立状に据えてあり、煙道天井部補強のための瓦（10）を支えていた状況が確認できる。　**貯蔵穴**　南東隅に位置し、平面長方形、断面箱状を呈する。深さ 0.28 m。　**住居内施設**　中央部に床下土坑２基確認。重複関係にあり、共に約３mm の厚さで灰白色粘質土が底面に敷設されている。　**重複**　Ｈ－６～８、Ｊ－１と重複しており、新旧関係はＪ－１→本遺構→Ｈ－６～８である。　**出土遺物**　灰釉陶器埦（１）、須恵器坏（２～６）、須恵器瓶（７・８）、羽釜（９）、瓦（10）、凝灰質砂岩切石（11・12）を図示。灰釉陶器埦は光ヶ丘１号窯式。切石は縦 48cm、横 13cm、幅９cm のレンガ状を呈する。　**時期**　出土遺物から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－６号住居跡（Fig. ８）

位置　X 60・61、Y 182・183　**主軸方向**　Ｎ－ 88°－Ｗ　**規模**　東西軸 2.75 m、南北軸 5.04 m、壁現高 0.15 m。大部分がＨ－５により消失。　**面積**　（4.44）㎡　**床面**　暗褐色土の貼床。硬化面は捉えられず。　**竈**　東壁に位置。上面からの削平により範囲のみ確認。燃焼部中央に支脚（川原石）が直立する。　**重複**　Ｈ－５・７～９、Ｊ－１と重複しており、新旧関係はＪ－１、Ｈ－７～９→本遺構→Ｈ－５である。　**出土遺物**　覆土から須恵器・土師器が少量出土。　**時期**　重複関係から 10 世紀以前と想定される。

Ｈ－７号住居跡（Fig. ９・22、PL ２・10）

位置　X 60・61、Y 182・183　**主軸方向**　Ｎ－ 17°－Ｅ　**規模**　南北軸 4.55 m、東西軸（4.24）m、壁現高 0.37 m。西側は調査区外。　**面積**　（14.98）㎡　**床面**　全体的に地山硬化床、所々に暗褐色土の貼床。　**竈**　北壁中央に位置。確認長 1.52 m、燃焼部幅 0.73 m。上部をＨ－５により削平されており竈底面が残存するのみ。袖から心材（凝灰質砂岩切石ブロック）、燃焼部からは支脚石（３、凝灰質砂岩切石）を確認。　**住居内施設**　柱穴を４基確認したが本遺構に帰属するかは不明。　**重複**　Ｈ－５・６・８、Ｊ－１と重複しており、新旧関係はＪ－１、Ｈ－８→本遺構→Ｈ－５・６である。　**出土遺物**　南壁際からいわゆる「模倣坏」である土師器坏（１・２）が出土。支脚石（３）は総社砂層の切石であり八角柱の形状である。　**時期**　出土遺物から古墳時代後期（６世紀末～７世紀初頭）と想定される。

Ｈ－８号住居跡（Fig. ９）

位置　X 60・61、Y 182　**主軸方向**　Ｎ－９°－Ｗ　**規模**　南北軸（2.85）m、東西軸（2.17）m、壁現高 0.35 m。東壁と一部床面のみ確認。　**面積**　（0.9）㎡　**床面**　暗褐色土の貼床。　**重複**　Ｈ－５～７、Ｊ－１と重複しており、新旧関係はＪ－１→本遺構→Ｈ－５～７である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　出土遺物がないため、重複関係から古墳時代後期以前と想定される。

Ｈ－９号住居跡（Fig. ９、PL ２）

位置　X 61、Y 182・183　**主軸方向**　Ｎ－ 17°－Ｗ　**規模**　南北長 5.14 m、東西軸（1.78）m、壁現高 0.49 m。大部分が調査区外。　**面積**　（4.27）㎡　**床面**　地山硬化床。　**重複**　Ｈ－６と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－６である。　**出土遺物**　覆土中より土師器・須恵器が出土。　**時期**　重複関係・出土遺物より８・９世紀と考えられる。

Ｈ－ 10 号住居跡（Fig. ９・22・23、PL ２・10）

位置　X 60、Y 185　**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｗ　**規模**　南北軸（2.15）m、東西軸（2.56）m、壁現高 0.69 m。大部分が調査区外。　**面積**　（2.07）㎡　**床面**　暗褐色土の貼床。　**重複**　Ｈ－ 11・12 と重複しており、新旧関係はＨ－ 11・12 →本遺構である。　**出土遺物**　覆土中より土師器・須恵器が出土。灰釉陶器皿（１）、須恵器皿（２・３）、須恵器坏（４・５）を図示。灰釉陶器皿は黒笹 90 号窯式。須恵器皿・坏（３・４）は墨書土器

oumi035.indd　10　　2011/01/28　10:44:43

であり、皿には内外面それぞれ「田」、坏には外面に則天文字で「天」と書かれている。　**時期**　重複関係・出土遺物から10世紀前半と想定される。

Ｈ－11号住居跡（Fig. 9・10・23、PL 2・10）

位置　X　60･61、Y 184･185　**主軸方向**　N－15°－W　**規模**　南北軸（5.52）m、東西軸3.68 m、壁現高0.46 m。長方形、南側は調査区外。　**面積**　（15.1）㎡　**床面**　地山硬化床。南側は一部暗褐色粘質土の貼床。　**重複**　H－10・12と重複しており、新旧関係はH－12→本遺構→H－10である。　**出土遺物**　覆土中より土師器・須恵器が出土。須恵器坏（1）、床面出土の円盤状鉄製品（2）を図示。　**時期**　重複関係・出土遺物から9世紀以前と想定される。

Ｈ－12号住居跡（Fig. 9・10・23、PL10）

位置　X 61、Y 184･185　**主軸方向**　N－13°－E　**規模**　南北軸（2.38）m、東西軸（1.21）m、壁現高0.21 m。大部分がH－12により消失、北東隅のみ確認。　**面積**　（1.24）㎡　**床面**　地山硬化床。　**重複**　H－10・11と重複しており、新旧関係は本遺構→H－10･11である。　**出土遺物**　少量であるが、土師器坏（1・2）を図示。**時期**　重複関係・出土遺物から古墳時代後期（6世紀末～7世紀初頭）と想定される。

Ｈ－13号住居跡（Fig.10・11・23、PL 2・10）

位置　X 62～64、Y 175・176　**主軸方向**　N－69°－E　**規模**　東西軸6.50 m、南北軸（4.88）m、壁現高0.35 m。南東側は調査区外。　**面積**　（20.59）㎡　**床面**　地山硬化床。竈前庭部は下位にH－14竈があるため暗褐色粘質土による貼床。　**竈**　東壁中央に位置。確認長1.26 m、燃焼部0.67 m。構築材として暗褐色粘質土を使用、袖は大部分が崩落しており下部のみが僅かに残存。燃焼部は焚口から浅く窪み、燃焼～煙道部は壁面を約0.50 m掘りこみ奥壁で緩やかに立ち上がる。　**壁周溝**　ほぼ全周で確認。床面からの深さは0.06 m前後。**貯蔵穴**　南東隅に位置するが大部分が調査区外の為、形状等は不明。　**主柱穴**　4基。深さはP1：（0.24）m、P2：0.67 m、P3：0.36 m、P4：0.84 m、柱穴間は1.36～2.99 mを測る。P2・4は柱抜き取りの痕跡あり、P4はP5の据え替えである。　**重複**　H－14・D－4と重複しており、新旧関係はH－14→本遺構→D－4である。**出土遺物**　土師器坏（1～4）･甕（5）、石製紡錘車（6）を図示。土師器坏（1）はいわゆる「模倣坏」である。土師器坏（2～4）は口縁部C字状に内湾する丸底のものである。　**時期**　出土遺物から7世紀代と想定される。**備考**　H－14の拡張住居と考えられる。

Ｈ－14号住居跡（Fig.11、PL 2）

位置　X 62～64、Y 176　**主軸方向**　N－58°－E　**規模**　東西軸4.60 m、南北軸4.25 m。上部をH－13により削平されているため壁現高不明。南東側は調査区外。　**面積**　（12.37）㎡　**床面**　地山硬化床。床面レベルはH－13と共通している。　**竈**　北東壁中央に位置。確認長1.23 m、燃焼部幅0.75 m。上部をH－13により削平されており竈底面が残存するのみ。燃焼部は壁面を約0.50 m掘り込み、焚口からやや深く（0.13 m）窪む。**壁周溝**　ほぼ全周で確認。床面からの深さは0.02 m前後。　**主柱穴**　4基。深さはP1：（0.56）m、P2：0.73 m、P3：0.57 m、P4：0.69 m、柱穴間は2.03～2.23 mを図る。P3底面では柱痕が2つ確認できるためP4と合わせて古い段階の柱穴と想定される。　**重複**　H－13・D－4と重複しており、新旧関係は本遺構→H－13→D－4である。　**出土遺物**　土師器小片微量。　**時期**　本遺構はH－13と主軸方向、竈・主柱穴の位置等の規格が共通している。H－13拡張前の住居と考えられるため7世紀以前と想定される。

Ｈ－15号住居跡（Fig.12・23、PL 3・10）

位置　X 64～66、Y 176　**主軸方向**　N－1°－E　**規模**　東西軸6.21 m、南北軸（1.49）m、壁現高0.32 m。南側は調査区外。　**面積**　（7.07）㎡　**床面**　地山硬化床。北西隅の一部に暗褐色土の貼床。　**壁周溝**　東壁・北壁東側で確認。床面からの深さは0.02 m前後。　**主柱穴**　2基。壁際のため底部まで確認できず。深さはP1：（0.18）m、P2：（0.43）m、柱穴間は（3.48）mを図る。　**出土遺物**　須恵器盤（1）、土師器坏（2）・

oumi035.indd　11　　2011/01/28　10:44:43

甕（３）を図示。　**時期**　出土遺物から７世紀と考えられる。

Ｈ－16号住居跡（Fig.12・23、PL ３・10）

位置　X 66・67、Y 175・176　**主軸方向**　N－70°－E　**規模**　東西軸 2.87 m、南北軸 3.08 m、壁現高 0.16 m。北西隅の一部が調査区外。　**面積**　（7.56）㎡　**床面**　地山硬化床、焚口前面での硬化が顕著。Ｈ－17との重複部分はロームブロック混じりの暗褐色土で貼床。　**竈**　東壁やや南よりに位置。確認長 0.90 m、燃焼部幅 0.71 m。残存状況は悪く、左袖の心材（凝灰質砂岩ブロック）が確認できるのみである。燃焼部は焚口から浅く窪み、燃焼～煙道部は壁面を約 0.20 m掘り込み奥壁で煙道へと立ち上がる。掘り方では袖部分のみ深く掘り込んでいる。**重複**　Ｈ－17と重複しており、新旧関係はＨ－17→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器蓋（１）を図示。　**時期**　重複関係・出土遺物から７世紀と想定される。

Ｈ－17号住居跡（Fig.13・23、PL ３・10・11）

位置　X 66・67、Y 174・175　**主軸方向**　N－62°－E　**規模**　東西軸 5.88 m、南北軸（3.66）m、壁現高 0.07 m。大部分が調査区外。　**面積**　（6.59）㎡　**床面**　ロームブロック混じりの暗褐色土の貼床。竈前面での硬化が顕著。貯蔵穴周辺では地山硬化床。　**竈**　東壁中央に位置。確認長 0.89 m、燃焼部幅不明。残存状況は悪く、袖の痕跡は確認できず。壁面を約 0.30 m掘りこみ煙道部としている。　**壁周溝**　ほぼ全周で確認。床面からの深さは 0.06 m前後。　**貯蔵穴**　南東隅に位置。上端は長方形、下端は正方形を呈する。内側に浅い段をがあり、蓋状のものを受けるための造作と考えられる。　**主柱穴**　１基。深さはP1：0.71 m。底面付近より土師器坏（１・２）、土師器甕（４）が出土。対応する柱穴は確認されず。　**重複**　Ｈ－16と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－16である。　**出土遺物**　「模倣坏」である土師器坏（１～３）と甕（４）を図示。　**時期**　重複関係・出土遺物から古墳時代後期（６世紀末～７世紀初頭）と想定される。

Ｈ－18号住居跡（Fig.14・24、PL ３・11）

位置　X 66～68、Y 176・177　主軸方向　N－72°－E　**規模**　東西軸 6.51 m、南北軸 5.97 m、壁現高 0.11 m。南西隅の一部が調査区外。　**面積**　（29.62）㎡　**床面**　地山硬化床。　**竈**　東壁やや南（古段階）と西壁（最終段階、調査区外）に位置する。最終段階の竈は周辺床面に焼土・灰が多く散在することからの想定である。古段階の竈は確認長 0.76 m、壁面から 0.70 m掘り込み煙道部としている。焼土・灰はほとんど確認されず。　**壁周溝**　ほぼ全周で確認。床面からの深さは 0.06～0.13 m。　**貯蔵穴**　北西隅に位置。平面方形、断面箱状を呈する。底面から土師器甕（２・３）が出土。また P7 は古段階の竈との位置関係から貯蔵穴と想定したが判然としない。　**主柱穴**　５基。深さはP1：0.60 m、P2：0.62 m、P3：0.53 m、P4：0.59 m、P5：0.57 m、柱穴間は 2.79～3.21 mを図る。P4 底面では柱痕が２つ確認できるため P2・3・5と合わせて古い段階の柱穴が想定される。**住居内施設**　P6 は最終段階の入り口ピットと想定される。　**重複**　Ｐ－31と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｐ－31である。　**出土遺物**　南壁際の床面出土の畿内産土師器坏（１）、貯蔵穴底面出土の甕（２・３）を図示。　**時期**　出土遺物から７世紀中頃と想定される。

Ｈ－19号住居跡（Fig.15・24、PL ３・11）

位置　X 68・69、Y 175・176　**主軸方向**　N－25°－W　**規模**　南北軸 4.10 m、東西軸 4.45 m、壁現高 0.25 m。南西隅はＩ－１により消失、北東隅は調査区外。　**面積**　（11.92）㎡　**床面**　暗褐色土の貼床。中央部の硬化が顕著。　**竈**　南壁中央に位置。確認長 0.64 m、燃焼部幅 0.47 m。構築材として褐色粘質土を使用。左袖は僅かに残存、右袖は崩落し確認できず。燃焼部は平坦、燃焼～煙道部は壁面を約 0.40 m掘りこみ煙道へと緩やかに立ち上がる　**住居内施設**　竈左脇の南壁で段（棚状施設か）を確認。幅 0.11 m前後、床面からの高さは約 0.10 m前後。南東部には床面から約 0.09 m前後下がる落ち込みが確認された。性格は不明。　**重複**　Ｉ－１と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｉ－１である。　**出土遺物**　土師器坏（１～３）を図示。　**時期**　出土遺物から古墳時代後期（６世紀末～７世紀初頭）と想定される。

oumi035.indd　12　　2011/01/28　10:44:43

Ｈ－20号住居跡（Fig.15・16・24、PL ３・４・11）

位置　X 69・70、Y 176　主軸方向　N－65°－E　規模　東西軸 5.06 m、南北軸 3.44 m、壁現高 0.13 m。南半部が調査区外。　面積　（9.99）㎡　床面　ほぼ全域で地山硬化床、竈付近のみ暗褐色土の貼床。全域で硬化面を検出。床面地山には中型の礫が混入している。　竈　東壁に位置。確認長 0.78 m、燃焼部 0.57 幅m。上面からの削平により煙道部は消失。構築材に褐色粘質土を使用。燃焼部は焚口から浅く窪み、燃焼～煙道部は壁面を掘り込まず煙道へと緩やかに立ち上がる。竈左脇には心材に使用されたと考えられる凝灰質砂岩切石・ブロックが散在する。　壁周溝　ほぼ全周で確認。床面からの深さは約 0.05 m前後。　重複　Ｈ－21 と重複しており、新旧関係はＨ－21→本遺構である。　出土遺物　土師器坏（１～３）を図示。　時期　出土遺物から古墳時代後期（６世紀末～７世紀初頭）と想定される。

Ｈ－21号住居跡（Fig.16）

位置　X 68・69、Y 176・177　主軸方向　N－19°－E　規模　東西軸 4.33 m、南北軸 3.15 m。長方形。上面からの削平により住居跡範囲確認のみ。北西隅をＨ－18、東端をＨ－20 により消失、南東側は調査区外。　面積　（8.16）㎡　床面　地山硬化床。一部暗褐色土の貼床。　重複　Ｈ－18・21 と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－18・21 である。　出土遺物　なし。　時期　出土遺物が無く判然としないが、重複関係より古墳時代後期以前と想定される。

Ｈ－22号住居跡（Fig.16、PL ４）

位置　X 72、Y 175・176　主軸方向　N－５°－W　規模　南北軸 4.17 m、東西軸（1.36）m、壁現高 0.25 m。東側が調査区外。　面積　（4.59）㎡　床面　地山硬化床。中央部での硬化が顕著。　壁周溝　西壁で確認。床面からの深さは約 0.03 m前後。　重複　Ｂ－１・２と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｂ－１・２である。出土遺物　土師器少量。　時期　出土遺物少量のため判然としない。

（２）掘立柱建物跡

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Fig.16、PL ４）

位置　X 71・72、Y 175・176　主軸方向　N－０°－E　規模　南北２間、東西２間の側柱建物と想定される。調査区外へと延びるため全体像は把握できず。南北軸（2.89）m、東西軸（3.86）m。　柱穴　４基。個別柱穴計測値は「Tab. ２　１区　掘立柱建物跡計測表」を参照。柱穴間は 1.78 ～ 1.91 mを測る。　重複　Ｈ－22、Ｂ－２と重複しているが新旧関係は不明。　出土遺物　なし。　時期　不明。

Ｂ－２号掘立柱建物跡（Fig.17、PL ４）

位置　X 70 ～ 72、Y 176　主軸方向　N－66°－W　規模　南北２間、東西３間の柱穴間に布堀を持つ側柱建物。南側へ延びると考えられるが調査区外で確認できず。南北軸（3.56）m、東西軸 5.27 m。　柱穴　７基。P1・7 は壁際であるため不明であるが全て平面楕円形、断面箱状を呈する。コーナーにあたる P2・5 は底面に柱の部分を一段掘り窪めた痕跡があり、P2 では断面で柱痕が確認できる。他の柱穴では明確な柱のあたりは検出できず。個別柱穴計測値は「Tab. ２　１区　掘立柱建物跡計測表」を参照。　布掘　全ての柱穴間で確認。深さは P1 － P2 が 0.30 m、他は約 0.15 m前後を測る。P6 － P7 では掘り方が確認されており、にぶい黄褐色土により他の底面高と整合させている。　重複　Ｈ－22、Ｂ－１と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－22 である。Ｂ－１とは不明。　出土遺物　なし。　時期　出土遺物少量、重複関係も不明な点が多いため判然としない。

（３）溝

Ｗ－１号溝（Fig.17・18、PL ４）

位置　X 60・61・67 ～ 69、Y 178 ～ 181　主軸方向　N－85°－W　規模　長さ（37.21）m、最大幅 7.59 m、

oumi035.indd　13　　2011/01/28　10:44:43

下幅 4.10 m、深さ（西側）1.46 m（東側）1.27 m。調査区域外を挟んで東西で確認。　**形状等**　ほぼ直線的に延びる。断面幅広の逆台形、底面は比較的平坦、南側がやや低い段状を呈する。　**覆土**　暗褐色砂質土を基調としているが、西側では堀底である総社砂層やローム等の土（27 ～ 36 層）が版築状に堆積している。　**重複**　Ｈ－３・４と重複しており、新旧関係はＨ－３・４→本遺構である。　**出土遺物**　陶器類小片少量。　**時期**　蒼海城に関係する堀跡であることから中世と想定される。　**備考**　土層観察から少なくとも３時期に想定される。本遺構は元総社小見Ⅲ遺跡５区Ｗ－３の西側延伸部と考えられる。

Ｗ－２号溝（Fig.18）

位置　Ｘ 59 ～ 61、Ｙ 176・177　**主軸方向**　Ｎ－ 90°－Ｅ　**規模**　長さ（8.62）m、最大幅 1.48 m、下幅 0.93 m、深さ（西側）0.44 ～ 50 m（東側）0.41 ～ 0.44 m。中央部に 2.00 m幅で土橋状の未掘削部分がある。　**形状等**　東西方向に直線的に延びる。断面逆台形、底面は比較的平坦。　**覆土**　褐色砂質土を基調としている。上層に As-A を確認。　**重複**　Ｈ－２、Ｗ－３と重複しており、新旧関係はＨ－２→本遺構である。Ｗ－３とは不明。　**時期**　重複関係・土層観察より中世以降と想定される。　**出土遺物**　土師器小片等少量。

Ｗ－３号溝（Fig.18）

位置　Ｘ 59 ～ 62、Ｙ 176　**主軸方向**　Ｎ－ 85°－Ｅ　**規模**　長さ（11.15）m、最大幅 1.00 m、下幅 0.74 m、深さ（西側）0.14 ～ 0.28 m（東側）0.05 ～ 0.20 m。中央部に 3.56 m幅で土橋状の未掘削部分がある。東西方向に調査区外へと延びる。Ｗ－２と並走している。　**形状等**　断面浅い幅広のＵ字状を呈し、底面は平坦。　**重複**　Ｈ－２、Ｗ－２と重複しており、新旧関係はＨ－２→本遺構である。Ｗ－２とは不明。　**出土遺物**　土師器小片等少量。　**時期**　重複関係・土層観察より中世以降と想定される。

Ｗ－４号溝（Fig.18）

位置　Ｘ 67・68、Ｙ 173　**主軸方向**　Ｎ－ 88°－Ｅ　**規模**　長さ（5.54）m、最大幅（061）m、下幅 0.39 m、深さ 0.27 m。　**形状等**　東西方向にほぼ直線的に延びる。断面箱状を呈し、底面は平坦。　**出土遺物**　なし。　**時期**　土層観察より中世以降と想定される。

（4）落ち込み

Ｏ－１号落ち込み（Fig.19）

位置　Ｘ 68・69、Ｙ 182・183　**主軸方向**　Ｎ－ 89°－Ｗ　**規模**　東西軸（3.88）m、南北軸（3.11）m、深さ 0.33 m。東側は調査区外。　**形状等**　中央は楕円状に窪み、西側にはテラス状の段が付随する。　**重複**　Ｄ－３と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｄ－３である。　**出土遺物**　土師器小片等少量。　**時期**　中世以降と想定される。

（5）土壙墓

ＤＢ－１号土壙墓（Fig.19・24、PL11）

位置　Ｘ 69、Ｙ 184　**主軸方向**　Ｎ－ 28°－Ｗ　**規模**　南北軸 1.10 m、東西軸 0.91 m　**形状等**　隅丸方形。　**人骨出土状況**　残存状況は悪く、頭部片は確認できたものの他は小片で部位の特定できず。　**出土遺物**　人骨直下より古銭（１～６）。　**時期**　出土遺物から中世と想定される。

（6）井戸、土坑、ピット（Fig.14・18 ～ 20・25、PL11）

井戸、土坑、ピットの計測値については「Tab. 3　１区　井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

oumi035.indd　14　　2011/01/28　10:44:43

Tab.2　1区　掘立柱建物跡計測表

B－1号掘立柱建物跡

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物	備考
P1	X72、Y177	0.49	(0.41)	0.28	方形		
P2	X72、Y177	0.46	0.43	0.26	円形		
P3	X72、Y176・177	0.44	0.44	0.25	円形		
P4	X73、Y176・177	0.49	0.46	0.28	円形		

B－2号掘立柱建物跡

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物	備考
P1	X70、Y176	(0.69)	(0.27)	0.43	楕円形		
P2	X70、Y176	1.07	0.92	0.58	不整形		柱痕確認。
P3	X71、Y176	0.94	0.56	0.43	長方形		
P4	X71、Y176	0.92	0.75	0.34	楕円形		
P5	X71、Y176	1.02	0.81	0.52	楕円形		
P6	X72、Y176	1.07	0.68	0.36	楕円形		
P7	X72、Y176	(0.59)	(0.35)	0.27	長方形		

Tab.3　1区　井戸･土坑･ピット計測表

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物	備考
I－1	X68、Y175・176	1.77	1.77	(4.00)	円形		
I－2	X60・61、Y175	1.20	0.85	2.40	楕円形		
D－1	X58・59、Y176・177	0.94	0.67	0.40	不整形		
D－2	X59、Y177	1.24	1.06	0.39	不整形	鉄製手斧	
D－3	X70、Y183	1.21	0.85	(1.05)	楕円形		
D－4	X64、Y176・177	2.48	1.36	0.28	長方形		
D－5	X64、Y176	0.85	0.68	0.35	長方形		
D－6	X70、Y186	1.50	1.12	0.31	長方形		
D－7	X69、Y186	(1.26)	(0.83)	0.45	長方形		
D－8	X69・70、Y183	(1.54)	0.86	0.20	楕円形		
D－9	X68、Y176・177	1.09	0.94	0.64	不整形		断面袋状。
D－10	X62、Y184・185	1.53	(1.24)	0.40	楕円形		
P－1	X64・65、Y176	0.48	0.44	0.33	円形		
P－2	X65、Y176	0.58	0.53	0.28	円形		
P－3	X65、Y176	0.47	0.46	0.26	円形		
P－4	X65・66、Y176	0.71	0.46	0.26	不整形		
P－5	X65・66、Y176	0.44	0.42	0.33	円形		
P－6	X66、Y177	0.39	0.37	0.35	円形		
P－7	X66、Y177	0.69	0.59	0.31	円形		
P－8	X66、Y176	0.48	0.45	0.24	円形		
P－9	X66・67、Y176	0.54	0.45	0.24	楕円形		
P－10	X67、Y176	0.48	0.39	0.24	楕円形		
P－11	X70、Y186	0.40	0.40	0.15	円形		
P－12	X70、Y186	0.43	0.39	0.15	円形		
P－13	X70、Y186	0.44	0.39	0.37	方形		
P－14	X69・70、Y186	0.48	0.47	0.29	円形		
P－15	X69、Y186	0.40	0.34	0.16	円形		
P－16	X69、Y186	0.45	(0.21)	0.64	楕円形		
P－17	X69、Y186	0.43	0.36	0.21	方形		
P－18	X69、Y186	0.62	0.35	0.42	長方形		
P－19	X69、Y186	0.34	(0.26)	0.41	楕円形		
P－20	X69、Y186	0.47	(0.29)	0.49	長方形		
P－21	X70、Y185	0.39	0.36	0.21	円形		
P－22	X70、Y185	0.42	0.36	0.19	円形		
P－23	X69、Y184	0.40	0.40	0.18	円形		
P－24	X69、Y184	0.48	0.46	0.19	円形		
P－25	X70、Y184	0.51	0.48	0.26	円形		
P－26	X69、Y179	0.54	0.53	0.26	円形		
P－31	X68、Y177	0.63	(0.44)	0.21	楕円形		
P－32	X68、Y175	0.40	0.36	0.35	方形		
P－33	X69、Y175	0.29	0.28	0.30	方形		
P－34	X69、Y176	0.51	0.44	0.23	円形		
P－35	X68、Y177	0.44	0.37	0.22	方形		
P－36	X68・69、Y176・177	0.42	0.35	0.17	楕円形		
P－37	X69、Y186	0.47	0.41	0.49	方形		

※P－27～30は欠番。

oumi035.indd　15　　2011/01/28　10:44:44

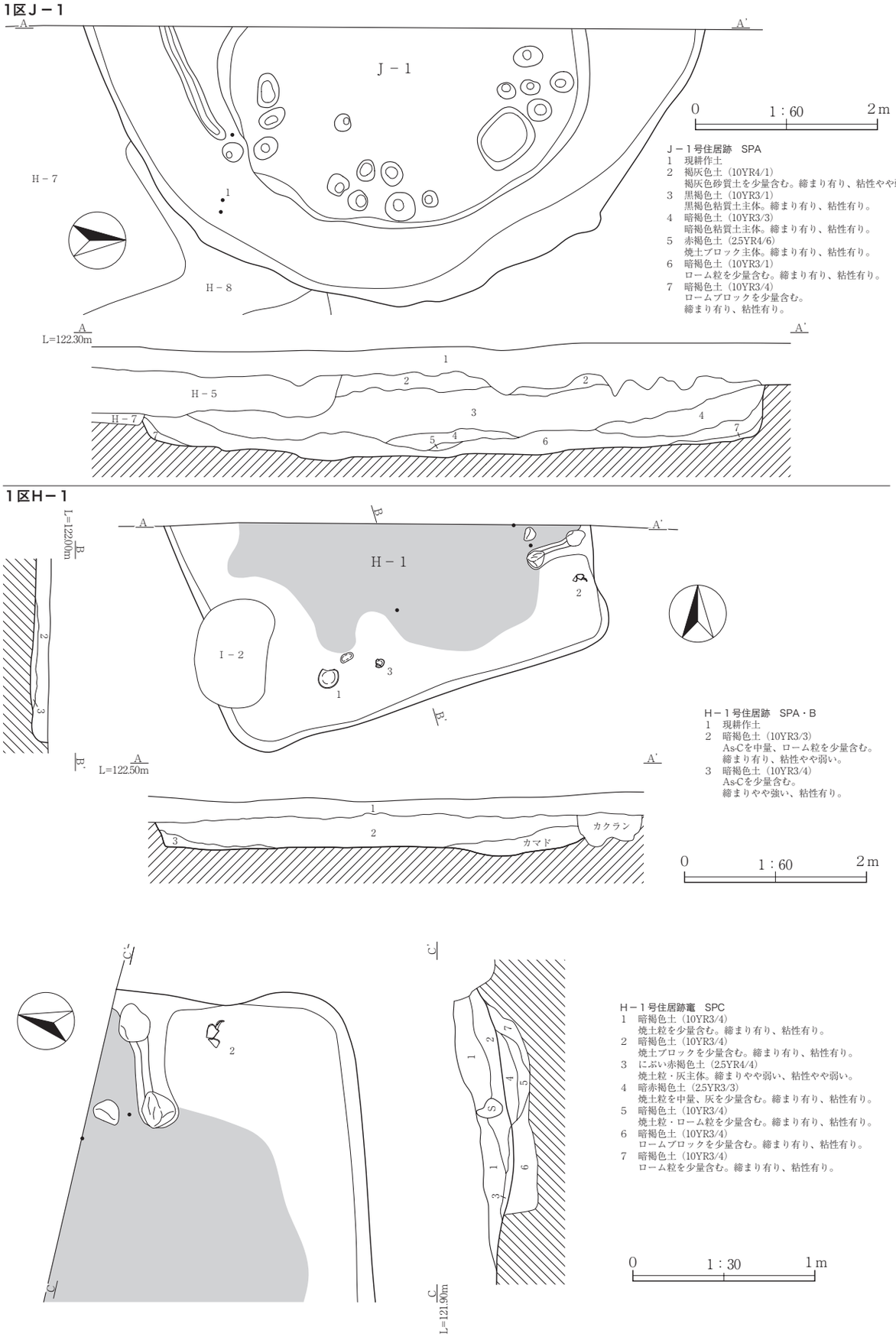


Fig.6　１区　Ｊ－１・Ｈ－１号住居跡

oumi035.indd　16　　2011/01/28　10:44:44

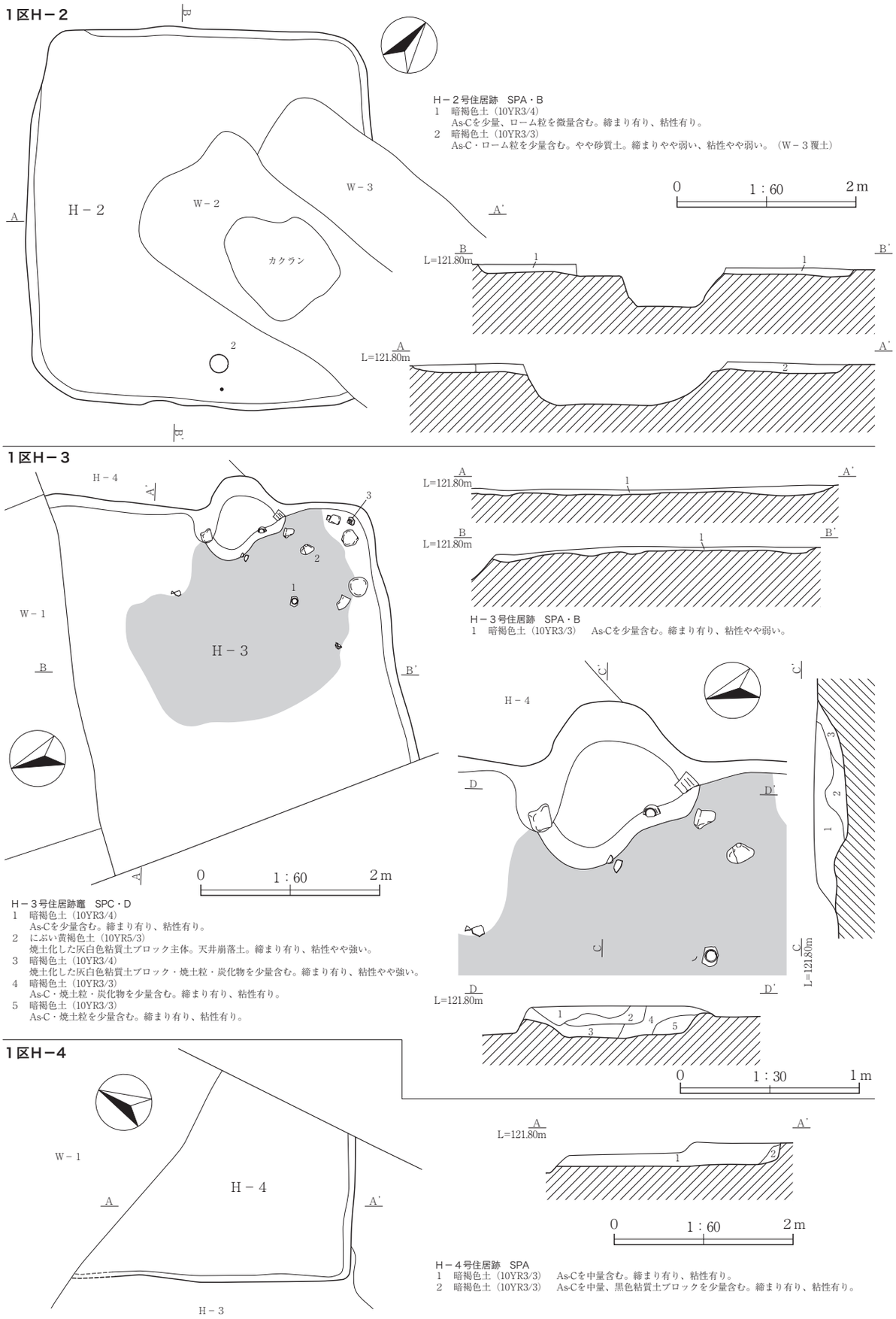
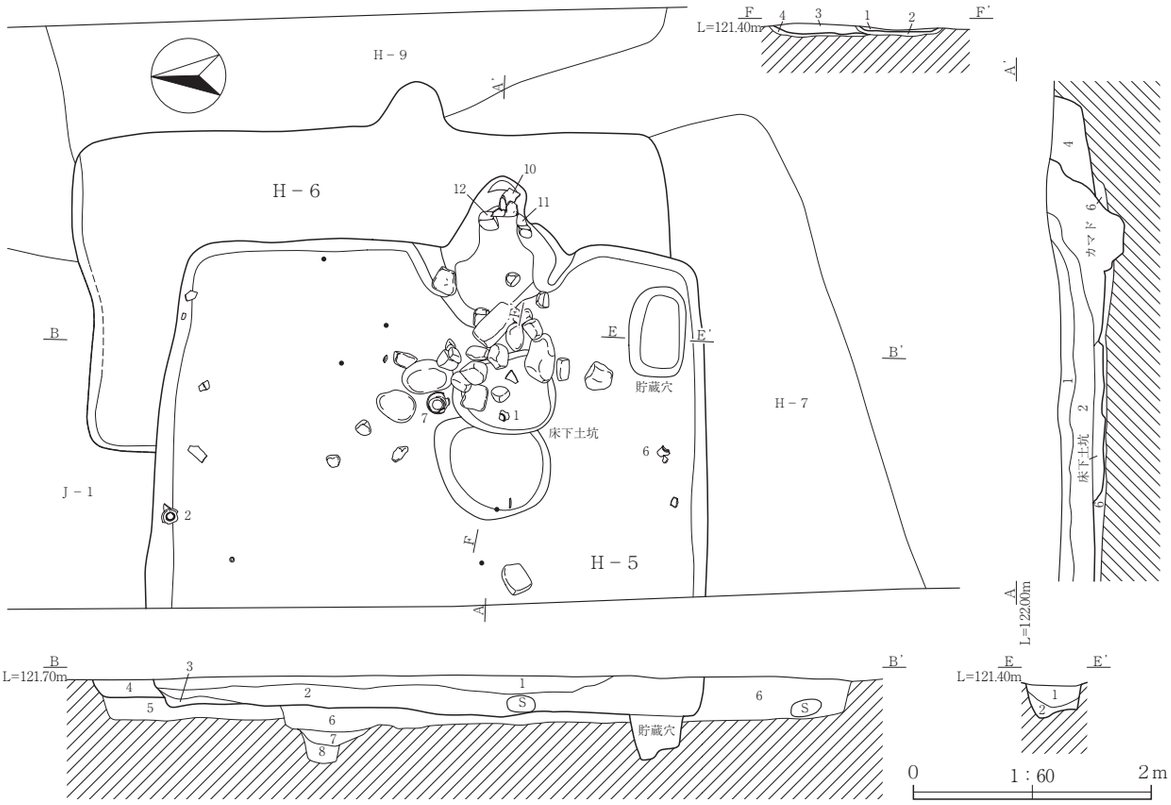


Fig.7　1区　H－2～4号住居跡

oumi035.indd　17　2011/01/28　10:44:45

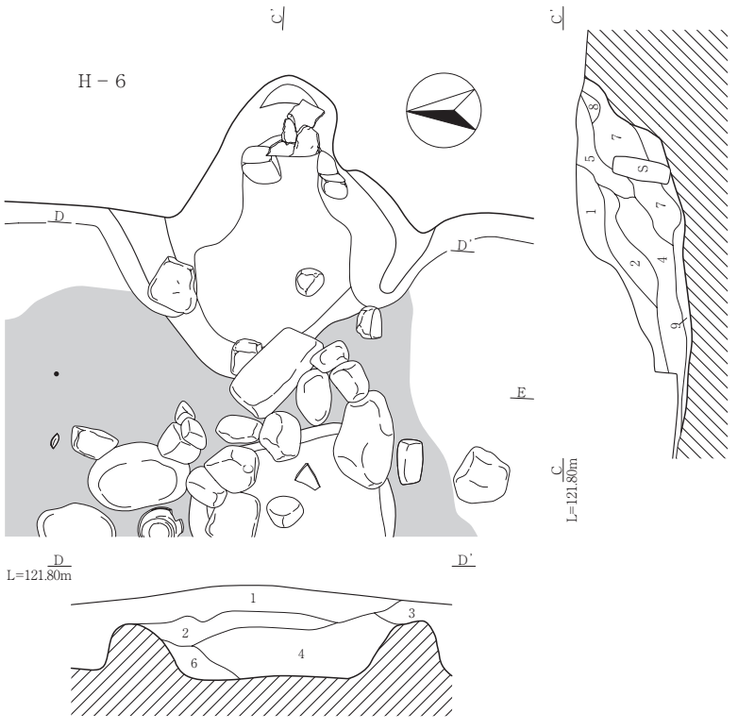
3区H－5・6



H－５・６号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを中量、ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。（H－６）
5　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性有り。（H－８）
6　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。（H－７）
7　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。（H－７）
8　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。（H－７）

H－５号住居跡貯蔵穴　SPE
1　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。

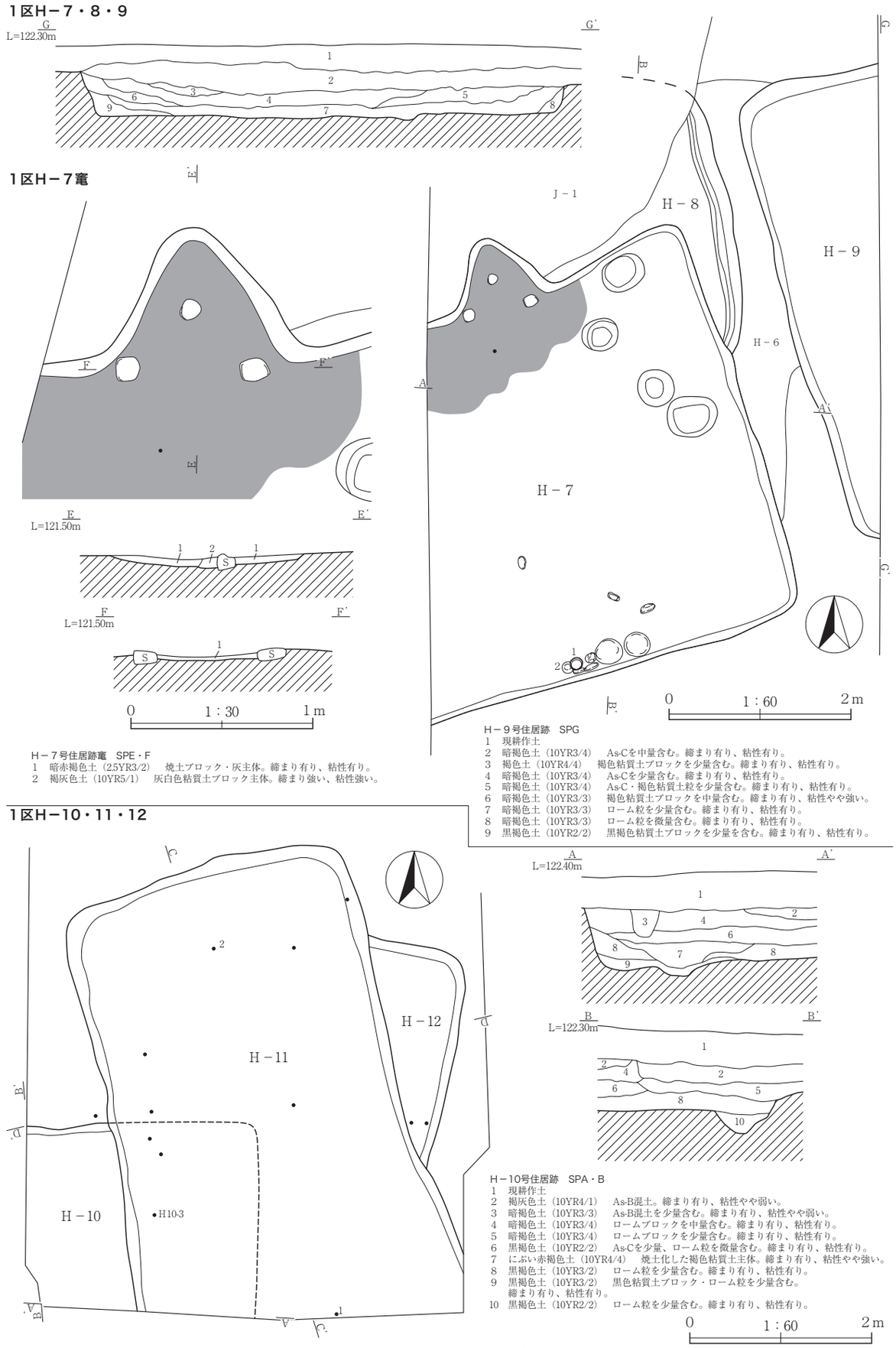
H－５号住居跡床下土坑　SPF
1　暗褐色土（10YR3/4）　灰白色粘質土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土（10YR5/2）　灰白色粘質土主体。締まり強い、粘性強い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　灰白色粘質土粒少量、炭化物を微量含む。
4　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　灰白色粘質土主体。締まり強い、粘性強い。



H－５号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・ロームブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）
　灰黄褐色粘質土ブロック主体。天井崩落土。
　締まりやや強い、粘性強い。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）
　灰黄褐色粘質土ブロック主体。袖崩落土か。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
4　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗赤褐色土（2.5YR3/3）
　被熱した灰黄褐色粘質土ブロック主体。天井崩落土。
　締まり強い、粘性強い。
6　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
7　暗赤褐色土（2.5YR3/3）
　被熱した灰黄褐色粘質土ブロックを中量含む。
　締まりやや強い、粘性強い。
8　赤褐色土（2.5YR4/6）
　焼土ブロック主体。締まり有り、粘性有り。
9　暗赤灰色土（2.5YR3/1）
　焼土粒・灰主体。締まり有り、粘性有り。

Fig.8　１区　H－５・６号住居跡

oumi035.indd　18　　2011/01/28　10:44:45



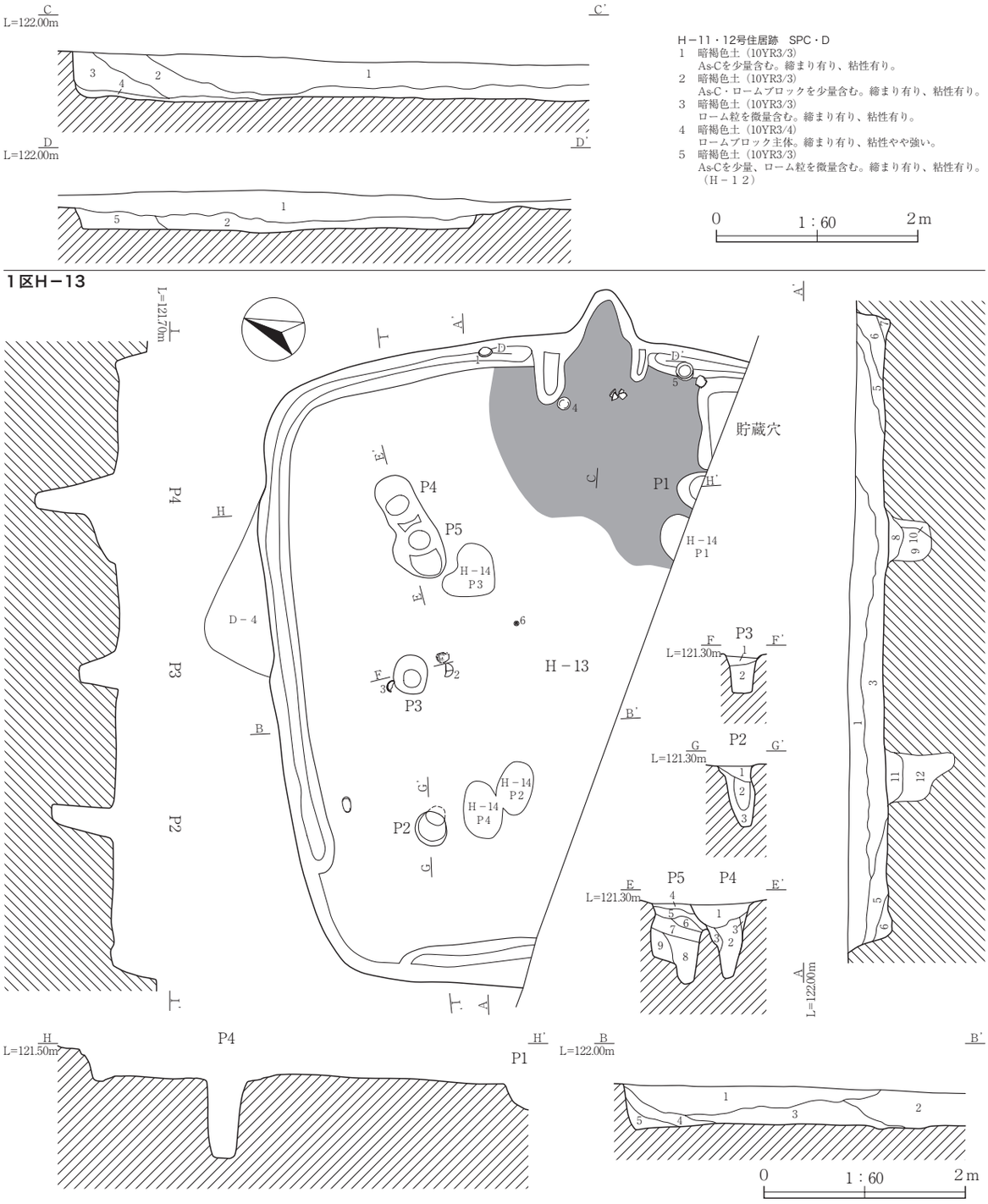
H－７号住居跡竈　SPE・F
1　暗赤褐色土（2.5YR3/2）　焼土ブロック・灰主体。締まり有り、粘性有り。
2　褐灰色土（10YR5/1）　灰白色粘質土ブロック主体。締まり強い、粘性強い。

H－９号住居跡　SPG
1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを中量含む。締まり有り、粘性有り。
3　褐色土（10YR4/4）　褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・褐色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/3）　褐色粘質土ブロックを中量含む。締まり有り、粘性やや強い。
7　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
8　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
9　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色粘質土ブロックを少量を含む。締まり有り、粘性有り。

H－10号住居跡　SPA・B
1　現耕作土
2　褐灰色土（10YR4/1）　As-B混土。締まり有り、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）　As-B混土を少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
6　黒褐色土（10YR2/2）　As-Cを少量、ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
7　にぶい赤褐色土（10YR4/4）　焼土化した褐色粘質土主体。締まり有り、粘性やや強い。
8　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
9　黒褐色土（10YR3/2）　黒色粘質土ブロック・ローム粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
10　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.9　１区　H－７～12号住居跡

oumi035.indd　19　　2011/01/28　10:44:46



H－13号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ロームブロックを微量含む。
締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を中量、As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性あり。
5　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒を少量、炭化物を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
8　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　総社砂層ブロックを少量含む。
締まりやや強い、粘性やや強い。（H－14P3）
9　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　総社砂層土主体。
締まり有り、粘性有り。（H－14P3）
10　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　総社砂層ブロック主体。
締まり有り、粘性有り。（H－14P3）
11　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック少量含む。
締まり強い、粘性強い。（H－14P2）
12　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　総社砂層ブロック主体。
締まり有り、粘性有り。（H－14P2）

H－13号住居跡P4・5　SPE
1　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR3/1）　ロームブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
3　灰黄褐色土（10YR6/2）　暗褐色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
4　灰黄褐色土（10YR6/2）　総社砂層ブロック主体。暗褐色土ブロックを微量含む。
締まり有り、粘性やや弱い。
5　灰黄褐色土（10YR6/2）　総社砂層ブロック主体。締まり有り、粘性やや弱い。
6　灰黄褐色土（10YR5/2）　総社砂層ブロック主体。締まり有り、粘性やや弱い。
7　灰黄褐色土（10YR4/2）　総社砂層ブロック主体。暗褐色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
8　灰黄褐色土（10YR4/2）　総社砂層ブロック主体。暗褐色土ブロック・ロームブロックを少量含む。
締まり有り、粘性やや弱い。
9　灰黄褐色土（10YR6/2）　総社砂層ブロック主体。締まり有り、粘性やや弱い。

H－13号住居跡P3　SPF
1　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　総社砂層ブロック主体。暗褐色土ブロック・ロームブロックを少量含む。
締まり有り、粘性やや弱い。

H－13号住居跡P2　SPG
1　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR3/1）　ロームブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
3　灰黄褐色土（10YR6/2）　暗褐色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。

Fig.10　1区　H－11～13号住居跡

oumi035.indd　20　　2011/01/28　10:44:46

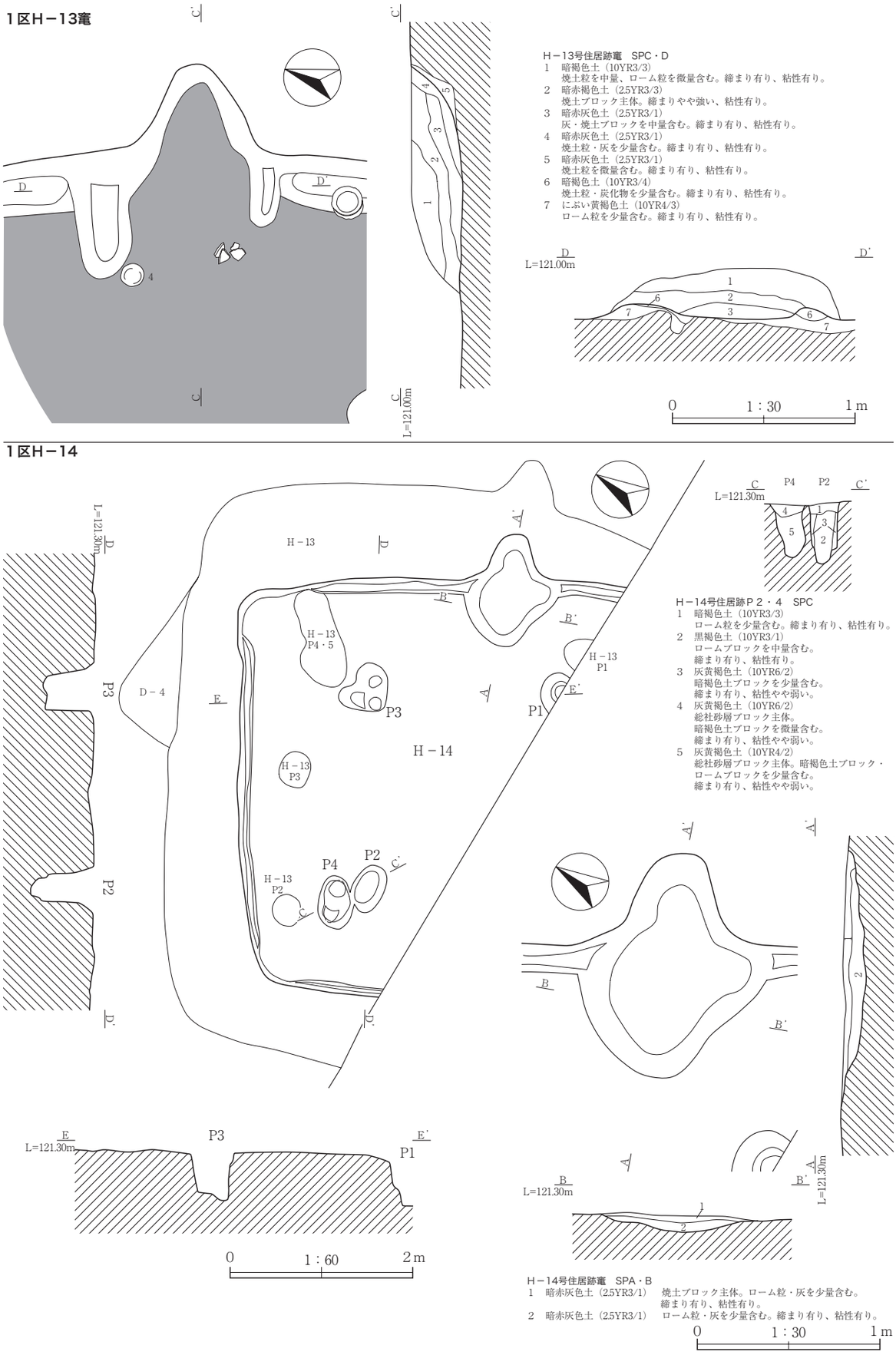
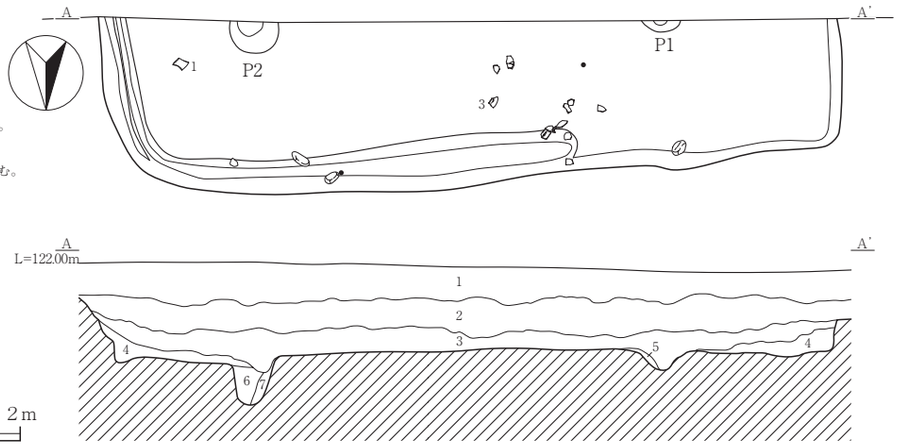


Fig.11　1区　H－13号住居跡竈、H－14号住居跡

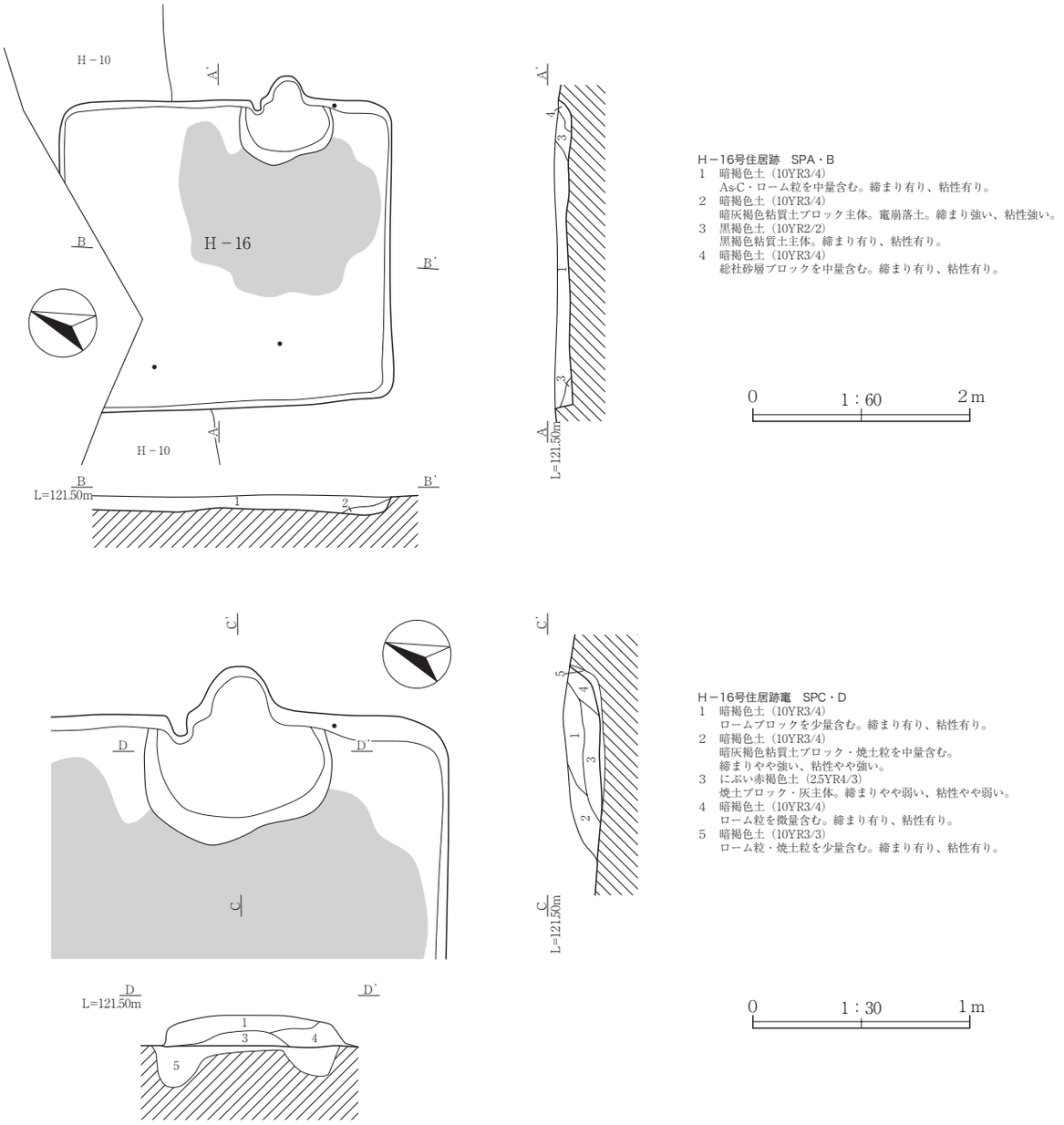
oumi035.indd　21　　2011/01/28　10:44:47

1区H－15



H－15号住居跡　SPA
1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/4）
　As-Cを中量、ローム粒・焼土粒を微量含む。
　締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒を少量、As-Cを微量含む。
　締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/3）
　ロームブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
7　黒褐色土（10YR2/2）
　ロームブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性やや強い。

1区H－16



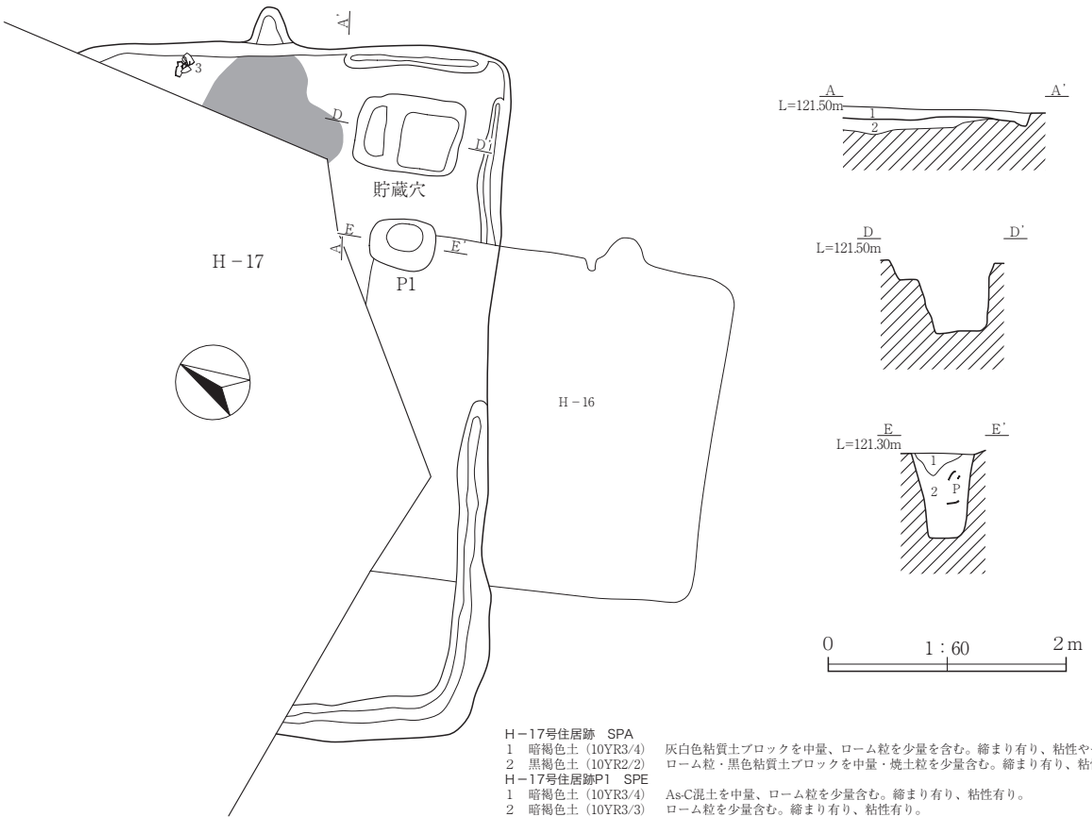
H－16号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）
　As-C・ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　暗灰褐色粘質土ブロック主体。竈崩落土。締まり強い、粘性強い。
3　黒褐色土（10YR2/2）
　黒褐色粘質土主体。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。

H－16号住居跡竈　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/4）
　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　暗灰褐色粘質土ブロック・焼土粒を中量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
3　にぶい赤褐色土（2.5YR4/3）
　焼土ブロック・灰主体。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

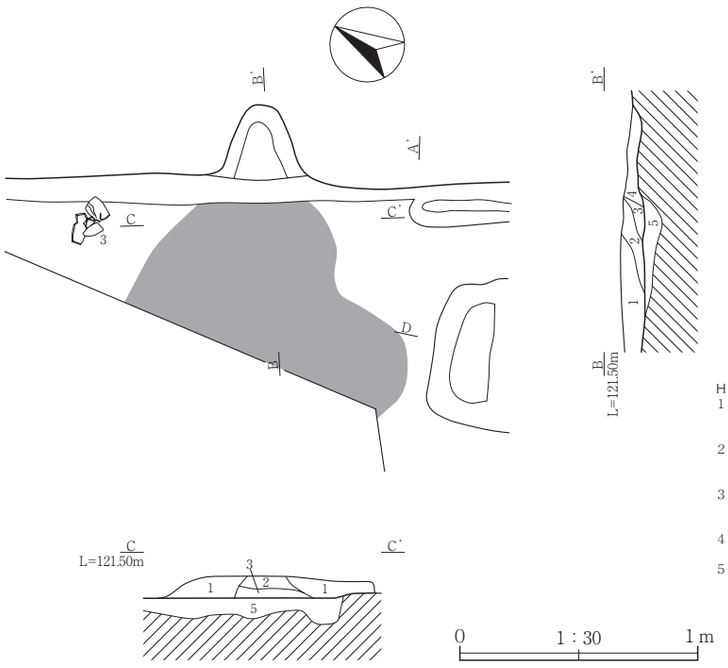
Fig.12　1区　H－15・16号住居跡

oumi035.indd　22　　2011/01/28　10:44:47

1区H－17



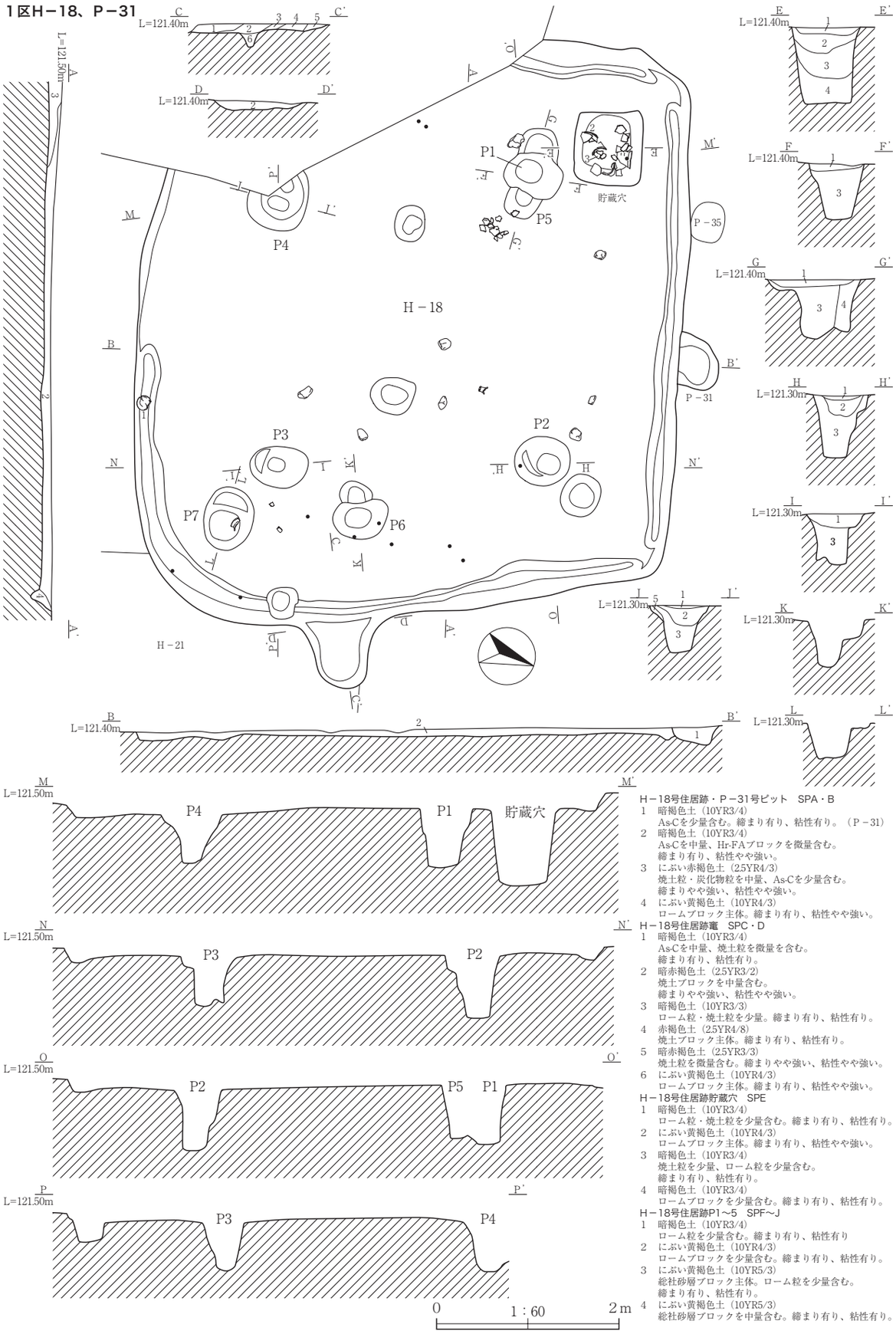
H－17号住居跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　灰白色粘質土ブロックを中量、ローム粒を少量を含む。締まり有り、粘性やや強い。
2　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒・黒色粘質土ブロックを中量・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
H－17号住居跡P1　SPE
1　暗褐色土（10YR3/4）　As-C混土を中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。



H－17号住居跡竈　SPB・C
1　暗褐色土（10YR3/4）
灰白色粘質土ブロックを中量、ローム粒を少量を含む。
締まり有り、粘性やや強い。
2　黒褐色土（10YR3/1）
灰主体。焼土ブロックを少量含む。
締まりやや弱い、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
焼土粒・灰を中量含む。
締まりやや弱い、粘性やや弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）
ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.13　1区　H－17号住居跡

oumi035.indd　23　　2011/01/28　10:44:48



H－18号住居跡・P－31号ピット　SPA・B

1　暗褐色土（10YR3/4）
　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。（P－31）
2　暗褐色土（10YR3/4）
　As-Cを中量、Hr-FAブロックを微量含む。
　締まり有り、粘性やや強い。
3　にぶい赤褐色土（2.5YR4/3）
　焼土粒・炭化物粒を中量、As-Cを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　ロームブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。

H－18号住居跡竈　SPC・D

1　暗褐色土（10YR3/4）
　As-Cを中量、焼土粒を微量を含む。
　締まり有り、粘性有り。
2　暗赤褐色土（2.5YR3/2）
　焼土ブロックを中量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒・焼土粒を少量。締まり有り、粘性有り。
4　赤褐色土（2.5YR4/8）
　焼土ブロック主体。締まり有り、粘性有り。
5　暗赤褐色土（2.5YR3/3）
　焼土粒を微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
6　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　ロームブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。

H－18号住居跡貯蔵穴　SPE

1　暗褐色土（10YR3/4）
　ローム粒・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　ロームブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒を少量、ローム粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

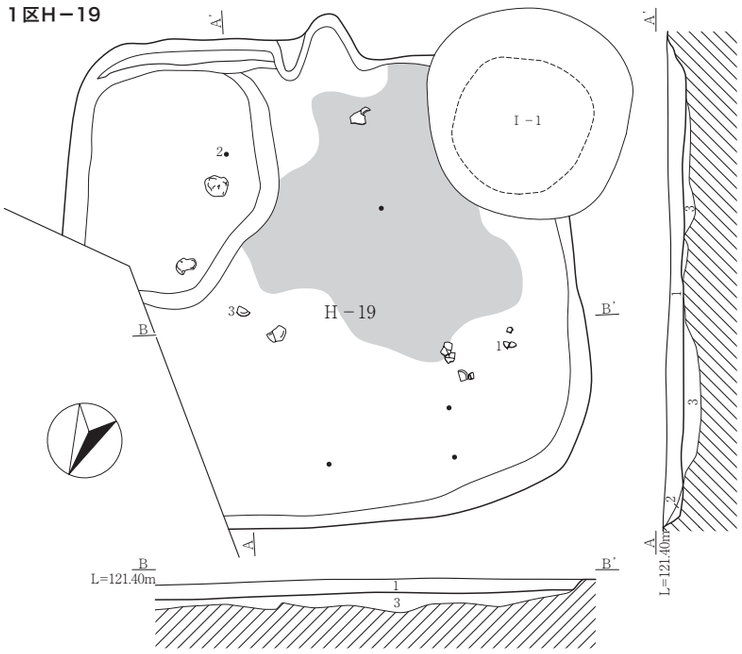
H－18号住居跡P1～5　SPF～J

1　暗褐色土（10YR3/4）
　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
　総社砂層ブロック主体。ローム粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
4　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
　総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.14　1区　H－18号住居跡、P－31号ピット

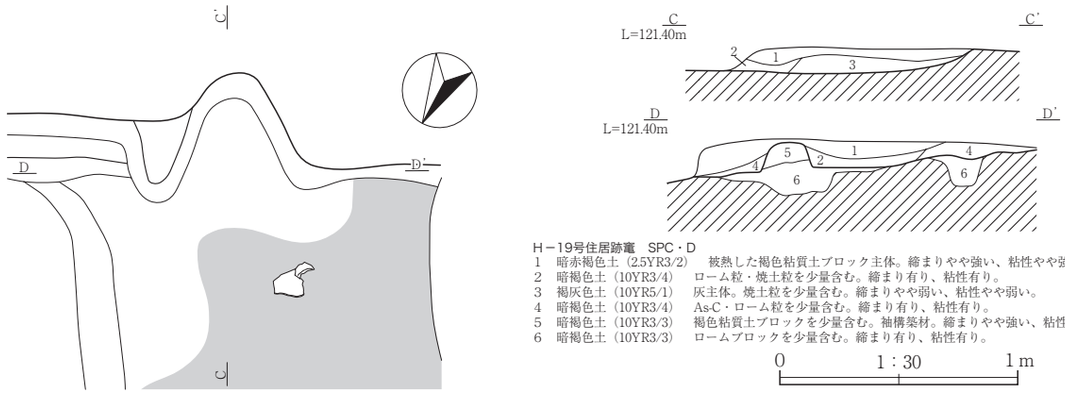
oumi035.indd　24　　2011/01/28　10:44:48

1区H－19



H－19号住居跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）
　As-C混土・ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性やや強い。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　ロームブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや強い。

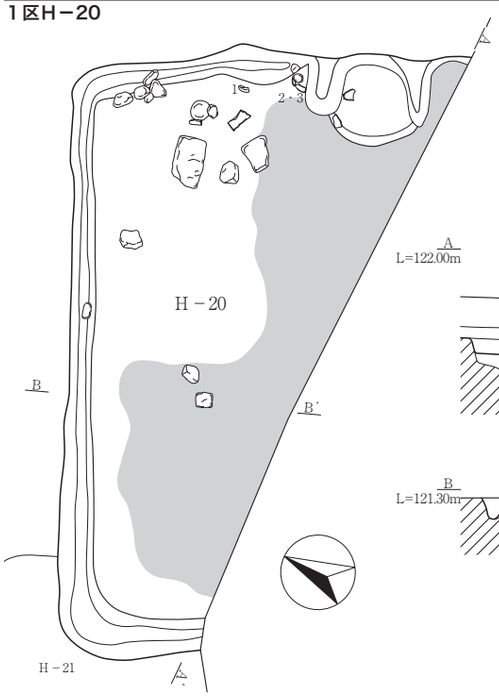
0　1：60　2m



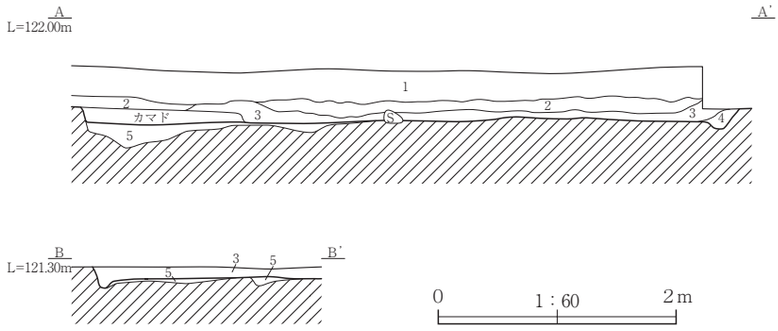
H－19号住居跡竈　SPC・D
1　暗赤褐色土（2.5YR3/2）　被熱した褐色粘質土ブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　褐灰色土（10YR5/1）　灰主体。焼土粒を少量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）　褐色粘質土ブロックを少量含む。袖構築材。締まりやや強い、粘性やや強い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

0　1：30　1m

1区H－20



H－20号住居跡　SPA・B
1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量、As-Cを微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・焼土粒を少量含む。締まりやや強い、粘性有り。



0　1：60　2m

Fig.15　1区　H－19・20号住居跡

oumi035.indd　25　　2011/01/28　10:44:49

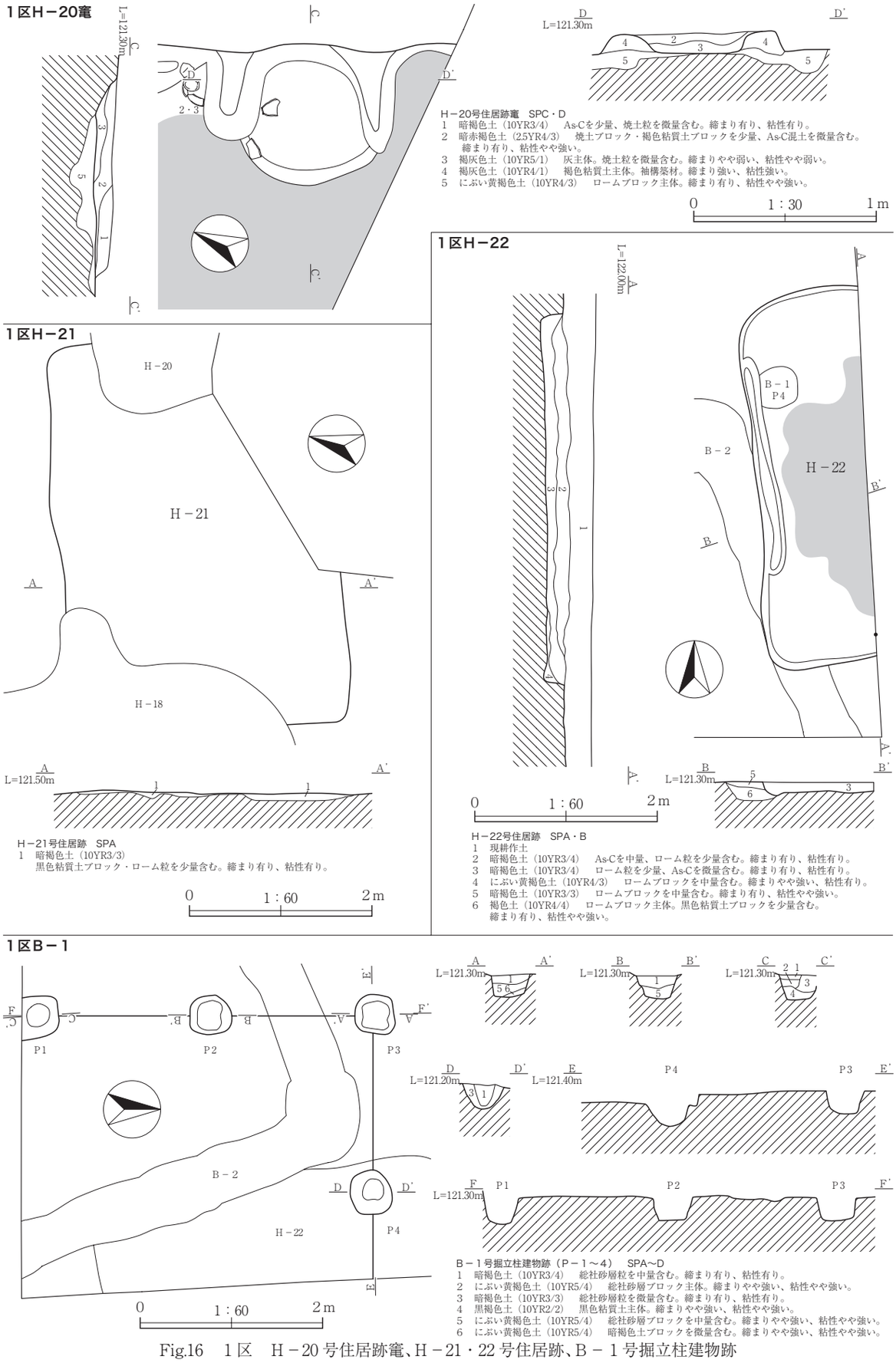


Fig.16　1区　H－20号住居跡竈、H－21・22号住居跡、B－1号掘立柱建物跡

oumi035.indd　26　　2011/01/28　10:44:49

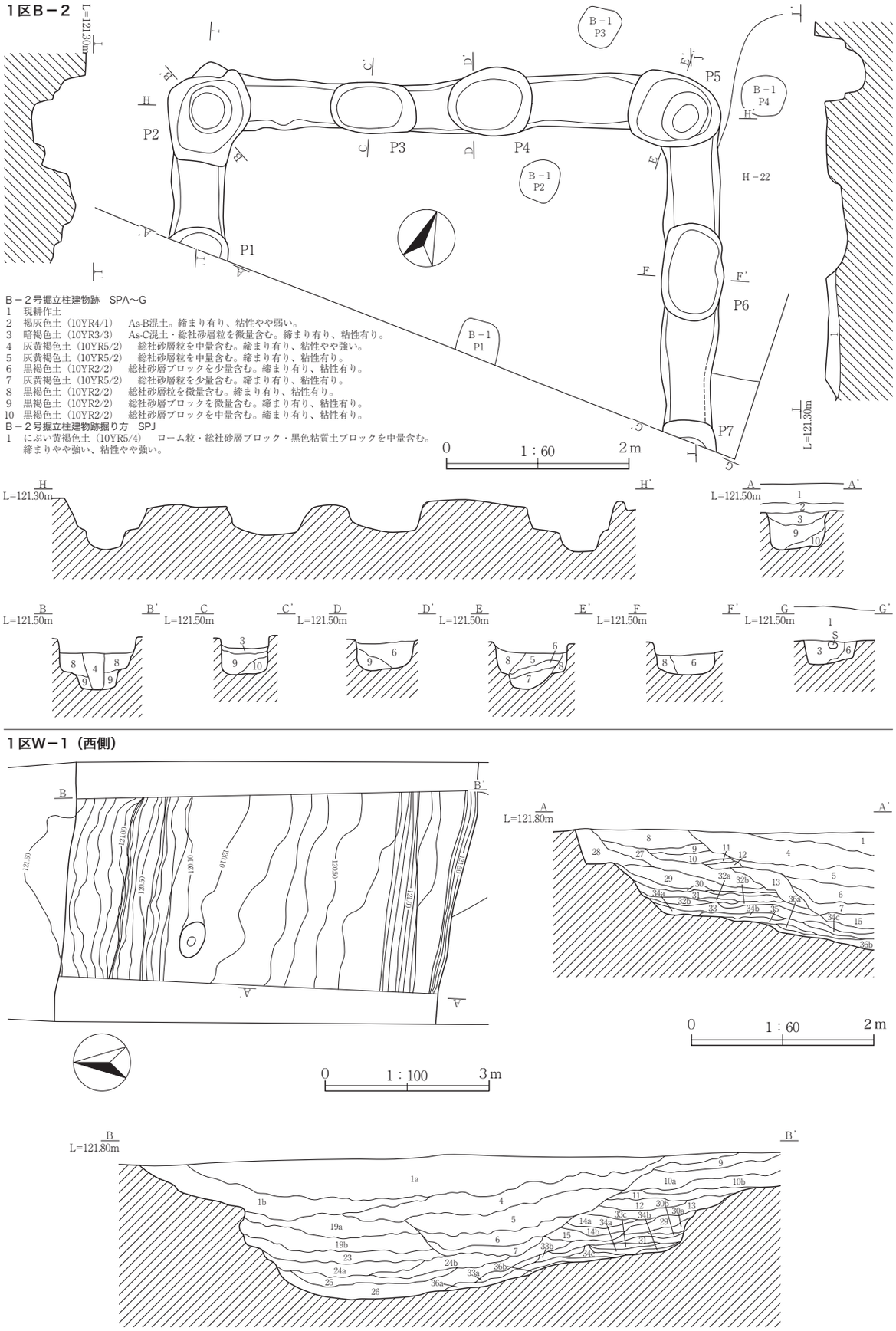
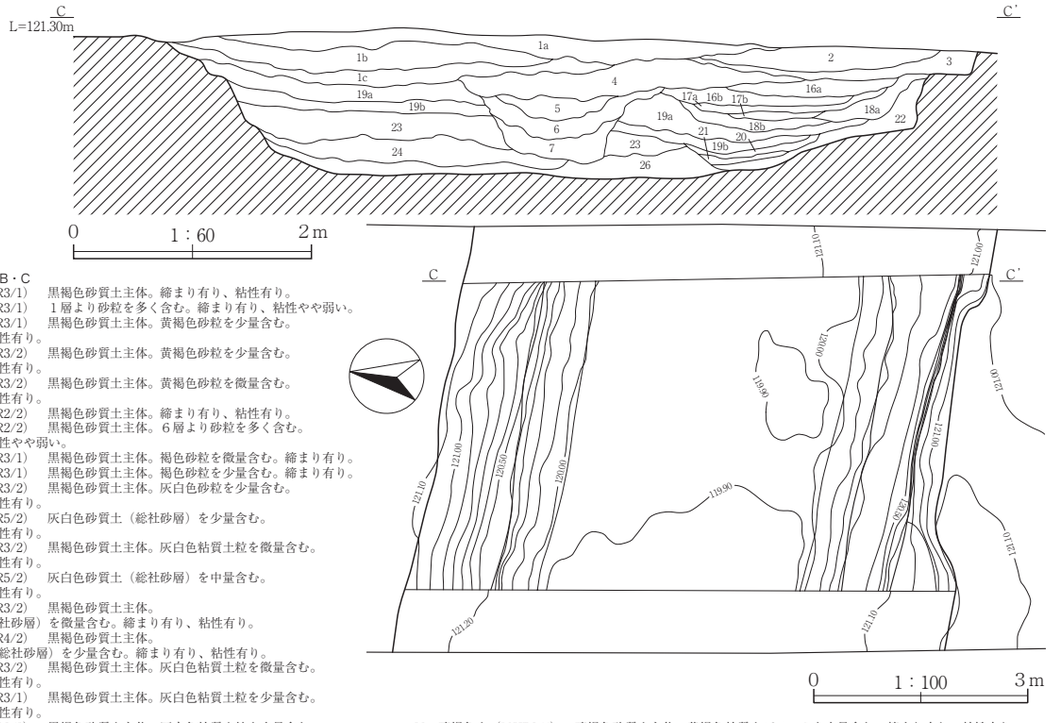


Fig.17　1区　B－2号掘立柱建物跡、W－1号溝

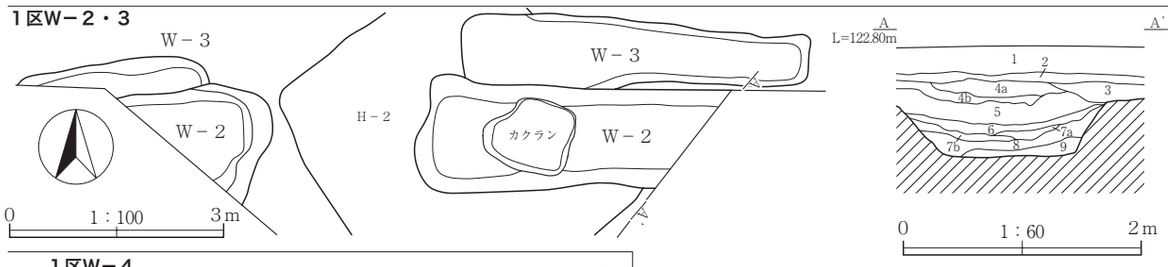
oumi035.indd　27　　2011/01/28　10:44:50

１区Ｗ－１（東側）

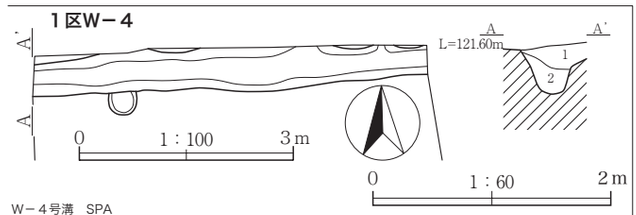


Ｗ－１号溝　SPA・B・C
1　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR3/1）　１層より砂粒を多く含む。締まり有り、粘性やや弱い。
3　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。黄褐色砂粒を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。黄褐色砂粒を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
5　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。黄褐色砂粒を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
6　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色砂質土主体。締まり有り、粘性有り。
7　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色砂質土主体。６層より砂粒を多く含む。
締まり有り、粘性やや弱い。
8　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。褐色砂粒を微量含む。締まり有り。
9　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。褐色砂粒を少量含む。締まり有り。
10　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。灰白色砂粒を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
11　褐灰色土（10YR5/2）　灰白色砂質土（総社砂層）を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
12　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。灰白色粘質土粒を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
13　褐灰色土（10YR5/2）　灰白色砂質土（総社砂層）を中量含む。
締まり有り、粘性有り。
14　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。
褐色砂質土（総社砂層）を微量含む。締まり有り、粘性有り。
15　褐灰色土（10YR4/2）　黒褐色砂質土主体。
灰白色砂質土（総社砂層）を少量含む。締まり有り、粘性有り。
16　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。灰白色粘質土粒を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
17　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。灰白色粘質土粒を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
18　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。灰白色粘質土粒を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
19　暗褐色土（10YR3/4）　黒褐色砂質土主体。灰白色粘質土粒を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
20　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。褐色砂質土（総社砂層）を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
21　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。褐色砂質土（総社砂層）を少量含む。
砂質土。締まり有り、粘性やや弱い。
22　黒褐色土（10YR3/1）　黒褐色砂質土主体。灰白色砂粒を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
23　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色砂質土主体。黄褐色粘質土粒を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
24　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色砂質土主体。
黄褐色・灰白色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
25　黒褐色土（10YR3/2）　黒褐色砂質土主体。
褐色砂質土（総社砂層）・黄褐色粘質土ブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。
26　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色砂質土主体。黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
27　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　褐色砂質土（総社砂層）主体。黄褐色・灰白色粘質土ブロックを中量含む。
締まり強い、粘性強い。
28　暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色砂質土主体。灰白色砂質土（総社砂層）を微量含む。締まり有り、粘性有り。
29　灰白色土（10YR7/1）　灰白色砂質土（総社砂層）主体。灰白色粘質土ブロックを中量含む。
締まり強い、粘性強い。
30　暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色砂質土主体。灰白色砂質土（総社砂層）を少量含む。締まり有り、粘性有り。
31　灰黄褐色土（10YR6/2）　灰白色砂質土（総社砂層）主体。黄褐色・灰白色粘質土ブロックを少量含む。
締まりやや強い、粘性やや強い。
32　灰黄褐色土（10YR6/2）　灰白色粘質土ブロック主体。褐色砂質土（総社砂層）を少量含む。
締まりやや有り、粘性やや強い。
33　黄褐色土（10YR5/6）　黄褐色砂質土（総社砂層）主体。黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
締まりやや強い、粘性やや強い。
34　黒褐色土（10YR2/3）　黒褐色砂質土主体。黄褐色砂質土（総社砂層）を少量含む。締まり有り、粘性有り。
35　黒褐色土（10YR2/3）　黒褐色砂質土主体。褐色砂質土（総社砂層）を少量含む。締まり有り、粘性有り。
36　黒褐色土（10YR2/3）　黒褐色砂質土主体。灰白色砂質土（総社砂層）を微量含む。締まり有り、粘性有り。

１区Ｗ－２・３



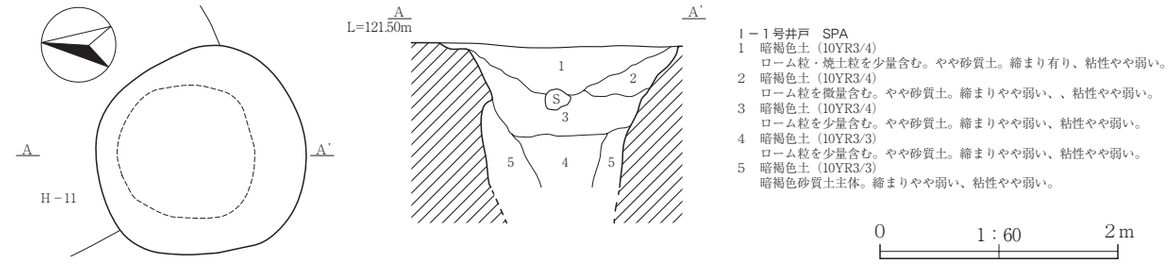
１区Ｗ－４



Ｗ－４号溝　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色砂質土主体。ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色砂質土主体。ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。

Ｗ－２号溝　SPA
1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-Aを微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　灰黄褐色（10YR4/2）　As-Aを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　褐灰色土（10YR4/1）　As-A主体。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
5　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　褐色砂質土主体。締まり有り、粘性有り。
6　黒褐色土（10YR3/2）　褐色砂質土を少量含む。締まりやや強い。粘性やや強い。
7　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　褐色砂質土主体。暗褐色粘質土を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
8　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色粘質土主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
9　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロックを少量含む。
締まりやや強い、粘性やや強い。

１区Ｉ－１



Ｉ－１号井戸　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）
ローム粒・焼土粒を少量含む。やや砂質土。締まり有り、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
ローム粒を微量含む。やや砂質土。締まりやや弱い、、粘性やや弱い。
3　暗褐色土（10YR3/4）
ローム粒を少量含む。やや砂質土。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
4　暗褐色土（10YR3/3）
ローム粒を少量含む。やや砂質土。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）
暗褐色砂質土主体。締まりやや弱い、粘性やや弱い。

Fig.18　１区　Ｗ－１～４号溝、Ｉ－１号井戸

oumi035.indd　28　　2011/01/28　10:44:51

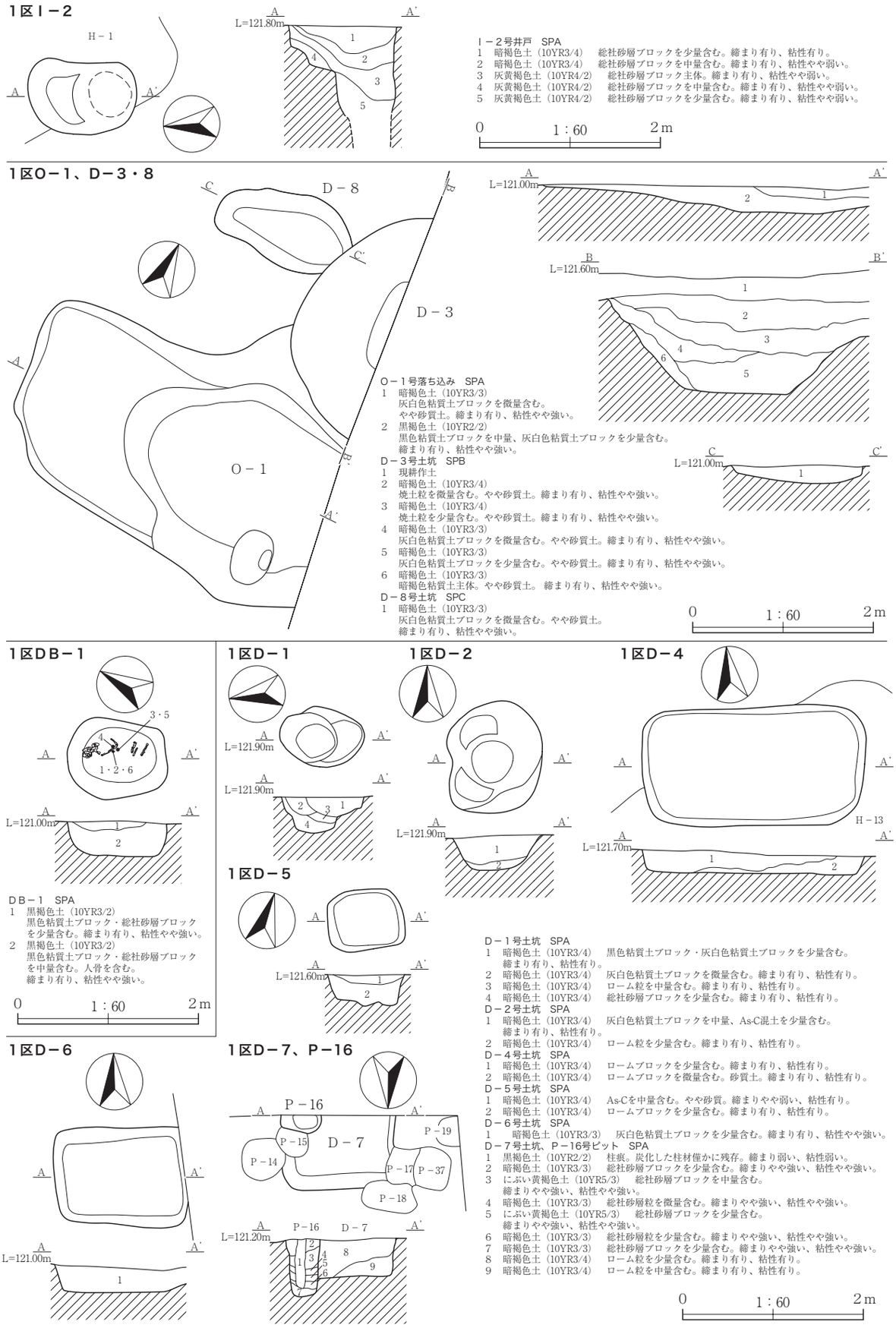
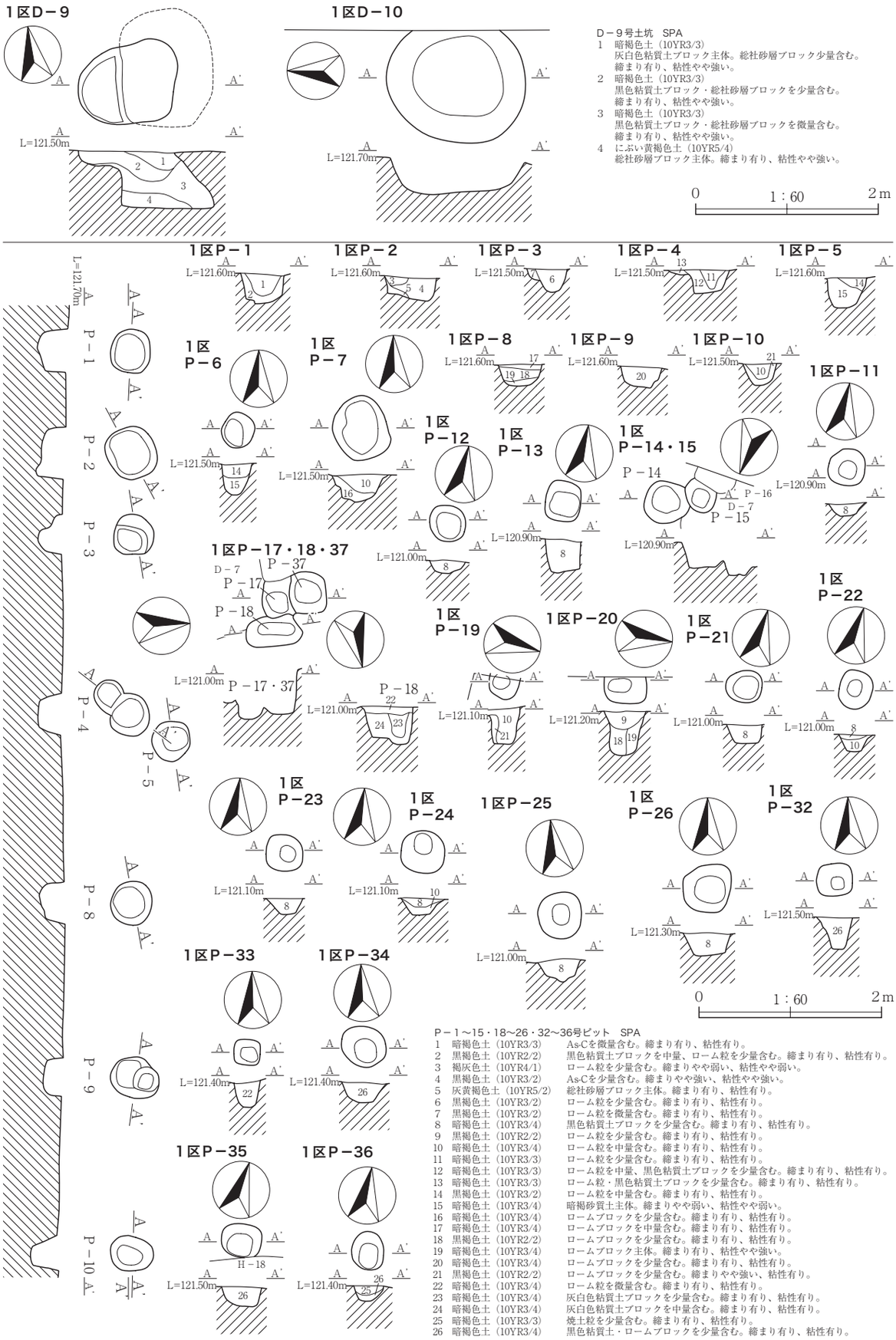


Fig.19　１区　Ｉ－２号井戸、Ｏ－１号落ち込み、ＤＢ－１号土壙墓、Ｄ－１～８号土坑、Ｐ－16号ピット

oumi035.indd　29　　2011/01/28　10:44:51



D－9号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
灰白色粘質土ブロック主体。総社砂層ブロック少量含む。
締まり有り、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
黒色粘質土ブロック・総社砂層ブロックを少量含む。
締まり有り、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/3）
黒色粘質土ブロック・総社砂層ブロックを微量含む。
締まり有り、粘性やや強い。
4　にぶい黄褐色土（10YR5/4）
総社砂層ブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。

P－1～15・18～26・32～36号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土ブロックを中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　褐灰色土（10YR4/1）　ローム粒を少量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
4　黒褐色土（10YR3/2）　As-Cを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
5　灰黄褐色土（10YR5/2）　総社砂層ブロック主体。締まり有り、粘性有り。
6　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
7　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
8　暗褐色土（10YR3/4）　黒色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
9　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
10　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
11　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
12　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を中量、黒色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
13　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒・黒色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
14　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
15　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐砂質土主体。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
16　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
17　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
18　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
19　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。
20　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
21　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性有り。
22　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
23　暗褐色土（10YR3/4）　灰白色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
24　暗褐色土（10YR3/4）　灰白色粘質土ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
25　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
26　暗褐色土（10YR3/4）　黒色粘質土・ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.20　1区　D－9・10号土坑、P－1～15・17～26・32～37号ピット

oumi035.indd　30　　2011/01/28　10:44:52

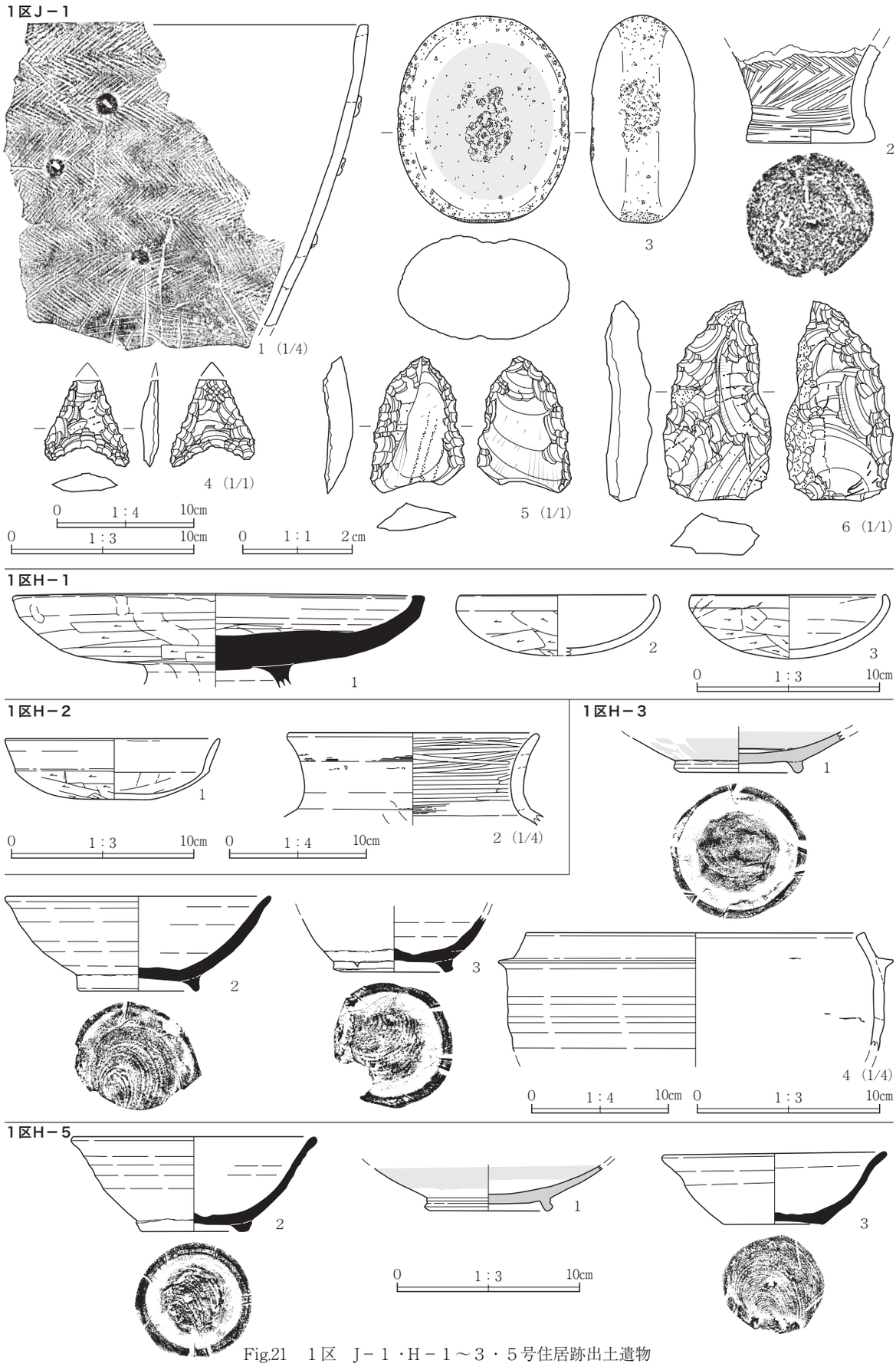


Fig.21　1区　J－1・H－1～3・5号住居跡出土遺物

oumi035.indd　31　　2011/01/28　10:44:54

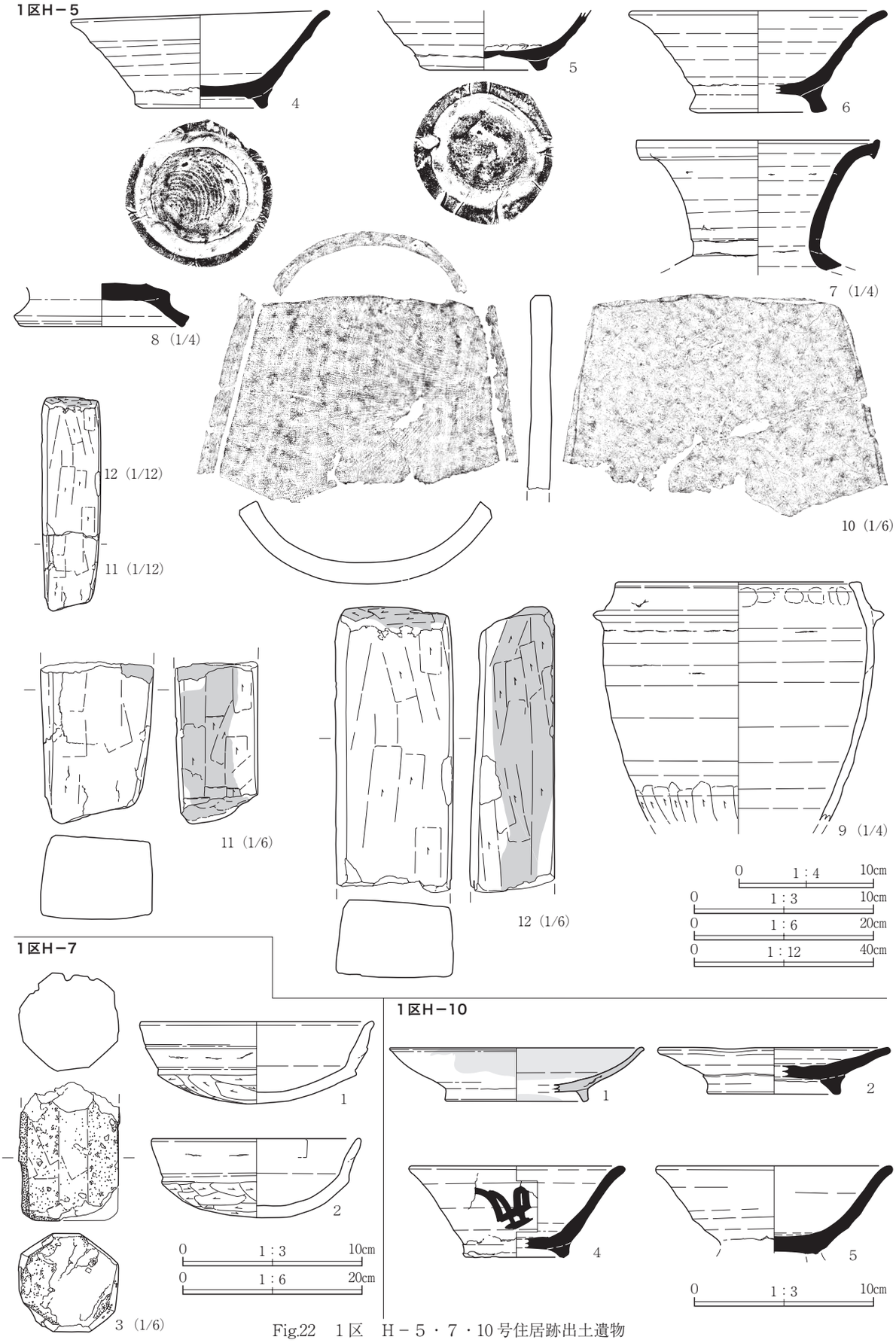


Fig.22　1区　H－5・7・10号住居跡出土遺物

oumi035.indd　32　　2011/01/28　10:44:58

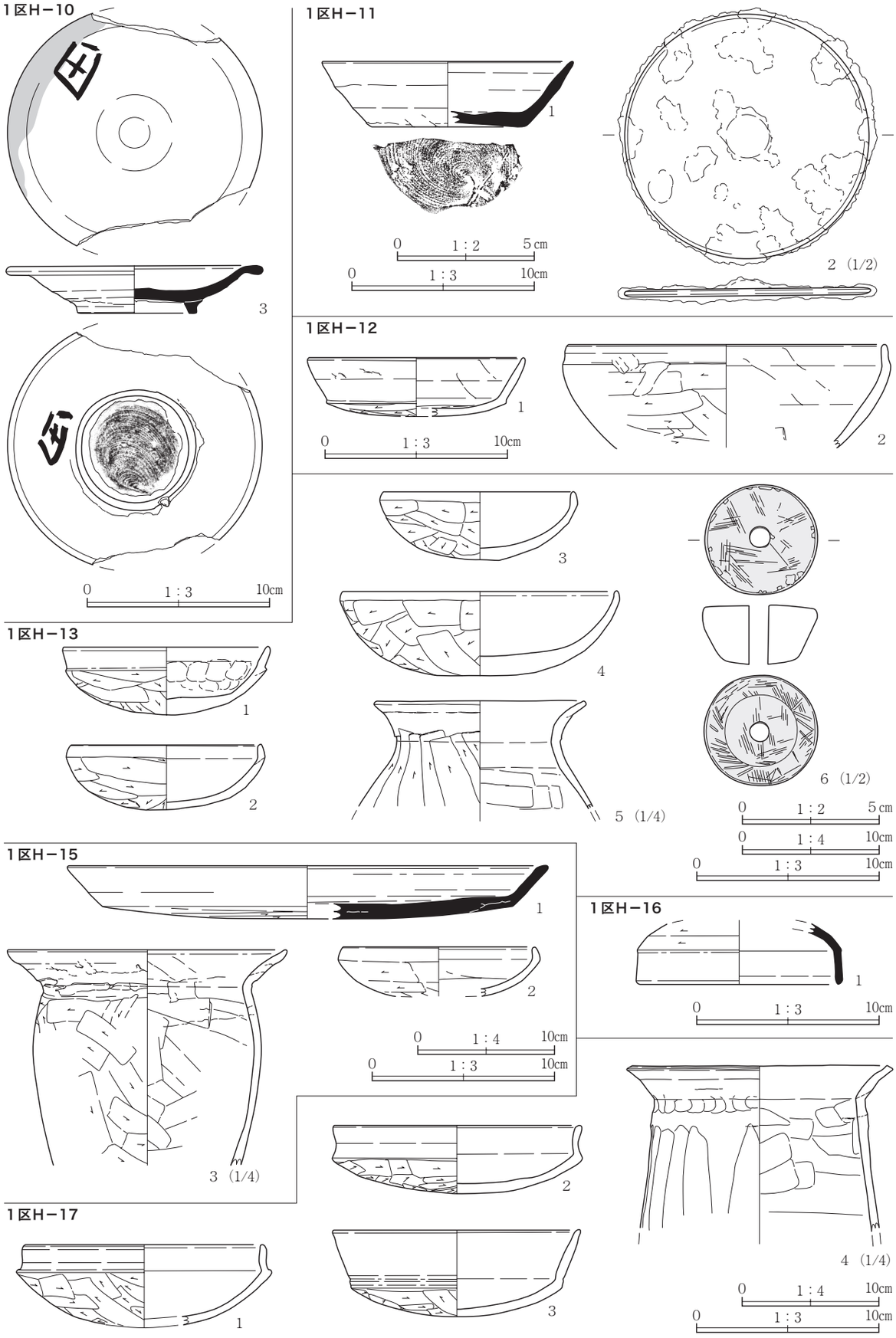


Fig.23　1 区　H－10 ～ 13・15 ～ 17 号住居跡出土遺物

oumi035.indd　33　　2011/01/28　10:44:58

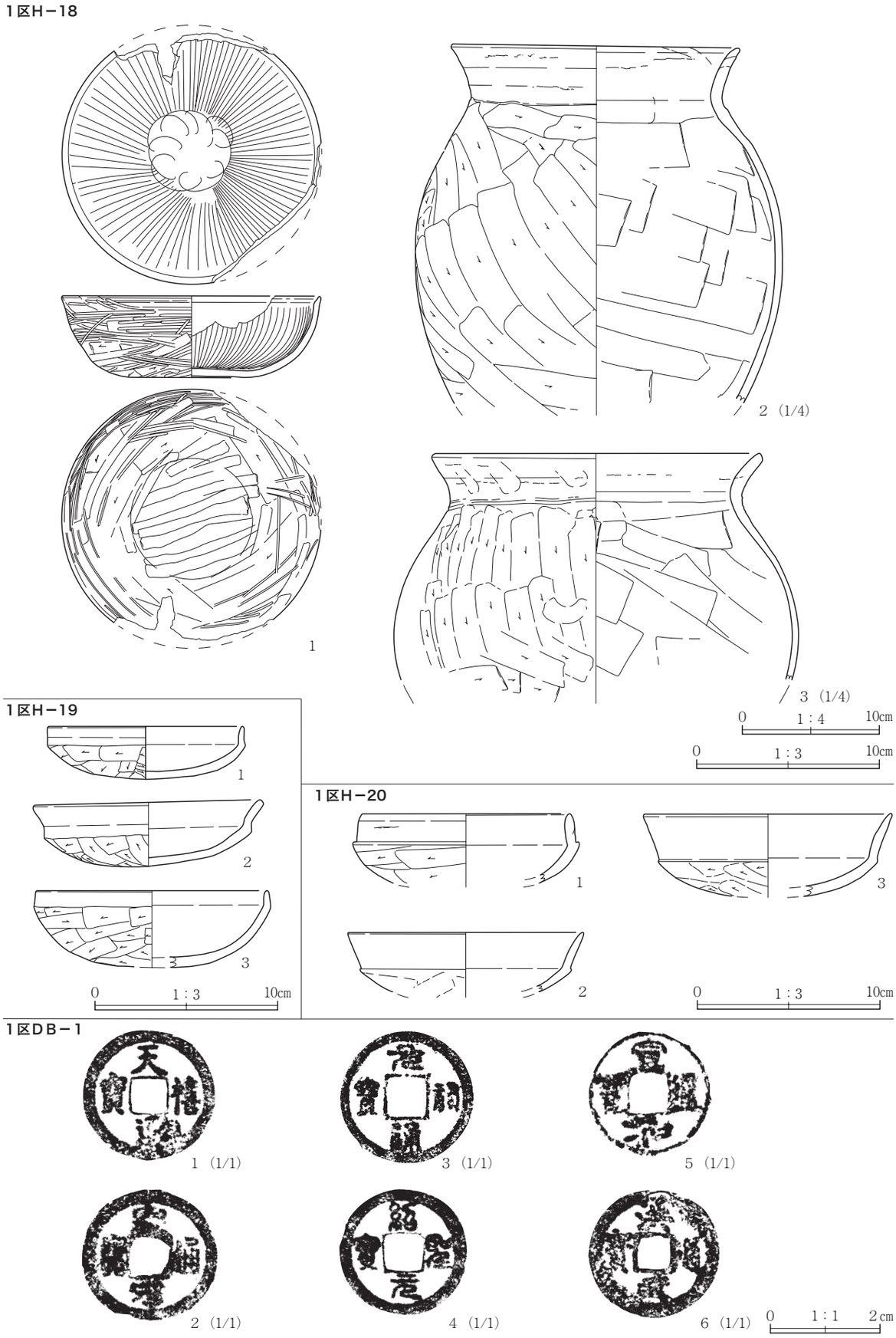


Fig.24　1区　H－18～20号住居跡、DB－1号土壙墓出土遺物

oumi035.indd　34　　2011/01/28　10:44:58

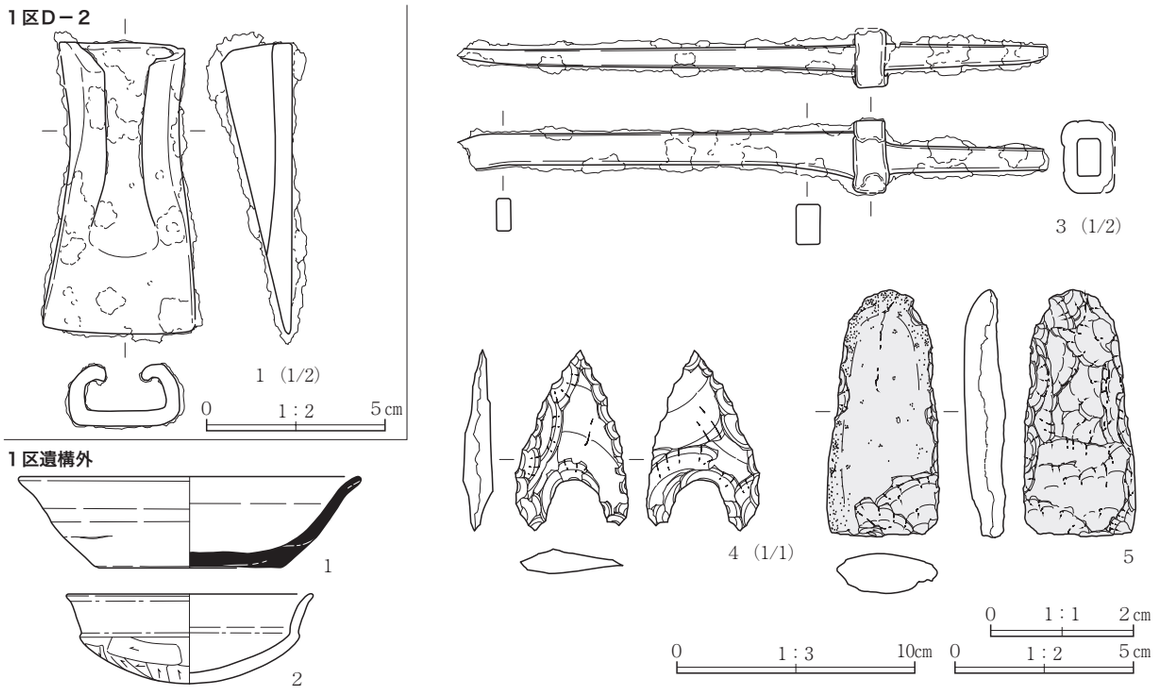


Fig.25　1区　D－2号土坑、遺構外出土遺物

Tab.4　1区　出土遺物観察表

J－1

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	縄文　深鉢	－	－	(23.2)	白・黒色粒、黒雲母	良好	外・黒褐色 内・褐色	平口縁。外面平載竹管による羽状沈線文。下部平載竹管による横位沈線文にボタン状粘土瘤貼付。	口縁～胴部片残存。 諸磯ｃ式。
2	覆土	縄文　鉢	－	7.0	(5.3)	白・黒色粒、黒雲母	良好	にぶい黄褐色	胴下（端）部に斜位交互沈線、以下底部に横位沈線文を施す。	胴下部～底部残存。 諸磯ｃ式。

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	覆土	石器　敲石	11.4	9.5	5.7	粗粒安山岩	－	－	704.1	表・裏面中央部は敲打による凹部が顕著。左右側面にも若干の敲打痕あり。凹部周辺及び石器下端部は磨面として使用。	完存。
4	覆土	石器　凹基無茎鏃	(1.6)	1.5	0.35	黒曜石	－	－	0.6	丁寧な周縁加工を施し、やや深い小剥を有する。	先端部欠損。
5	覆土	石器　石鏃未製品	(2.5)	(1.7)	0.55	黒曜石	－	－	1.5	表面左右側縁及び裏面上部・右側縁に細細加工が施されている。	小剥部欠損。
3	覆土	石器　削器	3.6	2.0	0.8	黒曜石	－	－	5.2	裏面に第一剥離面を残す縦長剥片を素材に用いている。左右側縁に丁寧な加工を施し、左側縁は鋸歯状を呈している。	完存。

H－1

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　高盤	22.6	－	(5.2)	白・黒細粒、小礫	堅緻	灰白色	外面口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ後回転ヘラケズリ、底部ロクロナデ。 内面ロクロナデ後底部ユビナデ。	4/5残存。
2	床面直上	土師器　杯	(10.7)	－	3.4	白・灰色粒、 チャート・黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/6残存。
3	床面直上	土師器　杯	(10.7)	－	3.5	白・黒・橙色粒、 黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	2/5残存。

H－2

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　杯	(11.7)	－	3.4	白・黒色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/4残存。
2	床面直上	土師器　甕	18.1	－	(6.8)	白・黒色粒、白雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ及びハケナデ後ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ後横位ミガキ。以下ハケナデ及びナデ。	口縁部残存。

H－3

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	灰釉陶器　埦	－	6.3	(2.2)	白・赤色粒	堅緻	灰白色	内外面ともにロクロナデ。底部糸切り。	口縁～体部欠損。三日月高台 内面に他遺物の融着あり。
2	床面直上	須恵器　杯	－	6.5	(3.05)	石英、長石、雲母	良好	外・にぶい黄橙色 内・褐灰色	内外面ともにロクロナデ。底部回転糸切り。	底部2/3残存。
3	床面直上	杯	(14.6)	6.7	5.2	白色粒	良好	灰白色	内外面ともにロクロナデ。底部回転糸切り。	1/2残存。
4	竈　覆土	羽釜	(24.8)	－	(8.6)	白・黒色粒	良好	外・浅黄橙色 内・灰白色	内外面ともに回転ナデ。	口縁～胴上部1/8残存。

H－5

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	灰釉陶器　埦	－	(7.0)	(2.45)	黒色粒	堅緻	灰白色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り。	底部2/3残存。 三日月高台
2	床面直上	須恵器　高台付杯	(13.2)	6.0	5.2	白・黒細粒、 チャート、小礫	堅緻	灰白色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロによるヨコナデ、体下部ヨコナデ後ユビナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ、高台部ヨコナデ。	2/3残存。
3	竈　堀方	須恵器　杯	12.2	5.4	4.0	白・黒色粒、小礫	堅緻	黄灰色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロによるヨコナデ後ナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	完存。
4	覆土	須恵器　高台付杯	14.2	6.8	5.4	白・灰・茶色粒、 白雲母	酸化焔	浅黄色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロによるヨコナデ、高台部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	4/5残存。
5	竈　堀方	須恵器　高台付杯	－	6.1	(3.2)	白・黒・茶色粒、石英	堅緻	にぶい黄色	外面ロクロによるヨコナデ、高台部ヨコナデ。底部糸切り後ユビナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。底部ユビナデ。	底部～高台残存。
6	床面直上	須恵器　高台付杯	(14.1)	(6.7)	(6.2)	白・黒色粗粒	堅緻	黄灰色	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロによるヨコナデ、高台部ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	1/4残存。
7	床面直上	須恵器　甕	18.1	－	(9.65)	石英、長石、白色粒	堅緻	外・灰白色 内・褐灰色	内外面ともに回転ナデ。	口縁～頸部ほぼ完存。 胴部以下欠損。

oumi035.indd　35　　2011/01/28　10:44:59

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
8	竈　堀方	須恵器　高台付壺	－	12.0	(3.2)	白・黒・茶色粒	堅緻	灰白色	内外面ロクロによるヨコナデ、高台部ヨコナデ。底部回転糸切り後ナデ。		台部1/2残存。
9	床下土坑	土師器　羽釜	(18.2)	－	(17.8)	石英、長石	良好	にぶい黄橙色	外面回転ナデ、胴下部ヘラケズリ。 内面回転ナデ。		1/6残存。
10	床面直上	瓦　平瓦	(24.0)	(29.0)	2.5	白・黒・橙色粗粒、チャート	堅緻	黒褐色	凹面布目。凸面ナデ。 上縁・左右側縁ヘラケズリ。		下半部欠損。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
11	床面直上	竈構築材	18.1	12.6	9.3	凝灰質砂岩	－	－	1747	整により成形。	上部欠損。 煤付着。重量1747ｇ。
12	床面直上	竈構築材	32.0	13.2	9.5	凝灰質砂岩	－	－	3715	整により成形。	下部欠損。 煤付着。重量3715ｇ。

H－7

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	13.0	－	4.6	石英、長石、雲母	良好	灰黄褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。		ほぼ完存。
2	床面直上	土師器　杯	11.6	－	4.4	雲母、赤色粒	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ユビオサエ。		完存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	竈　覆土	支脚	(15.5)	(11.3)	(11.1)	凝灰質砂岩	－	－	1452	整により八角形に成形。	上部欠損。

H－10

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	灰釉陶器　皿	(14.0)	(7.8)	3.0	粘土質	堅緻	灰黄褐色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	1/6残存。内外面施釉。 猿投窯黒笹90号窯式。9ｃ3/4
2	覆土	須恵器　皿	(12.8)	(7.8)	2.6	白・黒色粒	堅緻	黄灰色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	1/4残存。
3	床面直上	須恵器　皿	14.0	6.5	2.6	白・黒色粒、白雲母	やや酸化焔	にぶい黄色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。 内外面墨書あり「田」。	4/5残存。 内面口縁部煤付着。
4	覆土	須恵器　高台付杯	(11.8)	(5.5)	5.1	白・黒・橙色粒、石英	酸化焔	にぶい黄橙色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。 外面墨書あり。	1/5残存。
5	覆土	須恵器　高台付杯	(13.0)	－	(4.9)	白・黒・橙色粒、チャート、水晶	やや軟質	褐灰色 にぶい黄橙色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	杯部1/3残存。

H－11

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　杯	(13.7)	(8.3)	3.6	白・黒色粒	堅緻	褐灰色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。		1/3残存。
番号	出土位置	種別、器種	直径（cm）	厚さ（cm）	円盤厚(cm)	胎土	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	鉄製品　機種不明	(9.0)	(0.6)	0.35	－	－	－	101.2	円盤中央部に直径1.3㎝の円形突起を有する。	完存。

H－12

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　杯	(11.8)	－	3.2	黒・橙色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/4残存。
2	覆土	土師器　杯	(17.3)	－	5.6	白・灰・茶色粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビナデ。	1/5残存。

H－13

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	11.25	－	3.7	石英、長石、雲母	良好	にぶい橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ユビオサエ。	2/3残存。
2	床面直上	土師器　杯	10.4	－	3.55	石英、長石	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/2残存。
3	床面直上	土師器　杯	10.5	－	3.75	石英、長石	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	ほぼ完存。
4	床面直上	土師器　杯	(15.2)	－	4.6	石英、長石、雲母	やや軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/3残存。 全体的にやや摩滅。
5	床面直上	土師器　甕	15.5	－	(7.85)	石英、長石、雲母、白色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部回転ナデ、以下縦方向のケズリ。 内面回転ナデ、胴部ヨコナデ。	口縁～胴上部完存。
番号	出土位置	種別、器種	長径（cm）	短径（cm）	厚さ（cm）	石質	焼成	円孔径（cm）	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
6	床面直上	石製品　紡錘車	4.1	2.6	2.2	蛇紋岩	-	0.7	57.0	全面研摩。	完存。

H－15

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　盤	(26.3)	(22.4)	2.9	白・黒・橙色粒、白雲母	軟質 酸化焔	にぶい黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ後、底部回転ヘラケズリ。 内面ロクロによるヨコナデ後、底部ナデ。	2/5残存。 内外面剥落によるあばた状。
2	覆土	土師器　杯	(10.5)	－	2.7	白・黒・橙色粒、白雲母	良好	明褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/5残存。
3	床面直上	土師器　甕	(20.3)	－	(15.8)	白・黒色粒、白雲母	良好	にぶい褐色 にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下横位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部片残存。

H－16

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　蓋	(11.3)	－	(3.25)	石英、長石、白色粒	堅緻	褐灰色	外面上部回転ヘラケズリ、以下回転ナデ。 内面回転ナデ。	1/6残存。

H－17

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	P1　覆土	土師器　杯	(13.0)	－	(4.4)	白色粒	良好	黒褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/3残存。
2	P1　覆土	土師器　杯	(13.7)	－	3.75	白色粒	良好	黄褐色 黒褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	2/3残存。
3	床面直上	土師器　杯	(13.4)	－	4.75	赤色粒	やや軟質	橙色 オリーブ黒色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/2残存。
4	P1　覆土	土師器　甕	(19.4)	－	(12.05)	長石、石英、赤色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部回転ナデ、頸部ユビオサエ、胴部タテナデ。 内面口縁部回転ナデ、胴部ヨコナデ。	口縁～胴部1/3残存。

H－18

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	14.1	6.4	4.5	白・黒・茶色粒、雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラケズリ後ミガキ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後放射状ミガキ。底部回転ミガキ。	4/5残存。 畿内産土師器　坏C
2	床面直上	土師器　甕	(20.8)	－	(27.0)	白・黒・橙色粒、黒雲母	良好	外・明赤褐色 内・明黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラナデ。	口縁～胴部2/5残存。 外面煤付着。
3	床面直上	土師器　甕	(23.7)	－	(18.2)	白・黒色粒、石英	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下肩部縦位ヘラケズリ、中位斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴中位1/2残存。

H－19

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	10.8	－	2.9	石英、長石、赤色粒	軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	4/5残存。
2	床面直上	土師器　杯	12.6	－	3.65	石英、長石、黒色粒	やや軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/3残存。
3	床面直上	土師器　杯	(12.7)	－	(9.2)	雲母、白色粒	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/4残存。

H－20

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	(11.4)	－	(3.75)	白色粒	良好	黒褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/4残存。
2	床面直上	土師器　杯	(12.8)	－	3.25	雲母、赤色粒	軟質	橙色	内外面ともに摩滅により調整不明瞭。 外面はヘラケズリと思われるが、方向不明。	1/4残存。
3	床面直上	土師器　杯	(13.6)	－	(4.5)	石英、長石、赤色粒	やや軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。（摩滅により不明瞭） 内面回転ナデ。	1/5残存。

oumi035.indd　36　　2011/01/28　10:45:01

ＤＢ－１

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
1	底面直上	天禧通寶	北宋	1017年	銅	24.6	6.5	1.2	3.4 g	
2	底面直上	皇宋通寶	北宋	1038年	銅	25.4	6.4	1.2	3.6 g	
3	底面直上	元祐通寶	北宋	1086年	銅	24.5	6.8	1.3	3.5 g	
4	底面直上	紹聖元寶	北宋	1094年	銅	23.7	6.6	1.3	2.9 g	
5	底面直上	宣和通寶	北宋	1119年	銅	23.3	6.0	1.1	2.3 g	
6	底面直上	洪武通寶	北宋	1368年	銅	24.3	6.3	1.2	2.8 g	

Ｄ－２

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ(cm)	胎土	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	鉄製品　鉄斧	8.4	4.3	2.0	－	－	－	123.9		完存。

遺構外

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	表土	須恵器　杯	(14.4)	(8.0)	3.85	白色粒	良好	灰白色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り。	1/3残存。
2	表土	土師器　杯	(10.4)	－	3.8	石英、長石、雲母	やや軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズり。 内面回転ナデ。	1/4残存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ(cm)	胎土	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	表土	鉄製品　不明	(16.6)	(2.0)	(1.6)	－	－	－	54.8		先端部・基部先端欠損。

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	表土	石器　凹基無茎鏃	2.5	1.6	0.4	黒色頁岩	－	－	1.1	周縁加工。 凹基部は比較的深い小刻を作出している。	完存。
5	表土	石器　打製石斧	10.4	4.7	1.7	緑色片岩	－	－	108.5	短冊形。表面に広い自然面を残し、裏面左右側面に粗い加工を施し石器を成形している。左右側縁は摩滅が顕著で、石器全体も摩耗している。	下端部欠損。

２　２区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.26、PL ５）

位置　X 48･49、Y 226･227　**主軸方向**　N－85°－E　**規模**　東西軸（3.64）m、南北軸（0.94）m、壁現高0.29 m。大部分が調査区外。　**面積**　（2.53）㎡　**床面**　地山硬化床。　**住居内施設**　壁際からピットを検出、深さは0.18 m。　**重複**　W－１・２、D－１と重複しており、新旧関係は本遺構→W－１・２、D－１である。　**出土遺物**　少量。土師器･須恵器小片。　**時期**　遺物少量のため判然としないが、重複関係よりAs-B降下以前と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig.26、PL ５）

位置　X 49、Y 227･228　**主軸方向**　N－66°－E　**規模**　東西軸（1.88）m、南北軸（1.58）m、壁現高0.61 m。大部分が調査区外。　**面積**　（1.47）㎡　**床面**　地山硬化床。比較的平坦。　**重複**　H－３、W－１と重複しており、新旧関係はH－３→本遺構→W－１である。　**出土遺物**　少量。土師器・須恵器小片。　**時期**　遺物少量のため判然としないが、重複関係よりAs-B降下以前と想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig.26、PL ５）

位置　X 48・49、Y 227　**主軸方向**　N－71°－E　**規模**　東西軸（2.14）m、南北軸（0.96）m、壁現高0.27 m。大部分が調査区外。　**面積**　（1.1）㎡　**床面**　暗褐色土の貼床。比較的平坦。　**重複**　H－２、W－１と重複しており、新旧関係はH－２→本遺構→W－１である。　**出土遺物**　少量。土師器小片。　**時期**　遺物少量のため判然としないが、重複関係よりAs-B降下以前と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig.27・28、PL ５・11）

位置　X 46・47、Y 227･228　**主軸方向**　N－78°－E　**規模**　南北軸（3.13）m、東西軸（2.36）m、壁現高0.61 m。大部分が調査区外。　**面積**　（2.09）㎡　**床面**　暗褐色土の貼床。焚口前面の硬化が顕著。　**竈**　東壁に位置。確認長1.0 m、燃焼部幅0.52 m。全体的に残存状況は悪く、竈内に構築材である褐色粘質土が崩落している。袖は地山で造出している部分のみ残存。燃焼部は壁面を約0.5 m掘り込んであり、焚口から深く落ち込み煙道部へ向かって立ち上がる。　**出土遺物**　竈覆土中から土師器坏（１）、竈煙道部付近から土師器甕（２）を図示。**時期**　出土遺物より８世紀と想定される。

oumi035.indd　37　　2011/01/28　10:45:01

（2）溝

W－１号溝（Fig.27）

位置　X 48・49、Y 226・227　**主軸方向**　南北方向N－４°－E、東西方向N－75°　－W　**規模**　長さ（5.3）m、最大幅 0.61 m、下幅 0.51 m、深さ 0.18 m。　**形状等**　断面U字状。北壁から南へ延びて南壁手前で東壁へ屈曲する。通水の痕跡は確認できず。　**重複**　H－１～３、W－２と重複しており、新旧関係はH－１～３、W－２→本遺構である。　**出土遺物**　少量。土師器小片。　**時期**　底面直上に As-B（1108 年）火山灰が認められるため降下時には機能していたと想定される。　**備考**　区画溝か。

W－２号溝（Fig.27）

位置　X 47～49、Y 226～228　**主軸方向**　N－62°－E　**規模**　長さ（9.32）m、最大幅 2.08 m、下幅 1.49 m、深さ 0.14～0.23 m。　**形状等**　断面浅いU字状。調査区北東隅から南西方向に真直ぐ延びる。通水の痕跡は確認できず。　**重複**　H－１、W－１と重複しており、新旧関係はH－１→本遺構→W－１である。　**出土遺物**　土師器小片少量。　**時期**　重複関係より As-B 降下以前と想定される。

（3）土坑、ピット（Fig.27）

土坑、ピットの計測値については「Tab. 5　２区　土坑、ピット計測表」を参照のこと。

Tab.5　２区　土坑･ピット計測表

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物	備考
D－１	X 49、Y 227・228	0.89	0.66	0.47	長方形		
D－２	X 49、Y 227・228	1.20	0.80	0.51	不整形		
D－３	X 47、Y 228	1.46	(0.84)	0.28	楕円形		
P－１	X 48、Y 228	0.58	0.47	0.30	楕円形		

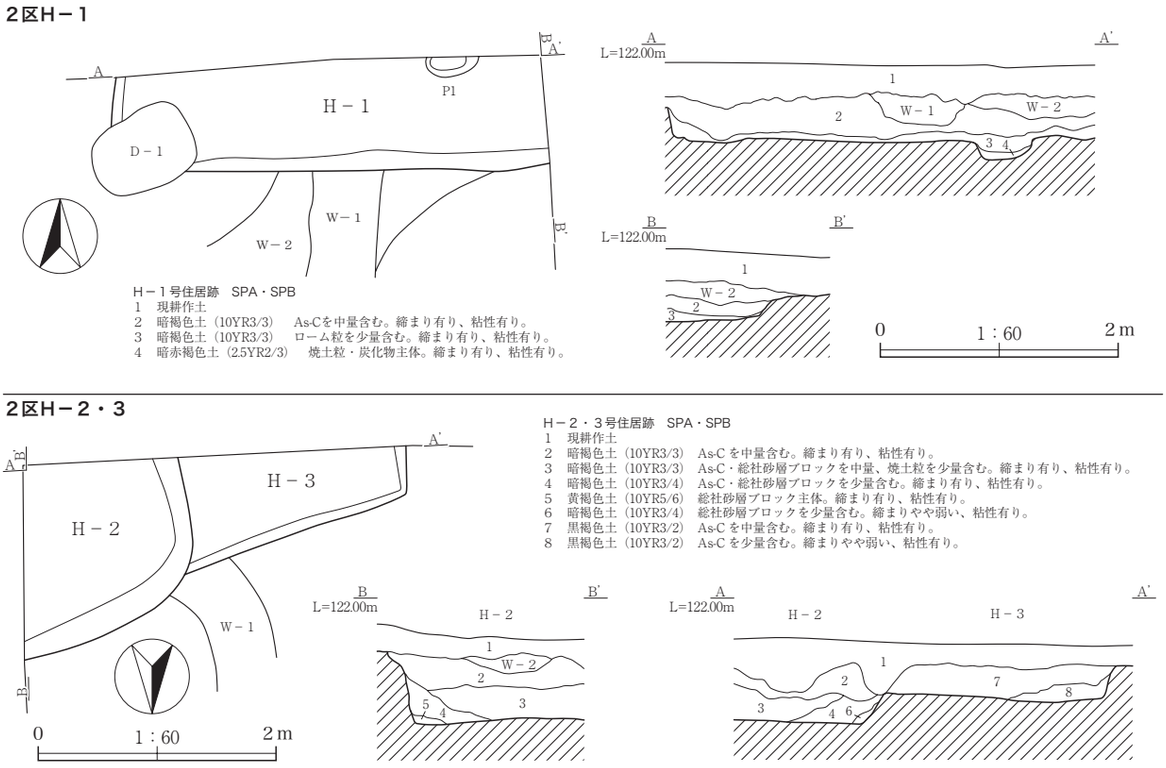
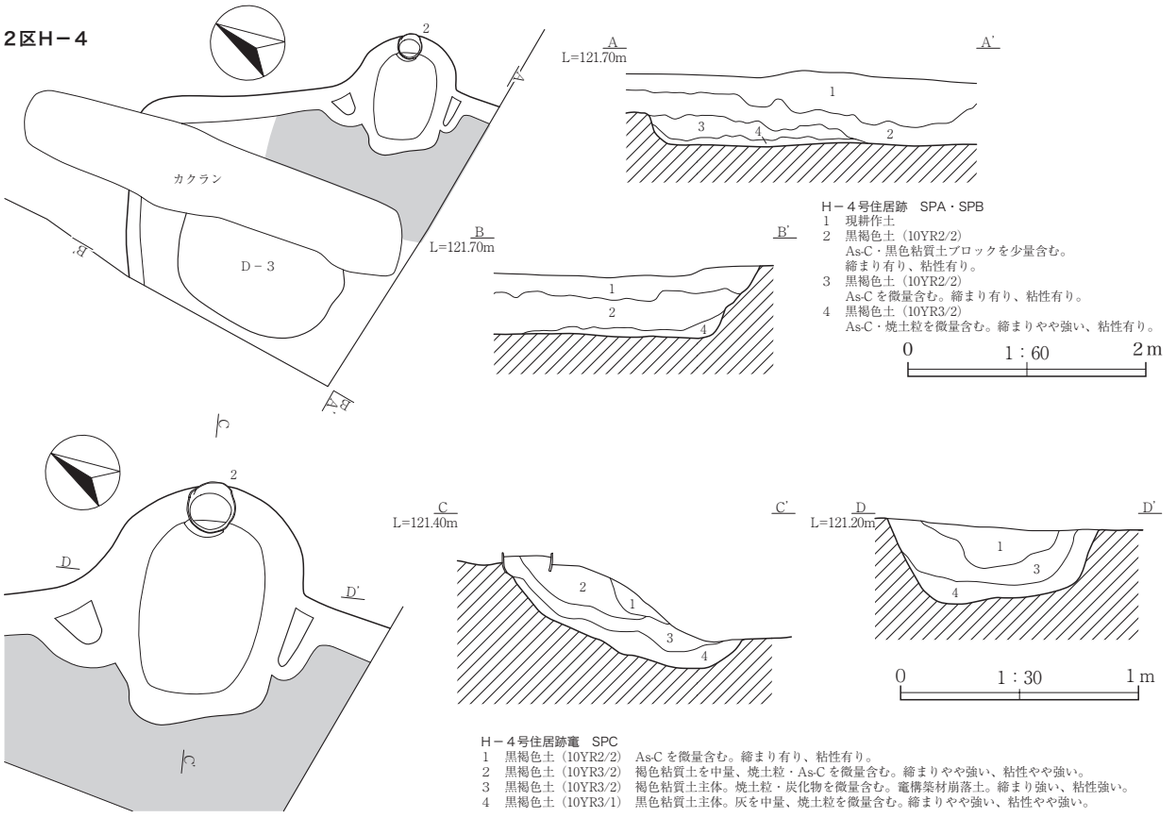


Fig.26　２区　H－１～３号住居跡

oumi035.indd　38　　2011/01/28　10:45:02

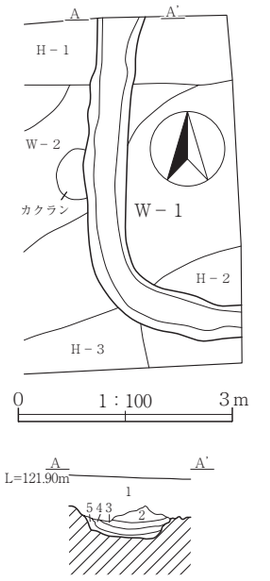
2区H－4



H－4号住居跡　SPA・SPB
1　現耕作土
2　黒褐色土（10YR2/2）
　As-C・黒色粘質土ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）
　As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR3/2）
　As-C・焼土粒を微量含む。締まりやや強い、粘性有り。

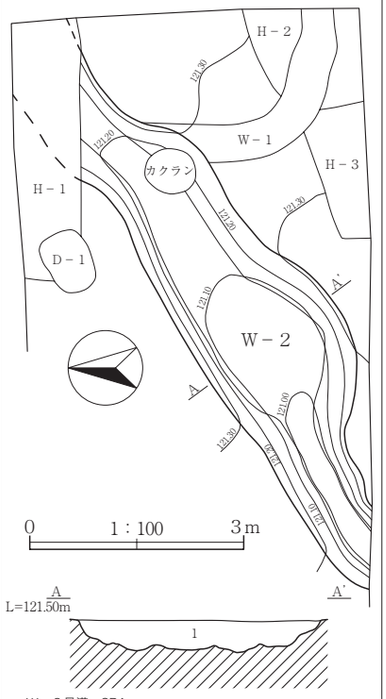
H－4号住居跡竈　SPC
1　黒褐色土（10YR2/2）　As-C を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR3/2）　褐色粘質土を中量、焼土粒・As-C を微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
3　黒褐色土（10YR3/2）　褐色粘質土主体。焼土粒・炭化物を微量含む。竈構築材崩落土。締まり強い、粘性強い。
4　黒褐色土（10YR3/1）　黒色粘質土主体。灰を中量、焼土粒を微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。

2区W－1



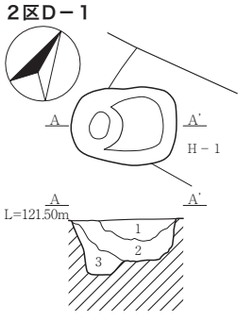
W－1号溝　SPA
1　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR6/2）
　As-B 軽石層。締まり弱い、粘性なし。
3　明褐灰色土（5YR7/2）
　As-B 軽石層。締まり弱い、粘性なし。
4　灰黄褐色土（10YR6/2）
　As-B 軽石層。締まり弱い、粘性なし。
5　青灰色土（5BG5/1）
　As-B 火山灰層。As-B 軽石を微量含む。
　締まり弱い、粘性有り。

2区W－2

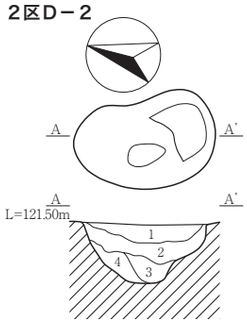


W－2号溝　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　As-C を中量、炭化物を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

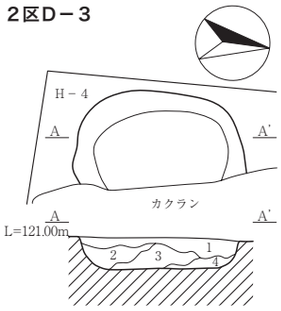
2区D－1



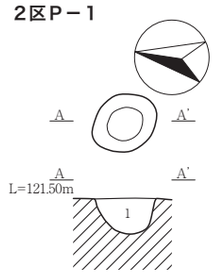
2区D－2



2区D－3



2区P－1



0　1：60　2m

D－1号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
2　黒褐色土（10YR2/2）　総社砂層ブロックを中量、As-C を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土を中量、総社砂層ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

D－2号土坑　SPA
1　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　総社砂層ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　総社砂層ブロックを中量、黒色粘質土ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性有り。
4　褐色土（10YR4/4）　褐色土主体。締まり有り、粘性有り。

D－3号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR2/2）　As-C を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土ブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
3　褐色土（10YR4/4）　褐色土ブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
4　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土ブロック主体。褐色土ブロッを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。

P－1号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C を中量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.27　２区　Ｈ－４号住居跡、Ｗ－１・２号溝、Ｄ－１～３号土坑、Ｐ－１号ピット

oumi035.indd　39　　2011/01/28　10:45:02

2区H－4

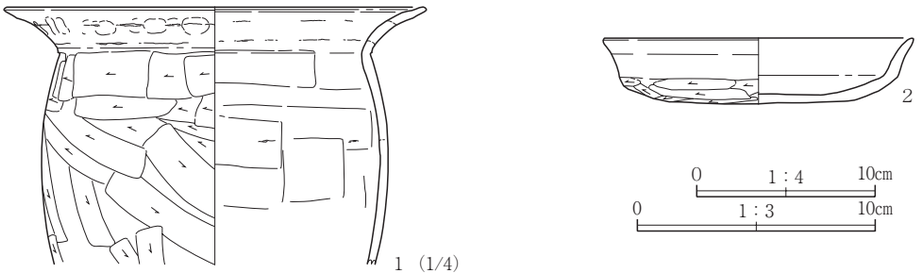


Fig.28　２区　Ｈ－４号住居跡出土遺物

Tab.6　２区　出土遺物観察表
H－4

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm)	底径（cm)	高さ（cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈　覆土	土師器　杯	13.0	8.0	2.8	石英、長石、雲母、黒色粒	やや軟質	橙色	外面回転ナデ、底部ヘラケズリ。 内面回転ナデ、ユビオサエ。	口縁一部欠損。
2	竈　覆土	土師器　甕	(23.6)	－	(14.4)	雲母	良好	明褐色	外面回転ナデ、胴部ヘラケズリ。 内面回転ナデ、胴部（ヘラ状工具による）ヨコナデ。	口縁～胴部上半1/2残存。

３　３区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.29・40、PL ５・６・11）

位置　X 289･290、Y 134･135　**主軸方向**　N－11°－W　**規模**　南北軸（3.16）m、東西軸4.37 m、壁現高0.52 m。南側は調査区外。　**面積**　（10.54）㎡　**床面**　地山硬化床。比較的平坦。　**覆土**　上層にHr-FA の小ブロックが少量混入。　**竈**　北壁中央に位置。確認長 1.47 m、燃焼部幅 0.47 m。全体的に崩落しており袖（灰黄褐色粘質土で構築）も残存するが高さは低い。燃焼部内は平坦、燃焼～煙道部にかけては壁面を約 0.5 m掘り込みやや直立気味に立ち上がる。燃焼部に残る支脚石（凝灰質砂岩ブロック）は土層観察から直上に竈天井崩落土が載っているため使用時の位置を留めた状態で崩落を受けたものと考えられる。煙道～焚口前面にかけて灰が拡がる。掘り方では奥壁をオーバーハング状に掘り込んでいる。　**壁周溝**　北東隅以外で確認。床面からの深さは 0.04 m前後。　**貯蔵穴**　北東隅で確認。平面方形、断面箱状を呈し、内側全周に浅い段を有しており蓋状のものを受けるための造作と考えられる。　**主柱穴**　中央部に１基。深さはP1：0.55 m。対応するピットは確認できず。**出土遺物**　須恵器蓋（１）、土師器坏（２～４）、手捏ね土器（５）を図示。須恵器蓋（１）は　外面は天井部ヘラ削り、以下は沈線を廻らし稜を形成し、口端部内側には段を有する。陶邑 TK10 段階（Ⅱ形式第２段階）に並行すると考えられる。土師器坏（２～４）は模倣坏であり（２・３）はやや厚手で粗雑な感じを受けるが、（４）は器壁が薄いものの口端部内側に段を有し稜端部もシャープでありやや精巧に模倣されている。上層（１・２層）からの出土量が極端に少ない。　**時期**　出土遺物から６世紀中頃と想定される。　**備考**　北壁の下位でオーバーハング状に抉られた痕跡が確認された。

Ｈ－２号住居跡（Fig.30・40、PL ６・12）

位置　X 290、Y 134・135　**主軸方向**　N－20°－W　**規模**　南北軸（4.09）m、東西軸（1.87）m、壁現高 0.41 m。大部分が調査区外。　**面積**　（3.42）㎡　**床面**　黒褐色土の貼床。　**出土遺物**　少量であるが、土師器坏（１）を図示。内斜口縁坏の特徴である口唇部の立ち上りがやや鈍い。　**時期**　出土遺物が少量であるため判然としないが６世紀前半と想定したい。

Ｈ－３号住居跡（Fig.30・31・40、PL ６・12）

位置　X 289・290、Y 132～134　**主軸方向**　N－244°－W　**規模**　東西軸（4.43）m、南北軸（4.78）m、壁現高 0.46 m。中央部をＤ－１、東側をＨ－４により消失。　**面積**　（17.46）㎡　**床面**　地山硬化床。比較的平坦で、部分的に暗褐色土の貼床が確認できる。北半部においては床面に炭化物・焼土が多く見られた。　**覆土**

oumi035.indd　40　　2011/01/28　10:45:03

上層にHr-FAの小ブロックが少量見受けられる。　**竈**　西壁やや南に位置。確認長1.21 m、燃焼部幅0.43 m。全体的に崩落しており袖（灰黄褐色粘質土で構築）も残存するが高さは低く幅が狭い。燃焼部内は平坦、燃焼～煙道部は壁面を短く掘り込み、煙道に向かって立ち上がる。構築材には灰黄褐色粘質土を用い、袖前端部には焚口脇補強の心材（凝灰質砂岩の切石）が僅かに残存する。燃焼部から焚口前面にかけて灰が拡がる。　**貯蔵穴**　南西隅に位置。平面隅丸方形、断面箱状を呈する。　**主柱穴**　４基。住居跡のほぼ対角線上に位置する。深さはP1：0.65 m、P2：0.52 m、P3：0.44 m、P4：0.45 m、柱穴間は1.91 ～ 2.20 mを測る。　**重複**　Ｈ－４・Ｂ－１・Ｄ－１と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－４・Ｂ－１・Ｄ－１である。　**出土遺物**　須恵器坏（１）、土師器坏（２～４）・甕（５）を図示。須恵器坏（１）は陶邑MT15段階（Ⅱ形式第１段階）である。口端部は段を有するもののシャープな感じを受けずやや丸く、受部の端部も同様である。内斜口縁坏である（２）は外面の口唇部と体部の境に沈線を廻らし簡略的に内斜口縁部を造り出している。（３）は口縁部が内湾する坏。（４）は模倣坏で口縁部はやや器厚で口唇部に浅い窪みを持つ。竈左脇（竈南側）から出土した甕破片から赤色顔料（ベンガラか）が出土。出土状況から甕破片を器として用いて顔料を入れていたと推測される。　**時期**　重複関係・出土遺物から６世紀前半と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig.30 ～ 32・40、PL ６・12）

位置　X 289・290、Y 132・133　**主軸方向**　N － 122°－W　**規模**　東西軸（3.49）m、南北軸6.01 m、壁現高0.53 m。東側は調査区外、煙道部先端はＤ－１により消失。　**面積**　（10.91）㎡　**床面**　地山硬化床。比較的平坦。　**竈**　西壁やや南よりに位置。確認長（1.59）m、燃焼部幅0.43 m。全体的に崩落しており袖（灰黄褐色粘質土で構築）も残存するが高さは低い。燃焼～煙道部はほぼ平坦。構築材には灰黄褐色粘質土を用い、袖前端部には焚口脇補強の心材（凝灰質砂岩ブロック）が残存する。焚口前面に灰が拡がる。　**壁周溝**　北・南壁で確認。床面からの深さは0.04 m前後。　**貯蔵穴**　南西隅に位置。東半部が調査区外であるが概ね平面方形・断面ピット状を呈する。　**主柱穴**　１基。深さはP1：0.55 m。　**重複**　Ｈ－３・６、Ｂ－１、Ｄ－１と重複しており、新旧関係はＨ－３・６→本遺構→Ｄ－１である。　**出土遺物**　土師器坏（１・２）、土師器高坏（３）、土師器甕（４）を図示。（１・２）と（３）の坏部は模倣坏である。上層からの出土量が少ない。　**時期**　重複関係・出土遺物から６世紀後半と想定される。　**備考**　北壁付近床面直上に炭化物が認められる。覆土中にHr-FAの小ブロックが少量見受けられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.32・33・40、PL ６・12）

位置　X 288・289、Y 132・133　**主軸方向**　N － 14°－W　**規模**　南北軸4.01 m、東西軸4.34 m、壁現高0.59 m。東壁側に張り出しが付属する。　**面積**　住居部：13.95 ㎡、張り出し部：2.03 ㎡　**床面**　地山硬化床。比較的平坦。　**覆土**　上層にHr-FAの小ブロックが少量見受けられる。　**竈**　北壁中央に位置。確認長1.39 m、燃焼部幅0.37 m。崩落はしているものの袖の残存状況は比較的良好である。燃焼部は壁面を0.3 m程度掘りこみ、若干浅く窪み、煙道に向かって立ち上がる。構築材にはにぶい黄褐色粘質土を用いている。燃焼部内には支脚石（凝灰質砂岩ブロック）があり、やや右よりに位置する。　**壁周溝**　北西・南壁の一部で確認。床面からの深さは0.04 m前後。　**貯蔵穴**　北東隅に位置。平面方形、断面箱状を呈し、内側全周に浅い段を有しており蓋状のものを受けるための造作と考えられる。　**張り出し**　南北軸2.65 m、東西軸0.98 m。東壁から張り出しており、平面長方形を呈する。住居床面からの高さは0.15 m前後、床面は平坦。　**主柱穴**　３基。深さはP1：0.57 m、P2：0.45 m、P3：0.10 m。P3は他と比較して極端に浅いため主柱穴でない可能性も考えられる。またこれらに対応するピットを貯蔵穴付近で検出を試みたが確認できなかった。　**住居内施設**　入り口ピットとしてP4を確認。深さは0.10 mとやや浅い。　**重複**　Ｗ－２と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｗ－２である。　**出土遺物**　土師器坏（１～３）、土師器甕（４）を図示。（１～３）の模倣坏内面には斜放射状のミガキが施されている。　**時期**　出土遺物から６世紀と想定される。　**備考**　竈より西側の北壁と西壁の下位でオーバーハング状に

oumi035.indd　41　　2011/01/28　10:45:03

抉られた痕跡が確認された。

Ｈ－６号住居跡（Fig.33、PL ７）

位置　X 290、Y 131・132　**主軸方向**　N－10°－W　**規模**　南北軸 3.68 m、東西軸（1.87）m、壁現高 0.64 m。東半部は調査区外。　**面積**　（4.61）㎡　**床面**　黄褐色土の貼床。　**重複**　Ｈ－４と重複しており、新旧関係はＨ－４→本遺構である。　**出土遺物**　土師器小片。　**時期**　出土遺物が少量で判然としないが６世紀前半と考えられる。　**備考**　北壁の下位でオーバーハング状に抉られた痕跡が確認された。

Ｈ－７号住居跡（Fig.34・35・40 ～ 42、PL ７・12 ～ 14）

位置　X 288・289、Y 129 ～ 131　**主軸方向**　N－62°－E　**規模**　東西軸（4.67）m、南北軸 6.40 m、壁現高 0.82 m。西側は調査区外。　**面積**　（18.31）㎡　**床面**　地山硬化床。　**覆土**　ローム・総社砂層・黒色粘質土等のブロックが多く混入しており、人為的に埋め戻しが行われたと推測される。Hr-FA の小ブロックも少量見受けられる。　**竈**　東壁やや南よりに位置。確認長 1.54 m、燃焼部幅 0.58 m。残存状況は悪く袖（構築材は灰黄褐色粘質土）は上部が崩落している。燃焼部は焚口付近から浅く窪み、奥壁は住居壁面とほぼ同位置である。燃焼～煙道部にかけては中位に段を有して立ち上がっていく。焚口天井には切石（凝灰質砂岩、長さ約 0.5 m）、焚口脇には凝灰質砂岩ブロックが補強のために用いられているが天井の切石は崩落している。竈右脇に胴部から上位のみの甕（33）が床直上に正位で据えられている。土層観察では構築材で置き留めているため竈に付随するものと考えられ、竈にかけた甕を一時的に置くための五徳のような機能等が想像される。燃焼部～焚口前面に灰が拡がる。竈内から出土した土師器坏（19）・甕（30・31）は崩れた構築材層中で出土しており崩落の過程で混入したものと考えられる。　**壁周溝**　全周で確認。床面からの深さは 0.05 ～ 0.10 m。　**貯蔵穴**　南東隅に位置。平面上端部方形、中端部楕円形、断面箱状を呈する。内側全周に浅い段を有しており蓋状のものを受けるための造作と考えられる。底面から土師器坏（10 ～ 13・22 ～ 24）が出土。　**主柱穴**　２基。深さは P1：0.53 m、P2：0.64 m、柱穴間 3.08 を測る。共に柱の抜き取りの痕跡が観とめられる。　**住居内施設**　「転ばし根太」の痕跡と考えられる小溝を３条確認。床面からの深さは４cm 前後。「転ばし根太」の範囲には硬化面が及んでいない。南・東壁に段（棚状施設か）　を確認。南壁は幅 0.18 ～ 0.28 m、床面からの高さ 0.18 m前後、東壁は幅 0.05 m前後と狭く、床面からの高さは 0.15 ～ 0.22 mを測る。　**重複**　Ｈ－11・12、Ｗ－１・Ｄ－６と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－11・12、Ｗ－１・Ｄ－６である。　**出土遺物**　竈～貯蔵穴周りを中心に出土。土師器坏（１～ 26）、土師器高坏（27・28）、土師器甕（29 ～ 34）、土師器甑（35・36）、臼玉（37）を図示。内斜口縁坏（１～ 17）は口唇部は短く立ち上がり、体部は１：底部がやや平底気味（１・11）、２：底～口縁部にかけて明確な稜がなく丸みをもつもの（３・４・６・８～ 10・12・13・15 ～ 17）、３：１と２の中間的なもの（２・５・10）、４：器高がやや高く、底～口縁部にかけて半球状のもの（７・14）に細分化される。（18 ～ 26）は丸底、口縁部で内湾する特徴を持つ。甕は共に竈内から、甑は南東壁際に並んで出土。　**時期**　出土遺物から６世紀前半と考えられる。　**備考**　北壁の下位でオーバーハング状に抉られた痕跡が確認された。

Ｈ－８号住居跡（Fig.36・42、PL ７・８・14）

位置　X 288、Y 128・129　**主軸方向**　N－81°－E　**規模**　東西軸（2.00）m、南北軸 3.87 m、壁現高 0.59 m。西半部は調査区外。　**面積**　（4.75）㎡　**床面**　地山硬化床。　**覆土**　Hr-FA・ローム・総社砂層・黒色粘質土等のブロックが多く混入しており、人為的に埋め戻しが行われたと推測される。　**竈**　東壁中央に位置。確認長 0.77 m、燃焼部幅 0.35 m。残存状況は悪く、袖前端部・焚口は崩落している。構築材に灰黄褐色粘質土を用いており、左袖内には心材（凝灰質砂岩ブロック）が入る。燃焼～煙道部は壁面を短く掘り込み、緩やかに立ち上がっていく。燃焼部～焚口前面にかけて灰が拡がる。　**壁周溝**　北壁以外で確認。床面からの高さは 0.07 m前後。**貯蔵穴**　南東隅に位置。平面方形、断面箱状を呈する。　**主柱穴**　２基。深さは P1：0.38 m、P2：0.35 m、柱穴間は 1.55 mを測る。　**住居内施設**　南・東壁に段（棚状施設か）を確認。南壁は幅 0.17 m前後、床面からの

oumi035.indd　42　　2011/01/28　10:45:03

高さ0.06 m前後、東壁は幅0.06 m前後、床面からの高さ0.04 m前後を測る。　**出土遺物**　竈脇から出土した土師器坏（１）を図示。内斜口縁坏。　**時期**　出土遺物から６世紀と想定される。　**備考**　北壁の下位でオーバーハング状に抉られた痕跡が確認された。

Ｈ－９号住居跡（Fig.37・38・42・43、PL ８・14）

位置　X 289・290、Y 128 ～ 130　**主軸方向**　N － 65°－ E　**規模**　東西軸6.52 m、南北軸6.70 m、壁現高0.54 m。南東隅が調査区外。　**面積**　（33.1）㎡　**床面**　地山硬化床。　**竈**　検出されなかったが、灰・焼土が多く確認される南東側に位置すると想定される。　**壁周溝**　北・西壁の一部で確認。床面からの深さは0.05 m前後。**主柱穴**　４基。深さはP1：0.61 m、P2：0.46 m、P3：0.53 m、P4：0.70 m、柱穴間は3.29 ～ 3.44 mを測る。**住居内施設**　「転ばし根太」の痕跡と考えられる小溝を３条確認。床面からの深さは0.04cm前後。南壁に段（棚状施設か）を確認。幅0.19 m前後、床面からの高さ0.10 m前後を測る。　**重複**　Ｄ－３・４と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｄ－３・４である。　**出土遺物**　須恵器高坏（１）、土師器坏（２～７）、土師器甑（８）を図示。（１）は高坏脚部にあたる。土師器坏は内斜口縁坏（２・３）、模倣坏（４～７）に二分される。模倣坏は口縁部がやや直立気味、端部がシャープである。　**時期**　出土遺物から６世紀中頃と想定される。　**備考**　覆土中にHr-FA小ブロックが混入。

Ｈ－10号住居跡（Fig.36・43、PL ８・14）

位置　X 288、Y 127・128　**主軸方向**　N － 70°－ E　**規模**　東西軸（3.37）m、南北軸（1.21）m、壁現高0.56 m。大部分が調査区外。　**面積**　（1.2）㎡　**床面**　地山硬化床。　**壁周溝**　南壁で確認。床面からの深さは0.03 m前後。　**貯蔵穴**　東端部で浅い掘り込み（蓋状の受け部か）が認められるため直近に位置すると想定される。**住居内施設**　南壁に段（棚状施設か）を確認。幅0.14 ～ 0.20 m、床面からの高さ0.04 m前後を測る　**出土遺物**　土師器坏（１）、土師器甕（２）を図示。（１）の内面には十字状のミガキが施されている。　**時期**　出土遺物から６世紀と想定される。

Ｈ－11号住居跡（Fig.34、ＰＬ７）

位置　X 288、Y 131・132　**主軸方向**　N － 79°－ E　**規模**　南北軸（3.24）、東西軸（0.96）m、壁現高0.73 m。大部分が調査区外。　**面積**　（1.04）㎡　**床面**　地山硬化床。　**壁周溝**　北東壁で確認。床面からの深さは0.02 m。　**住居内施設**　東壁で段（棚状施設か）を確認、幅0.12 m前後、床面からの高さ0.30 m前後を測る。　**重複**　Ｈ－７と重複しており、新旧関係はＨ－７→本遺構である。　**出土遺物**　土師器小片。　**時期**　重複関係・出土遺物から６世紀と想定される。

Ｈ－12号住居跡

位置　X 288、Y 130　**主軸方向**　不明。　**規模**　竈煙道先端部のみ検出のため不明、住居部分は調査区外。**面積**　不明。　**竈**　Ｈ－７土層観察から確認。灰黄褐色粘質土による構築、煙道天井部の崩落を受けている。**重複**　Ｈ－７と重複しており、新旧関係はＨ－７→本遺構である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　重複関係から６世紀以降と想定される。

（２）掘立柱建物跡

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Fig.38・39・43、PL ８・14）

位置　X 288 ～ 290、Y 133・134　**主軸方向**　N － 66°－ E　**規模**　桁行５間、梁行４間。東西に伸びる側柱建物。桁行総長6.99 m、梁行総長5.53 m。　**柱穴**　17基。北西隅にあたる１基は調査区外のため今回は確認できず。個別柱穴計測値は「Tab. 7　３区　掘立柱建物跡計測表」を参照。柱穴間隔は桁行0.99 ～ 1.74 m、梁行1.06 ～ 1.76 mである。　**重複**　Ｈ－３、Ｄ－１と重複しており、新旧関係はＨ－３→本遺構→Ｄ－１である。　**出土遺物**　P11覆土中より土師器甑（１）が出土。　**時期**　重複関係・出土遺物・周辺で確認されている掘立柱建物跡

oumi035.indd　43　　2011/01/28　10:45:03

と同軸方向ということから７世紀以降と想定される。

（３）溝

Ｗ－１号溝（Fig.39）

位置　Ｘ 288～290、Ｙ 130～133　**主軸方向**　Ｎ－42°－Ｗ　**規模**　長さ（14.93）ｍ、最大幅0.39ｍ、下幅0.18ｍ、深さ 0.37 ｍ。　**形状等**　やや蛇行しながら直線的に延びる。断面浅いＵ字状。　**重複**　Ｈ－４・７、Ｗ－２と重複しており、新旧関係はＨ－４・７→本遺構→Ｗ－２である。　**出土遺物**　土師器小片。　**時期**　本遺構は元総社蒼海遺跡群（20）３区Ｗ－２（７世紀後半以前）と同一であり、重複関係も考慮すると６世紀後半～７世紀後半と想定される。　**備考**　本遺構は元総社蒼海遺跡群（20）３区Ｗ－２の延伸部と考えられる。

Ｗ－２号溝（Fig.39）

位置　Ｘ 288・289、Ｙ 132　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｗ　**規模**　長さ 4.28 ｍ、最大幅 0.52 ｍ、下幅 0.39 ｍ、深さ 0.11 ｍ。上面を削平されており僅かに底面が残る。　**形状等**　断面浅いＵ字状。　**重複**　Ｈ－５、Ｗ－１と重複しており、新旧関係はＨ－５→Ｗ－１→本遺構である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　不明。　**備考**　本遺構は元総社蒼海遺跡群（20）３区Ｗ－５の延伸部と考えられる。

（３）土坑、ピット（Fig.30・37・39）

土坑、ピットの計測値については「Tab. ８　３区　土坑・ピット計測表」を参照のこと。

Tab.７　３区　掘立柱建物跡計測表

Ｂ－１号掘立柱建物跡

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物	備考
P1	Ｘ289、Ｙ135	0.39	0.34	0.30	円形		
P2	Ｘ289、Ｙ135	0.39	0.36	0.36	円形		
P3	Ｘ290、Ｙ135	0.41	0.32	0.25	楕円形		
P4	Ｘ290、Ｙ135	0.42	0.38	0.25	楕円形		
P5	Ｘ290、Ｙ135	0.40	0.37	0.34	円形		
P6	Ｘ289・290、Ｙ135	0.41	0.37	0.35	円形		
P7	Ｘ289、Ｙ134	0.53	0.51	0.49	円形		
P8	Ｘ289、Ｙ134	0.54	0.48	0.44	円形		
P9	Ｘ289、Ｙ134	0.49	0.48	0.51	円形		
P10	Ｘ290、Ｙ134	0.46	0.38	0.64	楕円形		
P11	Ｘ290、Ｙ132・133	0.42	0.41	0.46	円形	土師器甕	
P12	Ｘ289、Ｙ135	0.43	0.42	0.36	円形		
P13	Ｘ289、Ｙ135	0.43	0.42	0.53	円形		
P14	Ｘ289、Ｙ135	0.36	0.36	0.51	円形		
P15	Ｘ290、Ｙ134・135	0.28	0.26	0.21	円形		
P16	Ｘ290、Ｙ134	0.39	0.35	0.22	楕円形		
P17	Ｘ290、Ｙ134	0.33	0.33	0.52	円形		

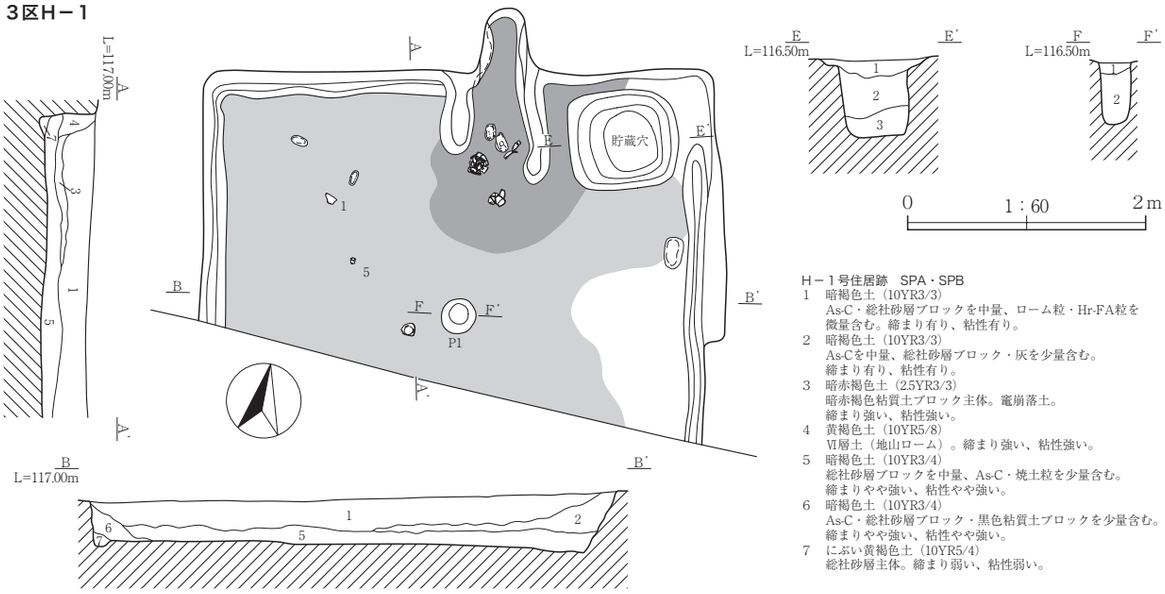
Tab.8　3区　土坑･ピット計測表

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物	備考
Ｄ－１	Ｘ290・291、Ｙ134	2.23	1.96	0.65	楕円形		
Ｄ－２	Ｘ291、Ｙ131・132	(1.65)	1.49	0.92	長方形		
Ｄ－３	Ｘ290、Ｙ129・134	1.32	1.00	0.65	長方形		
Ｄ－４	Ｘ291、Ｙ129	0.70	(0.40)	0.30	楕円形		
Ｄ－５	Ｘ290、Ｙ129	0.84	0.79	0.25	円形		
Ｄ－６	Ｘ289、Ｙ130・131	1.20	(1.03)	0.56	円形		
Ｄ－７	Ｘ289・290、Ｙ130・131	2.51	1.04	0.78	楕円形		
Ｐ－18	Ｘ290、Ｙ132	0.40	0.37	0.19	円形		
Ｐ－19	Ｘ291、Ｙ132	0.48	0.41	0.25	円形		
Ｐ－20	Ｘ291、Ｙ132	0.52	0.48	0.25	方形		
Ｐ－21	Ｘ290、Ｙ131・132	0.53	0.51	0.11	不整形		

※Ｐ－１～17は欠番。

oumi035.indd　44　　2011/01/28　10:45:03

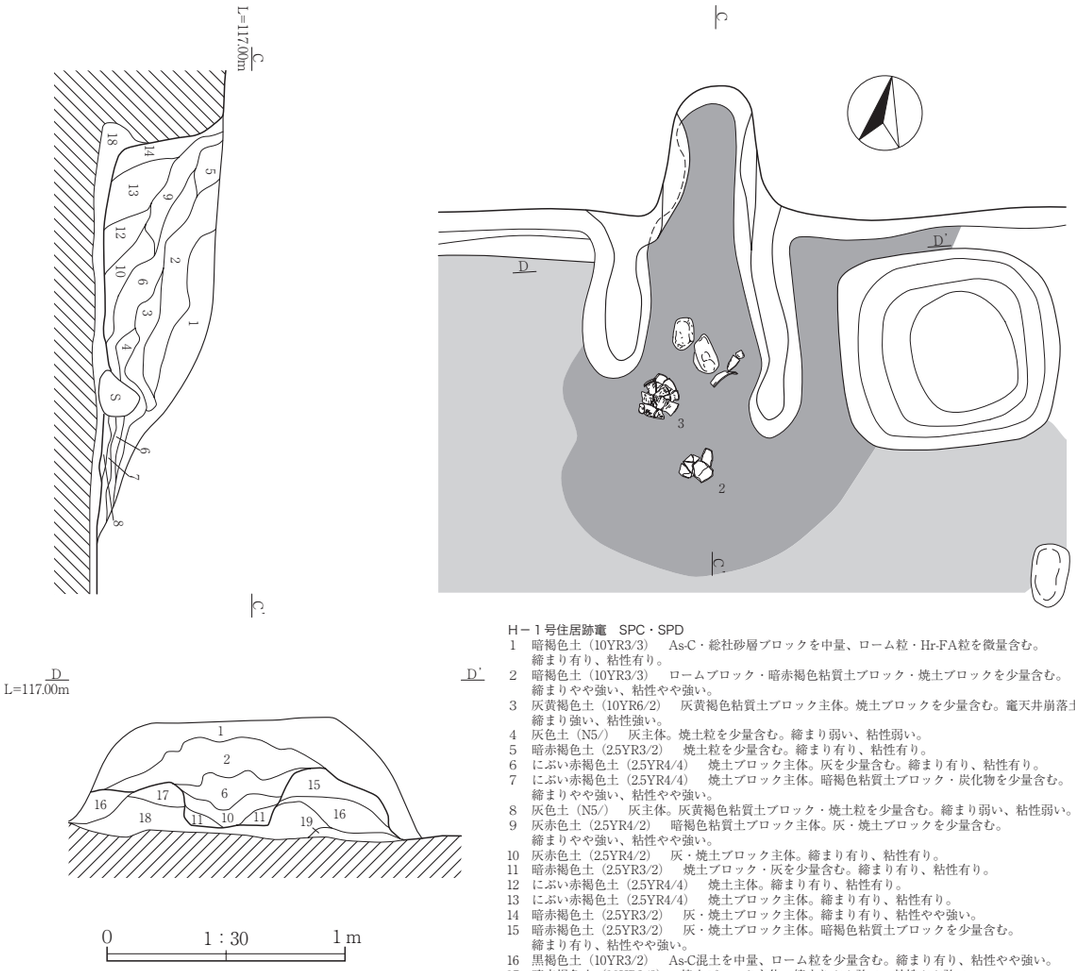
3区H－1



H－1号住居跡　SPA・SPB
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・総社砂層ブロックを中量、ローム粒・Hr-FA粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　As-Cを中量、総社砂層ブロック・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗赤褐色土（2.5YR3/3）
　暗赤褐色粘質土ブロック主体。竈崩落土。締まり強い、粘性強い。
4　黄褐色土（10YR5/8）
　Ⅵ層土（地山ローム）。締まり強い、粘性強い。
5　暗褐色土（10YR3/4）
　総社砂層ブロックを中量、As-C・焼土粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
6　暗褐色土（10YR3/4）
　As-C・総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
7　にぶい黄褐色土（10YR5/4）
　総社砂層主体。締まり弱い、粘性弱い。

H－1号住居跡貯蔵穴　SPE
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・総社砂層ブロックを少量、黒色粘質土ブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　総社砂層ブロック・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H－1号住居跡P1　SPF
1　暗褐色土（10YR3/4）
　総社砂層ブロックを少量、焼土粒・灰を微量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
　総社砂層主体。締まりやや弱い、粘性やや弱い。

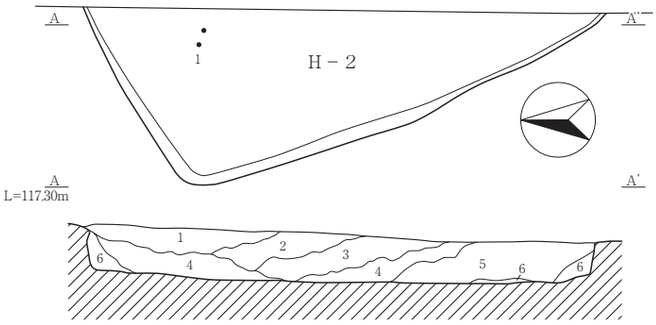


H－1号住居跡竈　SPC・SPD
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・総社砂層ブロックを中量、ローム粒・Hr-FA粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック・暗赤褐色粘質土ブロック・焼土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
3　灰黄褐色土（10YR6/2）　灰黄褐色粘質土ブロック主体。焼土ブロックを少量含む。竈天井崩落土。締まり強い、粘性強い。
4　灰色土（N5/）　灰主体。焼土粒を少量含む。締まり弱い、粘性弱い。
5　暗赤褐色土（2.5YR3/2）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
6　にぶい赤褐色土（2.5YR4/4）　焼土ブロック主体。灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
7　にぶい赤褐色土（2.5YR4/4）　焼土ブロック主体。暗褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
8　灰色土（N5/）　灰主体。灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒を少量含む。締まり弱い、粘性弱い。
9　灰赤色土（2.5YR4/2）　暗褐色粘質土ブロック主体。灰・焼土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
10　灰赤色土（2.5YR4/2）　灰・焼土ブロック主体。締まり有り、粘性有り。
11　暗赤褐色土（2.5YR3/2）　焼土ブロック・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
12　にぶい赤褐色土（2.5YR4/4）　焼土主体。締まり有り、粘性有り。
13　にぶい赤褐色土（2.5YR4/4）　焼土ブロック主体。締まり有り、粘性有り。
14　暗赤褐色土（2.5YR3/2）　灰・焼土ブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。
15　暗赤褐色土（2.5YR3/2）　灰・焼土ブロック主体。暗褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
16　黒褐色土（10YR3/2）　As-C混土を中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
17　暗赤褐色土（10YR3/2）　焼土ブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
18　暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色粘質土ブロック主体。焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
19　黒褐色土（10YR2/2）　総社砂層ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.29　3区　H－1号住居跡

oumi035.indd　45　　2011/01/28　10:45:04

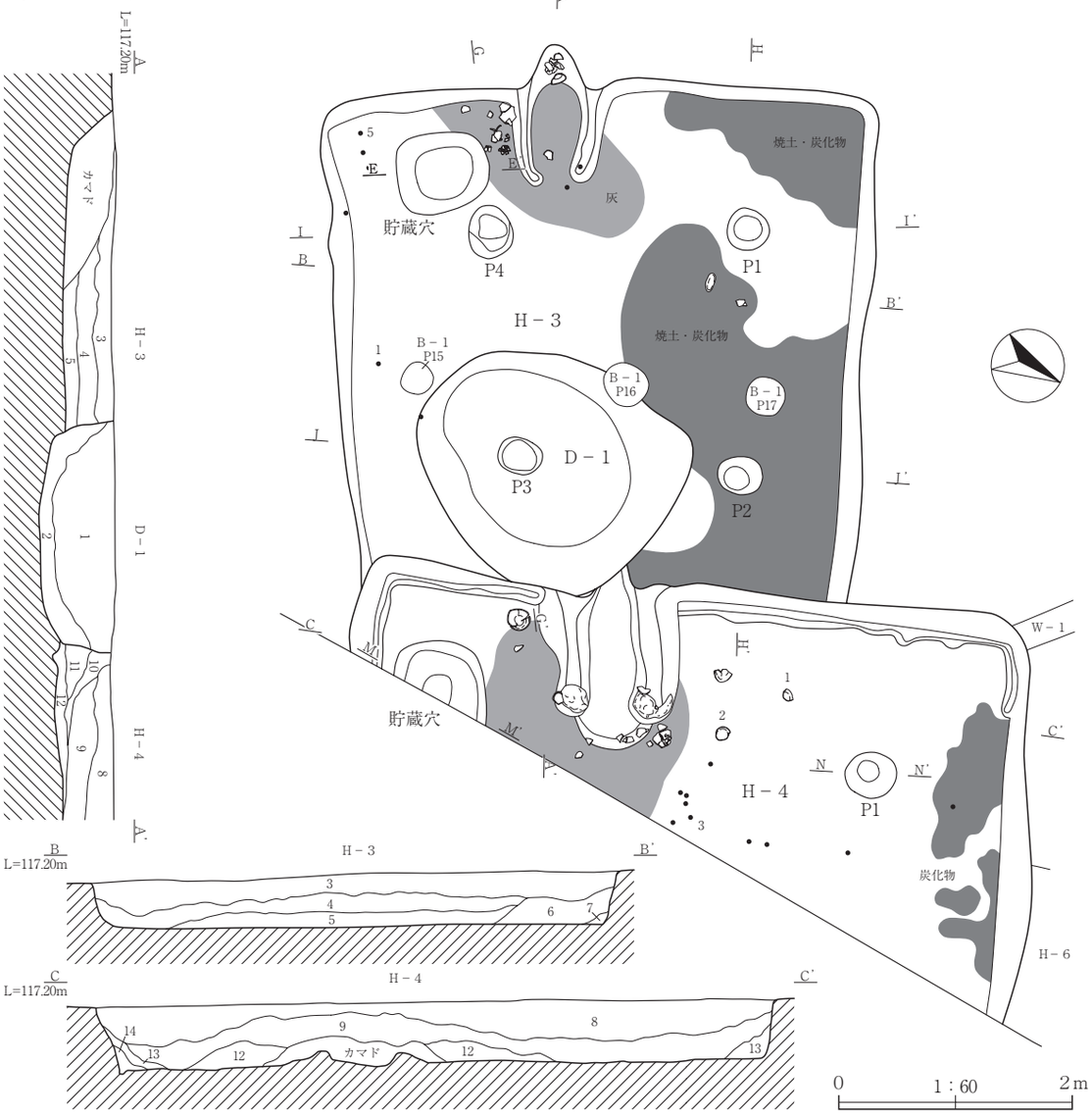
3区H－2



H－2号住居跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-Cを中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒を中量、As-Cを微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）
　ロームブロックを中量、As-Cを微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR2/2）
　黒色粘質土ブロック主体。As-C・ロームブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
6　黒褐色土（10YR2/2）
　黒色粘質土ブロック主体。As-Cを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。

0　1：60　2m

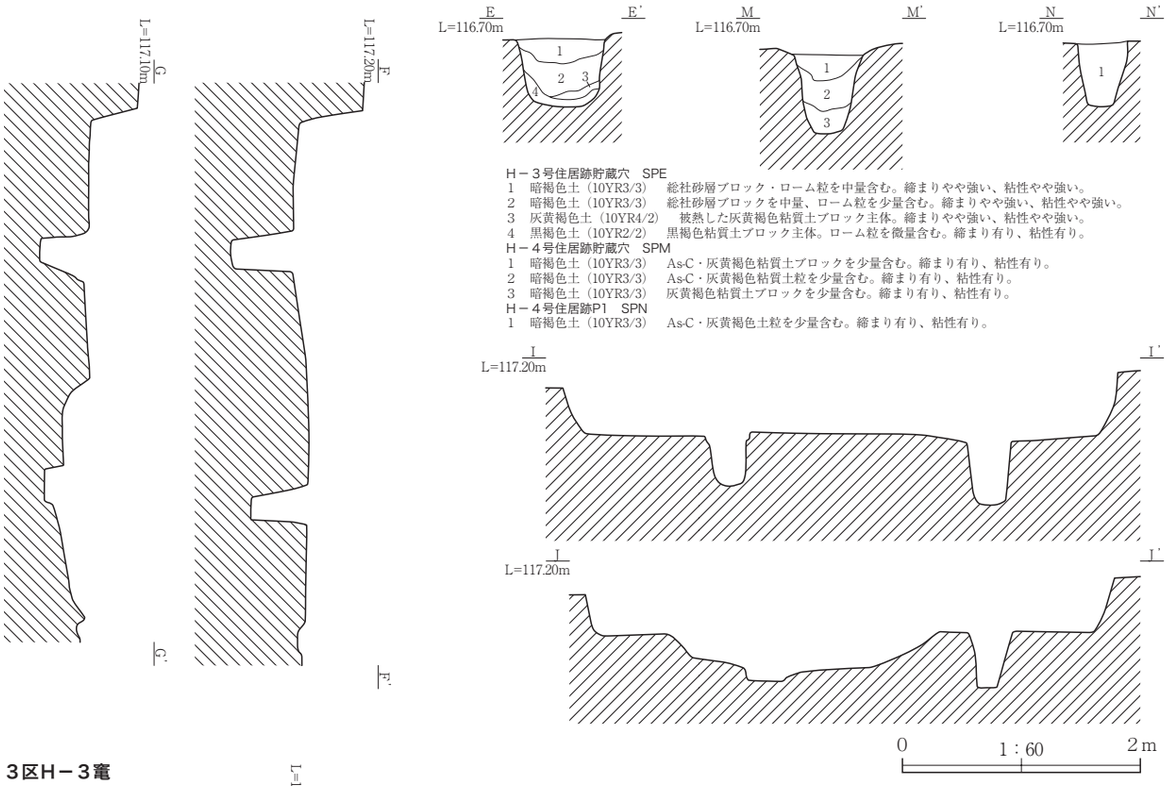
3区H－3・4、D－1



H－3・4号住居跡、D－1号土坑　SPA～SPC
1　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを中量、総社砂層ブロック・ローム粒・Hr-FA粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・総社砂層ブロック・ローム粒・焼土粒を少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　黒色粘質土ブロックを少量、As-C・ローム粒を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
6　黒褐色土（10YR2/2）　As-C混土・灰黄褐色粘質土ブロックを中量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
7　灰黄褐色土（10YR5/2）　灰黄褐色粘質土ブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
8　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
9　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ローム粒を中量、焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
10　灰黄褐色土（10YR5/3）　灰黄褐色粘質土主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
11　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
12　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
13　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
14　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.30　３区　Ｈ－２～４号住居跡、Ｄ－１号土坑

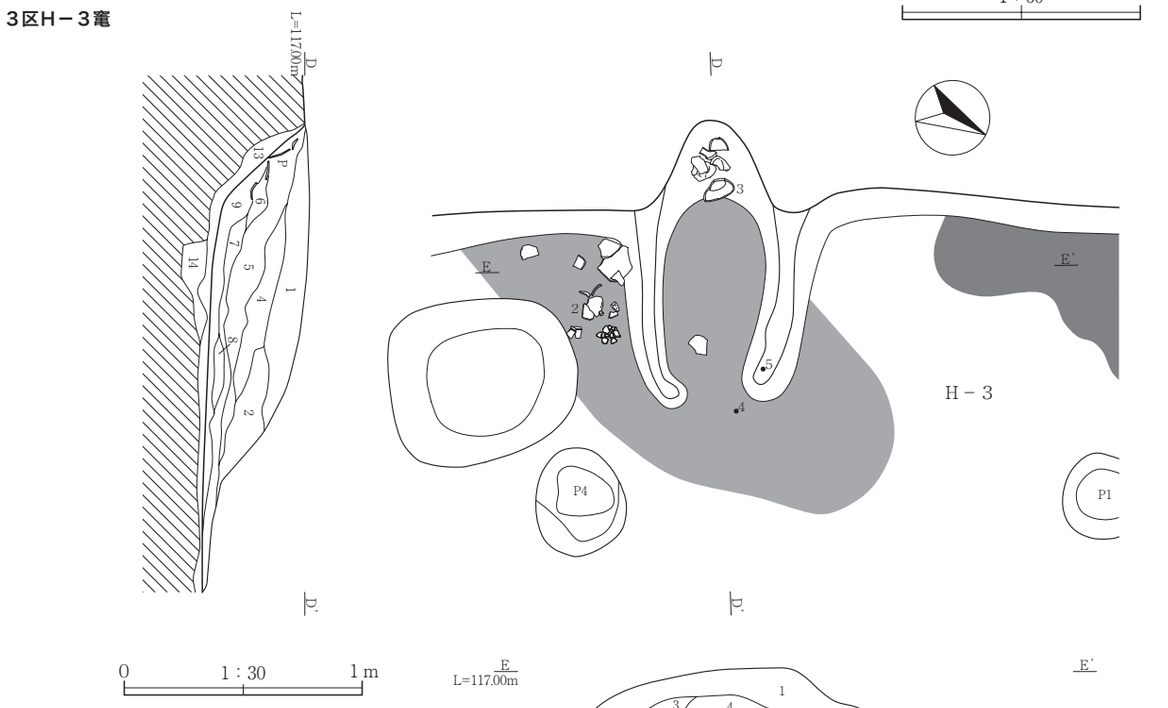
oumi035.indd　46　　2011/01/28　10:45:05



H－３号住居跡貯蔵穴　SPE
1　暗褐色土（10YR3/3）　総社砂層ブロック・ローム粒を中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）　総社砂層ブロックを中量、ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）　被熱した灰黄褐色粘質土ブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
4　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色粘質土ブロック主体。ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

H－４号住居跡貯蔵穴　SPM
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・灰黄褐色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

H－４号住居跡P1　SPN
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・灰黄褐色土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

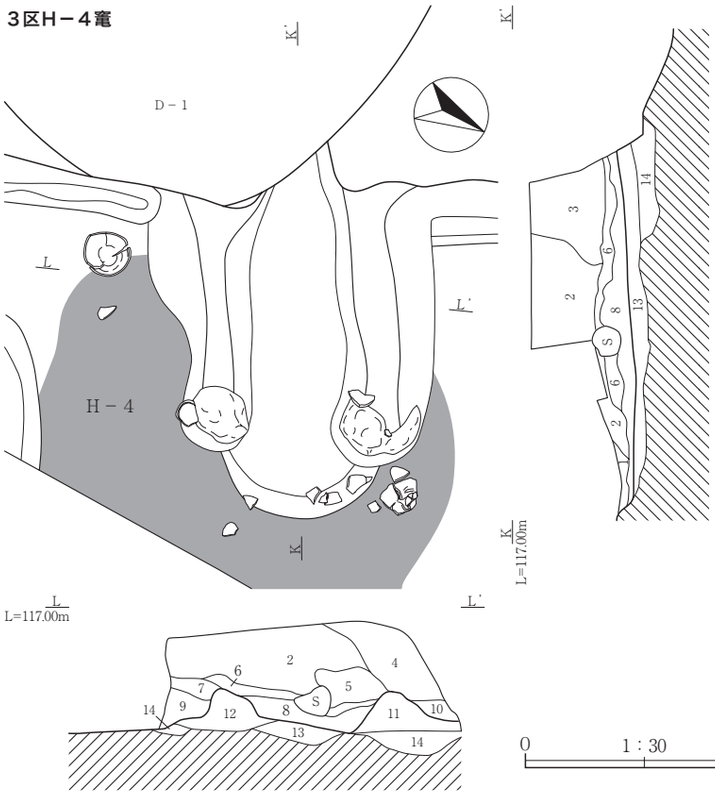


H－３号住居跡竈　SPD・SPE
1　灰黄褐色土（10YR5/2）
灰黄褐色粘質土ブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　褐灰色土（10YR5/1）
褐灰色粘質土ブロック主体。灰を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
ロームブロックを中量、黒色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　灰黄褐色土（10YR5/2）
灰黄褐色粘質土ブロック主体。焼土粒・灰を少量含む。竈天井崩落土。
締まりやや強い、粘性やや強い。
6　暗赤褐色土（2.5YR3/2）
暗褐色粘質土ブロック主体。焼土粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
7　赤褐色土（2.5YR4/6）
焼土ブロック主体。灰黄褐色土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
8　灰赤色（2.5YR6/2）
灰主体。焼土粒を微量含む。締まり弱い、粘性弱い。
9　灰色土（N5/）
灰主体。焼土粒を微量含む。締まり弱い、粘性弱い。
10　暗褐色土（10YR3/4）
灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
11　灰黄褐色土（10YR6/2）
灰黄褐色粘質土主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
12　灰黄褐色土（10YR5/2）
灰黄褐色粘質土主体。締まり強い、粘性強い。
13　灰黄褐色土（10YR5/2）
灰黄褐色粘質土主体。焼土ブロックを微量含む。締まり強い、粘性強い。
14　暗褐色土（10YR3/4）
ローム粒少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.31　３区　H－３・４号住居跡

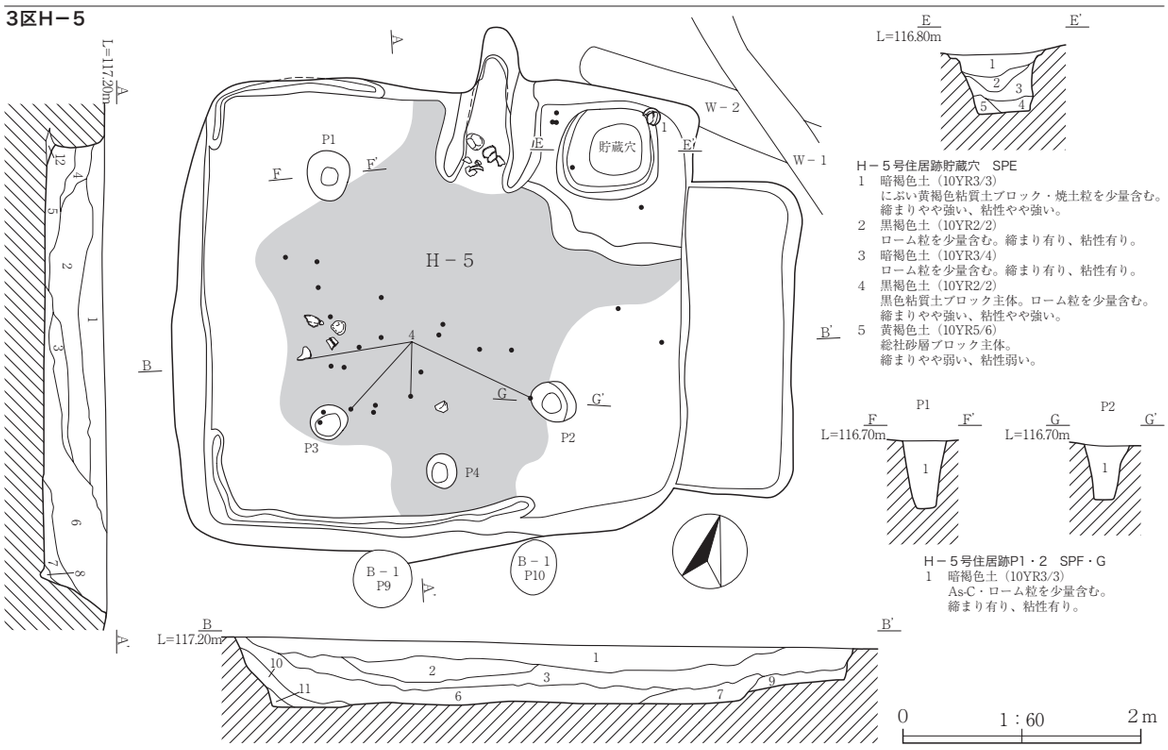
oumi035.indd　47　　2011/01/28　10:45:05

3区H－4竈



H－4号住居跡竈　SPK・SPL
1　灰黄褐色土（10YR6/2）
　灰黄褐色粘質土ブロック主体。焼土粒を少量含む。
　締まりやや強い、粘性強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　暗褐色土主体。As-C・灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
3　灰黄褐色土（10YR6/2）
　灰黄褐色粘質土主体。焼土ブロックを中量含む。
　締まりやや強い、粘性強い。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　As-Cを中量、ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
5　灰黄褐色土（10YR3/4）
　灰黄褐色粘質土ブロック主体。焼土ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性強い。
6　にぶい赤褐色土（5YR4/3）
　灰黄褐色粘質土ブロック・焼土ブロックを中量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
7　灰黄褐色土（10YR3/4）
　灰黄褐色粘質土ブロック主体。締まりやや強い、粘性強い。
8　褐灰色土（10YR4/1）
　灰主体。焼土ブロックを中量含む。締まりやや弱い、粘性弱い。
9　黒褐色土（10YR3/2）
　灰黄褐色粘質土ブロックを中量、炭化物を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
10　にぶい橙色土（5YR6/4）
　被熱した灰黄褐色粘質土主体。締まり強い、粘性強い。
11　灰黄褐色土（10YR6/2）
　灰黄褐色粘質土主体。総社砂層ブロック・焼土粒を微量含む。
　締まり強い、粘性強い。
12　灰黄褐色土（10YR6/2）
　灰黄褐色粘質土主体。総社砂層ブロックを微量含む。
　締まり強い、粘性強い。
13　暗褐色土（10YR3/3）
　灰黄褐色粘質土粒を少量含む。締まりやや強い、粘性有り。
14　黒褐色土（10YR3/2）
　総社砂層ブロック・黒色粘質土ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性有り。

3区H－5



H－5号住居跡貯蔵穴　SPE
1　暗褐色土（10YR3/3）
　にぶい黄褐色粘質土ブロック・焼土粒を少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
2　黒褐色土（10YR2/2）
　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）
　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR2/2）
　黒色粘質土ブロック主体。ローム粒を少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
5　黄褐色土（10YR5/6）
　総社砂層ブロック主体。
　締まりやや弱い、粘性弱い。

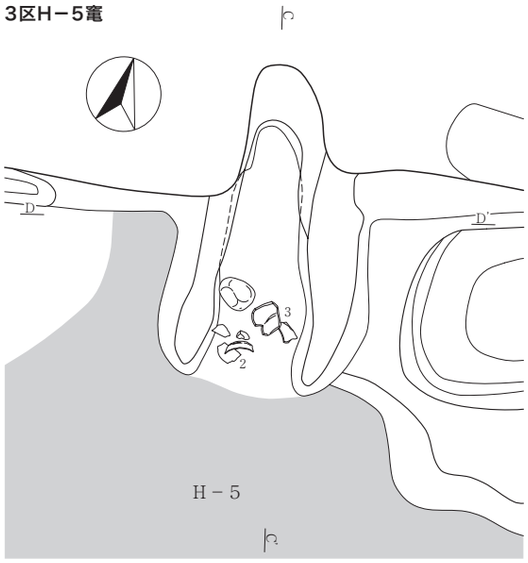
H－5号住居跡P1・2　SPF・G
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・ローム粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

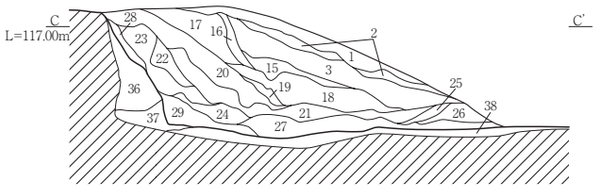
H－5号住居跡　SPA・SPB
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ロームブロック・総社砂層ブロック・を少量、Hr-FAブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、黒色粘質土ブロック・総社砂層ブロックを少量、Hr-FAブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを少量、Hr-FA粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　灰黄褐色土（10YR6/2）　にぶい黄褐色粘質土ブロック主体。焼土粒を少量含む。締まり強い、粘性強い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ローム粒を少量、Hr-FA粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/3）　黒色粘質土ブロックを中量、As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
8　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　黄褐色土ブロック主体。壁面崩落土。締まりやや強い、粘性やや強い。
9　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを微量含む。締まりやや強い、粘性有り。
10　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・黒色粘質土ブロック・ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性有り。
11　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　ローム粒主体。締まり有り、粘性有り。
12　暗褐色土（10YR3/3）　灰黄褐色粘質土粒・ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。

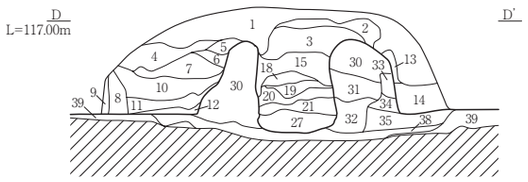
Fig.32　３区　Ｈ－４号住居跡竈、Ｈ－５号住居跡

oumi035.indd　48　　2011/01/28　10:45:06

3区H－5竈





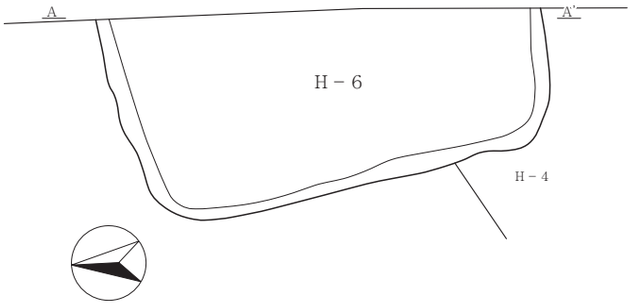


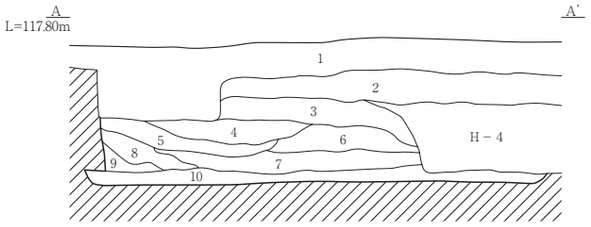
0　1：30　1m

H－5号住居跡竈　SPC・SPD

1　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　カマド構築土をブロック状に含む。締まり有り、粘性やや強い。
3　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。焼土粒をやや多く含む。
　締まり有り、粘性強い。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　にぶい黄褐色砂質土主体。粘土ブロックを中量含む。
　締まりやや弱い、粘性弱い。
5　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　にぶい黄褐色粘質土主体。焼土粒を少量含む。締まり弱い、粘性強い。
6　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　にぶい黄褐色砂質土主体。粘土・焼土粒を多量含む。
　締まりやや弱い、粘性弱い。
7　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　にぶい黄褐色粘質土主体。黒色砂質土ブロックを含む。
　締まり弱い、粘性強い。
8　褐色土（10YR4/4）　褐色砂質土主体。締まり弱い、粘性弱い。
9　暗褐色土（10YR3/4）　粘土ブロックを多量含む。締まりやや弱い、粘性弱い。
10　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・焼土粒を多量含む。締まりやや弱い、粘性弱い。
11　暗褐色土（10YR3/4）　粘土ブロックを多量含む。締まりやや弱い、粘性弱い。
12　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・焼土粒を多量含む。締まりやや弱い、粘性弱い。
13　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。黒色砂質土ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性強い。
14　黒褐色土（10YR2/3）　黒色砂質土主体。締まり有り、粘性弱い。
15　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性強い。
16　褐色土（10YR4/4）　焼土粒を多量含む。締まりやや有り、粘性強い。
17　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。黒色砂質土ブロック・焼土ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性強い。
18　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　にぶい黄褐色粘質土主体。黒色砂質土ブロック・焼土粒中量を含む。
　締まり有り、粘性強い。
19　明褐色土（7.5YR5/6）　焼土ブロックを多量含む。締まり弱い、粘性やや弱い。
20　黒褐色土（10YR2/3）　炭化物を少量含む。締まり弱い、粘性弱い。
21　明褐色土（7.5YR5/6）　焼土ブロックを多量含む。締まり弱い、粘性やや弱い。
22　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量含む。締まり弱い、粘性弱い。
23　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量含む。締まり弱い、粘性弱い。
24　黒褐色土（10YR2/3）　焼土ブロックを多量含む。締まりやや有り、粘性弱い。
25　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。炭化物を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
26　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。焼土粒を中量含む。締まり有り、粘性強い。
27　褐色土（10YR4/4）　焼土粒・灰を多量含む。締まり有り、粘性強い。
28　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性弱い。
29　褐色土（10YR4/4）　焼土粒を中量含む。締まり弱い、粘性強い。
30　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。竈構築材。締まり有り、粘性強い。
31　褐色土（10YR4/4）　竈構築土の被熱赤変部分。締まり有り、粘性強い。
32　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　にぶい黄褐色粘質土主体。竈構築材。締まり有り、粘性強い。
33　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
34　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性強い。
35　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
36　黒褐色土（10YR2/3）　As-Cを少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
37　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　総社砂層主体。締まり有り、粘性弱い。
38　黒褐色土（10YR2/3）　総社砂層ブロックを少量含む。。締まりやや弱く、粘性弱い。
39　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　総社砂層主体。黒色砂質土ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性弱い。

3区H－6





0　1：60　2m

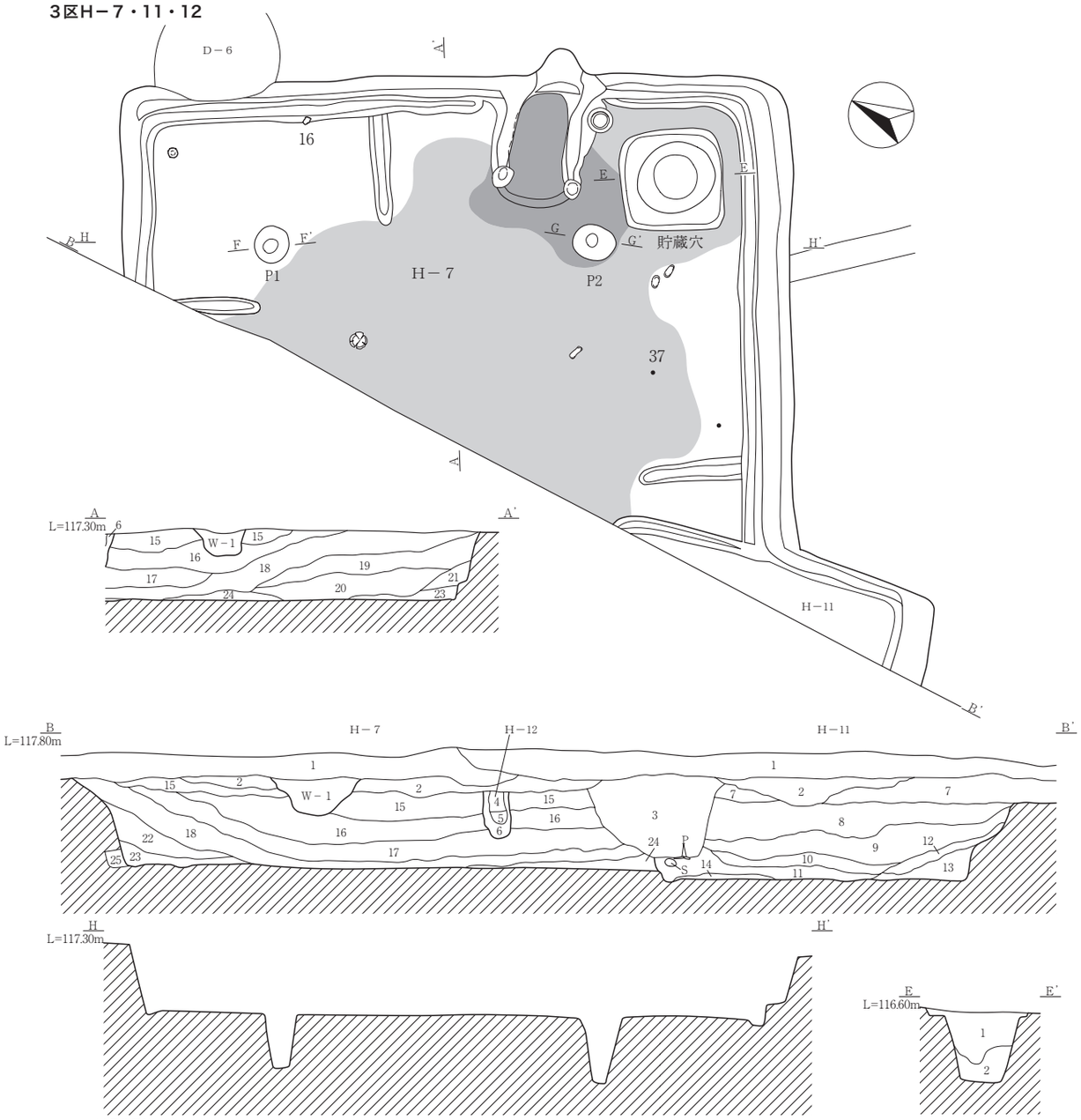
H－6号住居跡　SPA

1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/4）
　As-B混土・褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）
　ロームブロックを中量・As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　黒褐色土（10YR3/1）
　黒色粘質土ブロック主体。ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/3）
　黒色粘質土ブロック・ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/3）
　ロームブロックを中量、黒色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
8　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
9　灰黄褐色土（10YR3/3）
　ロームブロックを中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
10　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒・黒色粘質土ブロックを微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。

Fig.33　３区　Ｈ－５号住居跡竈、Ｈ－６号住居跡

oumi035.indd　49　　2011/01/28　10:45:07

3区H－7・11・12



H－7・11号住居跡　SPA・SPB

1　現耕作土
2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
4　灰赤色土（2.5YR6/2）　被熱した灰褐色粘質土主体。煙道部天井崩落土。締まり強い、粘性強い。
5　黒褐色土（10YR3/2）　灰・焼土粒を微量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
6　灰赤色土（2.5YR6/2）　被熱した灰褐色粘質土主体。締まり強い、粘性強い。
7　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
8　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを中量、As-C・黒色粘質土ブロックを少量、Hr-FA粒を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
9　黒褐色土（10YR3/2）　黒色粘質土ブロックを中量、ロームブロックを少量、Hr-FA粒を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
10　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒を中量、黒色粘質土粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
11　褐色土（10YR4/4）　ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
12　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒を中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
13　黒褐色土（10YR3/2）　黒色粘質土ブロック主体。ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性強い。
14　褐色土（10YR4/6）　褐色砂質土主体。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
15　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ロームブロックを中量、黒色粘質土ブロックを少量、Hr-FAブロックを微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
16　暗褐色土（10YR3/3）　黒色粘質土ブロックを中量、As-C・ロームブロックを少量、Hr-FAブロックを微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
17　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土ブロック・ローム粒を中量、Hr-FAブロックを微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
18　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土ブロック・ロームブロックを中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
19　暗褐色土（10YR3/3）　黒色粘質土粒・ローム粒・Hr-FAブロックを微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
20　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　灰黄褐色粘質土ブロックを中量、黒色粘質土ブロック・総社砂層ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
21　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック・黒色粘質土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
22　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック・黒色粘質土ブロックを中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
23　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土ブロック主体。ロームブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
24　褐色土（10YR4/6）　褐色砂質土主体。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
25　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土ブロック主体。ローム粒を微量含む。締まり強い、粘性強い。

0　1：60　2m

H－7号住居跡貯蔵穴　SPE

1　暗褐色土（10YR3/3）
　ロームブロック・焼土ブロックを中量、
　黒色粘質土ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

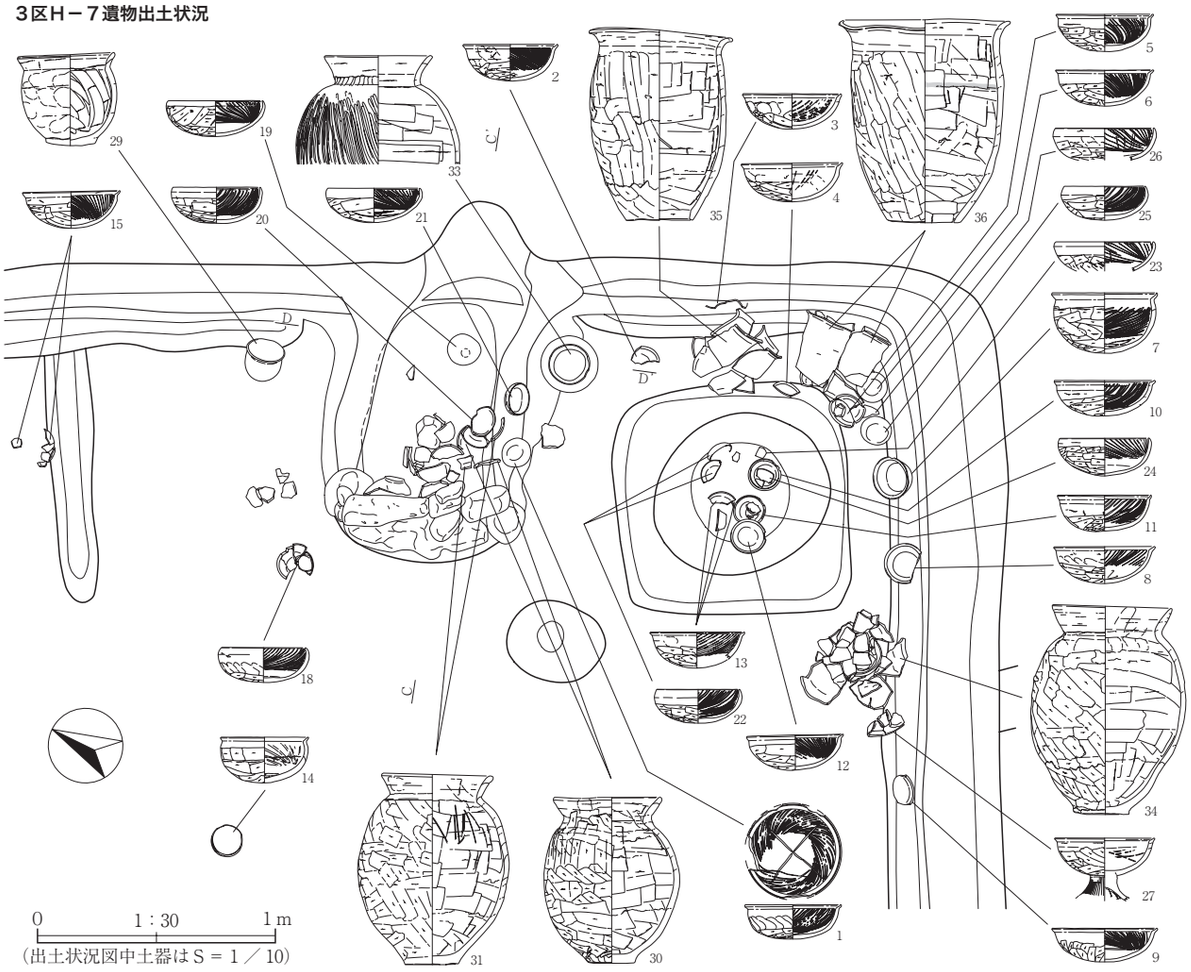
H－7号住居跡P1・2　SPF・G

1　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　総社砂層主体。
　締まりやや弱い、粘性弱い。
3　黄褐色土（10YR5/6）
　総社砂層主体。ローム粒・灰を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

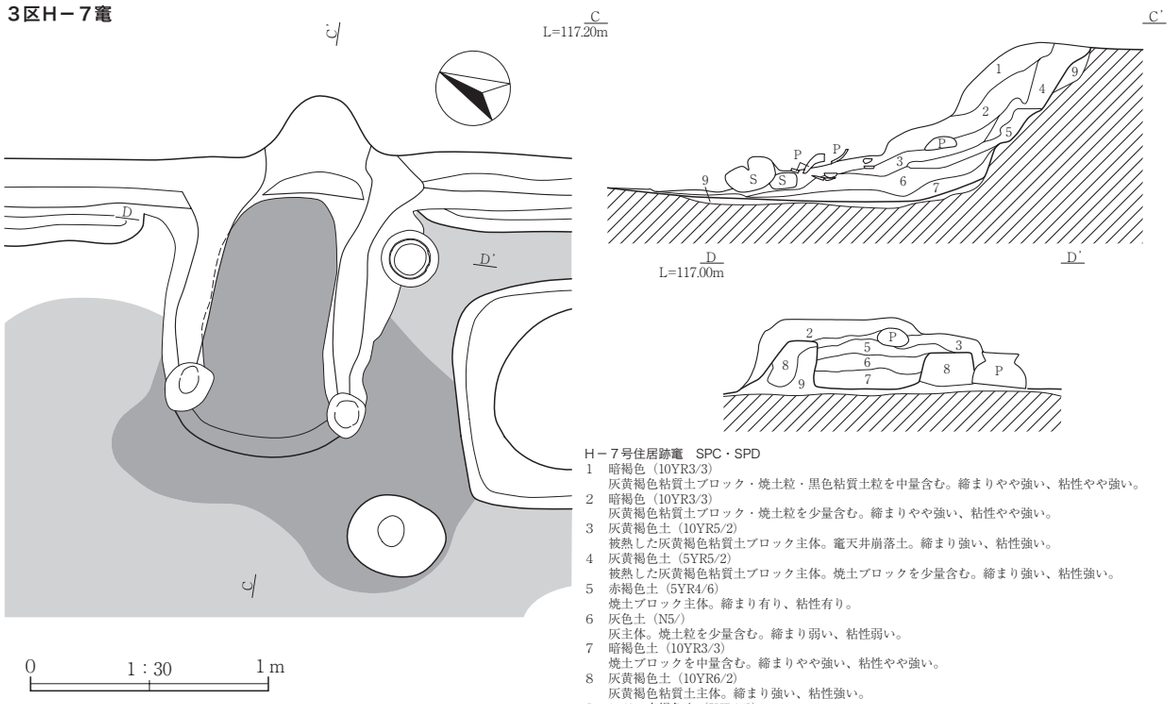
Fig.34　3区　H－7・11・12号住居跡

oumi035.indd　50　　2011/01/28　10:45:07

３区Ｈ－７遺物出土状況



３区Ｈ－７竈



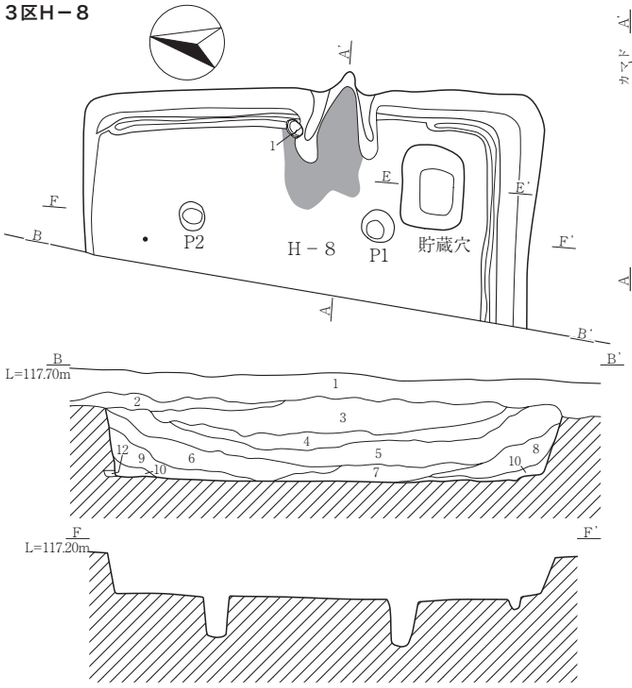
Ｈ－７号住居跡竈　SPC・SPD

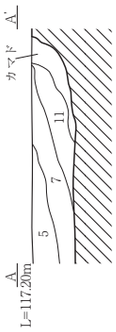
1　暗褐色（10YR3/3）
　灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒・黒色粘質土粒を中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
2　暗褐色（10YR3/3）
　灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
3　灰黄褐色土（10YR5/2）
　被熱した灰黄褐色粘質土ブロック主体。竈天井崩落土。締まり強い、粘性強い。
4　灰黄褐色土（5YR5/2）
　被熱した灰黄褐色粘質土ブロック主体。焼土ブロックを少量含む。締まり強い、粘性強い。
5　赤褐色土（5YR4/6）
　焼土ブロック主体。締まり有り、粘性有り。
6　灰色土（N5/）
　灰主体。焼土粒を少量含む。締まり弱い、粘性弱い。
7　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土ブロックを中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
8　灰黄褐色土（10YR6/2）
　灰黄褐色粘質土主体。締まり強い、粘性強い。
9　にぶい赤褐色土（5YR4/3）
　焼土粒・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。

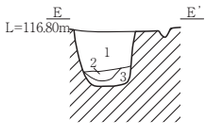
Fig.35　３区　Ｈ－７号住居跡遺物出土状況・竈

oumi035.indd　51　　2011/01/28　10:45:08

3区H－8



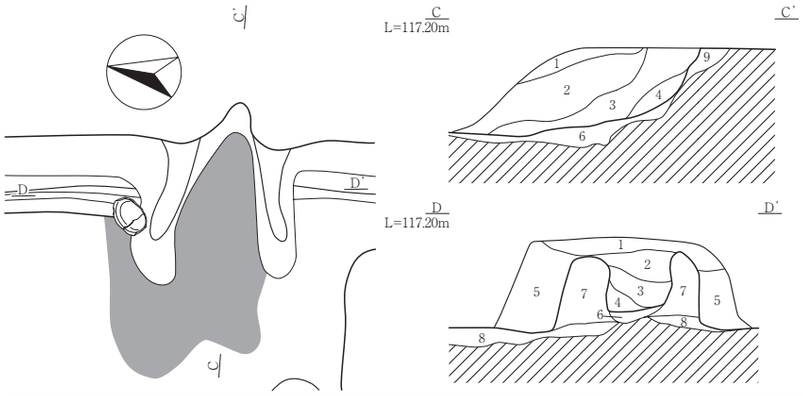




H－8号住居跡貯蔵穴　SPE
1　暗褐色土（10YR3/3）
　ロームブロックを少量、As-C・焼土粒・黒色粘質土粒を微量含む。
　締まり有り、粘性有り。
2　黄褐色土（10YR5/6）
　ロームブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
3　褐色土（10YR4/4）
　ローム粒・総社砂層主体。締まり有り、粘性有り。

0　1：60　2m

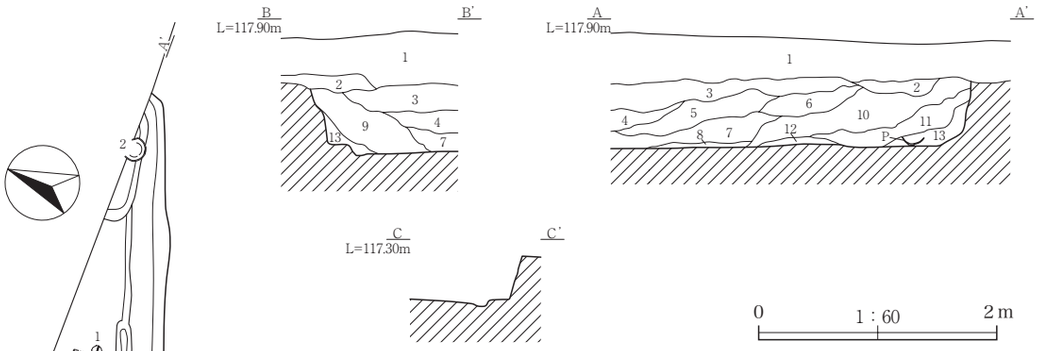
H－8号住居跡　SPA・SPB
1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-B混土を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・Hr-FAブロック・ロームブロックを中量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒を中量含む。Hr-FA粒を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・黒色粘質土ブロック・Hr-FAブロックを中量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
7　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロックを中量、As-C・Hr-FA粒を少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
8　暗褐色土（10YR3/3）　Hr-FAブロックを中量、As-C・黒色粘質土粒を少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
9　黒褐色土（10YR3/2）　黒色粘質土粒を微量含む。締まり有り、粘性やや強い。
10　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性やや強い。
11　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量、灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。
12　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。



H－8号住居跡竈　SPC・SPD
1　灰黄褐色土（10YR6/2）
　灰黄褐色粘質土ブロック主体。As-C・暗褐色土ブロック
　を少量含む。締まりやや強い、粘性強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
3　灰黄褐色土（10YR6/2）
　被熱した灰黄褐色粘質土ブロック主体。
　締まりやや強い、粘性強い。
4　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・焼土粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/3）
　焼土粒・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
7　灰黄褐色土（10YR6/2）
　灰黄褐色土主体。締まり強い、粘性強い。
8　黒褐色土（10YR3/2）
　灰黄褐色粘質土粒・焼土粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

0　1：30　1m

3区H－10



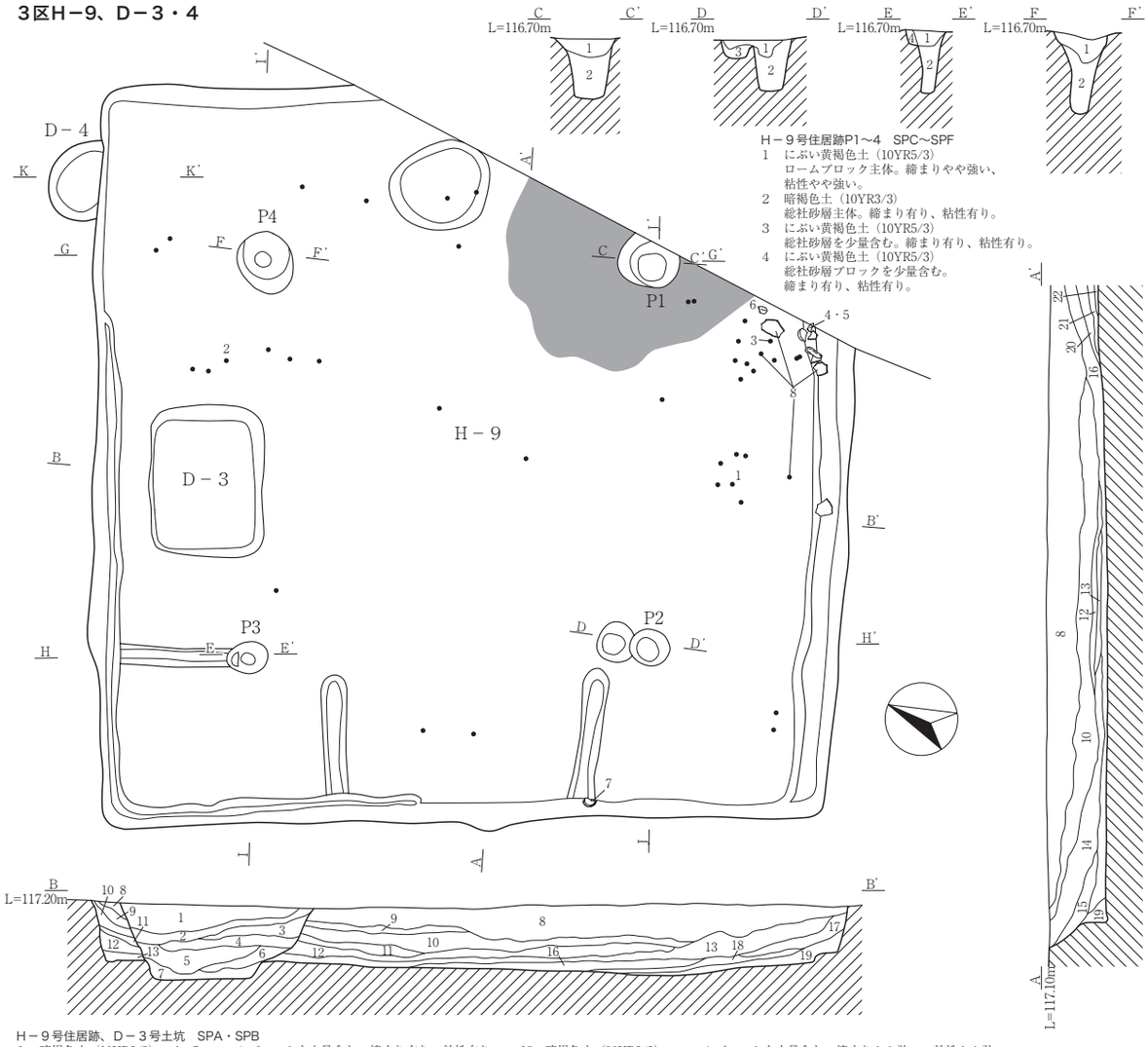
0　1：60　2m

H－10号住居跡　SPA・SPB
1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-B混土を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒・黒色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　褐色土（10YR4/4）　ローム粒を中量、As-C・Hr-FAブロック・黒色粘質土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
5　黄褐色土（10YR5/6）　ロームブロック主体。As-C・Hr-FAブロック・黒色粘質土ブロックを微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
6　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
7　褐色土（10YR4/4）　ローム粒・Hr-FA粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
8　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒・炭化物を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
9　褐色土（10YR4/4）　ローム粒主体。Hr-FAブロック・黒色粘質土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
10　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック・黒色粘質土ブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
11　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
12　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・焼土ブロック主体。締まり弱い、粘性弱い。
13　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.36　3区　H－8・10号住居跡

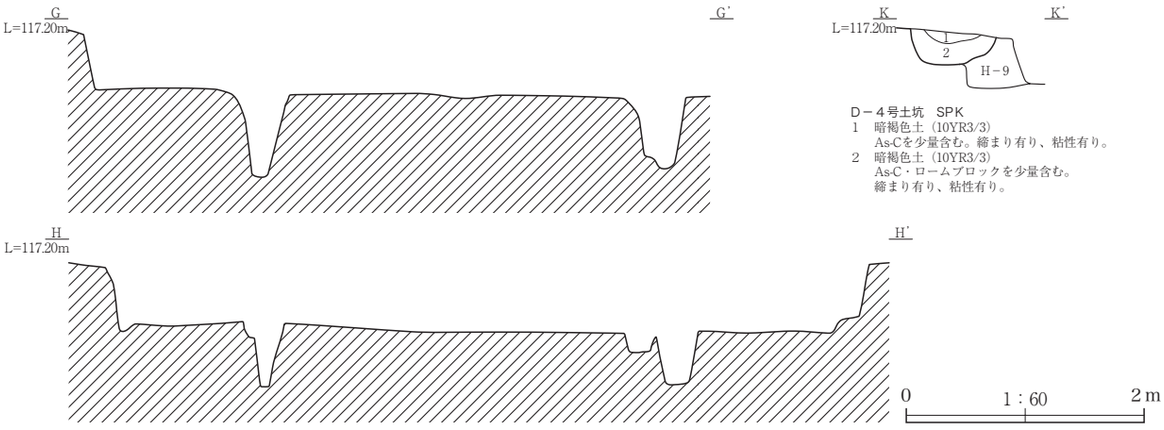
oumi035.indd　52　　2011/01/28　10:45:09

3区H－9、D－3・4



H－９号住居跡P1～4　SPC～SPF
1　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
　ロームブロック主体。締まりやや強い、
　粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　総社砂層主体。締まり有り、粘性有り。
3　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
　総社砂層を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
　総社砂層ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

H－９号住居跡、D－３号土坑　SPA・SPB
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ロームブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR3/2）　As-Cを少量、ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒・黒色粘質土粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ロームブロック・黒色粘質土粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒・黒色粘質土ブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/4）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロックを中量含む。締まり有り、粘性やや強い。
8　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
9　黒褐色土（10YR2/2）　As-Cを少量、ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
10　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロックを少量、Hr-FA粒・黒色粘質土粒を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
11　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒を少量、Hr-FA粒を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
12　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
13　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒を少量、床面直上に炭化物を微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
14　黒褐色土（10YR3/2）　黒色粘質土ブロックを中量、ロームブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
15　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
16　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒・黒色粘質土粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
17　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色土主体。ロームブロックを微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
18　黒褐色土（10YR3/1）　炭化物・焼土ブロックを含む硬化層土。締まり強い、粘性やや強い。
19　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色土主体。ロームブロックを少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
20　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ロームブロック主体。黒色粘質土ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
21　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ロームブロック主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
22　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ロームブロック主体。灰・焼土粒を少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。



D－４号土坑　SPK
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・ロームブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

Fig.37　３区　Ｈ－９号住居跡、Ｄ－３・４号土坑

oumi035.indd　53　　2011/01/28　10:45:09

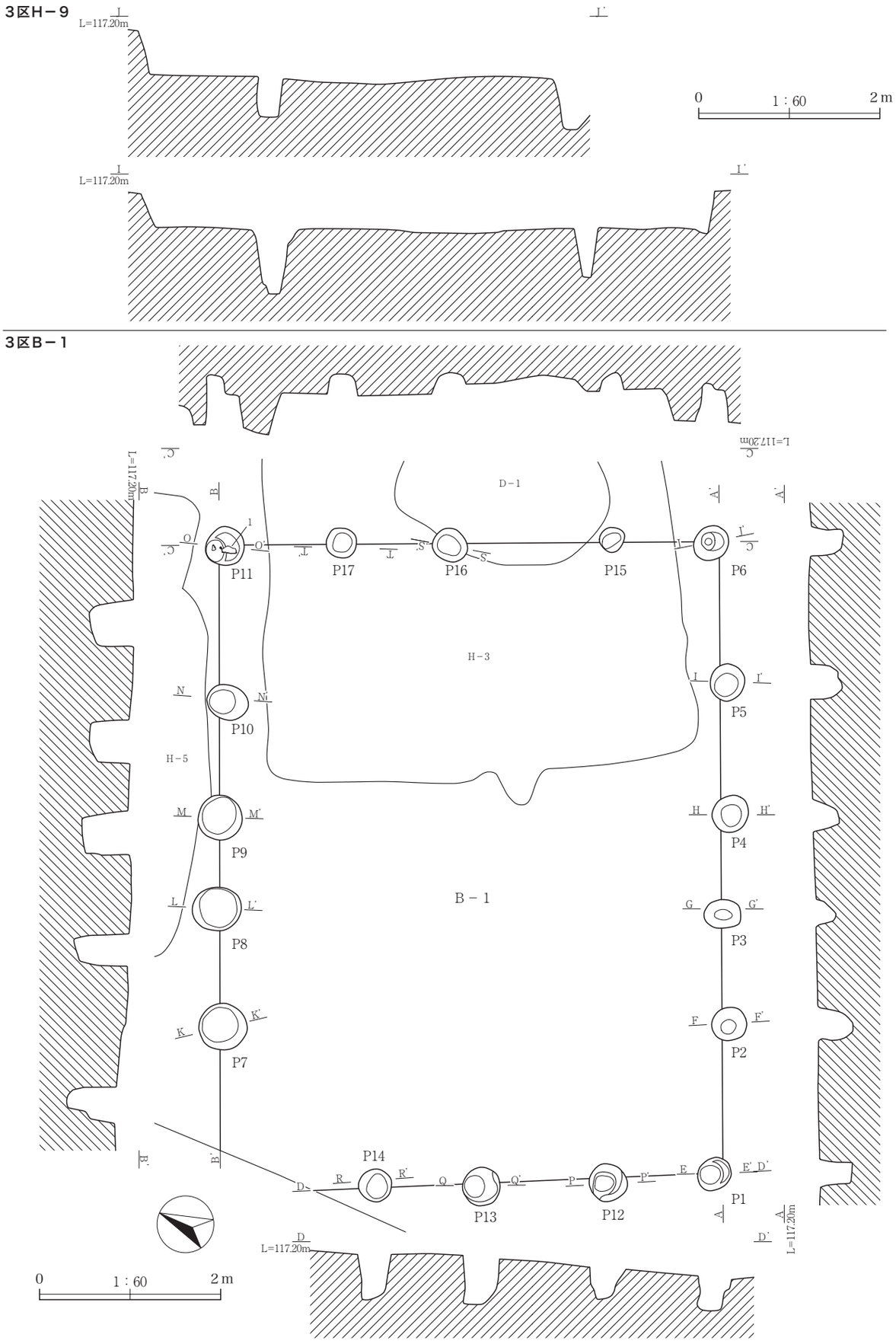
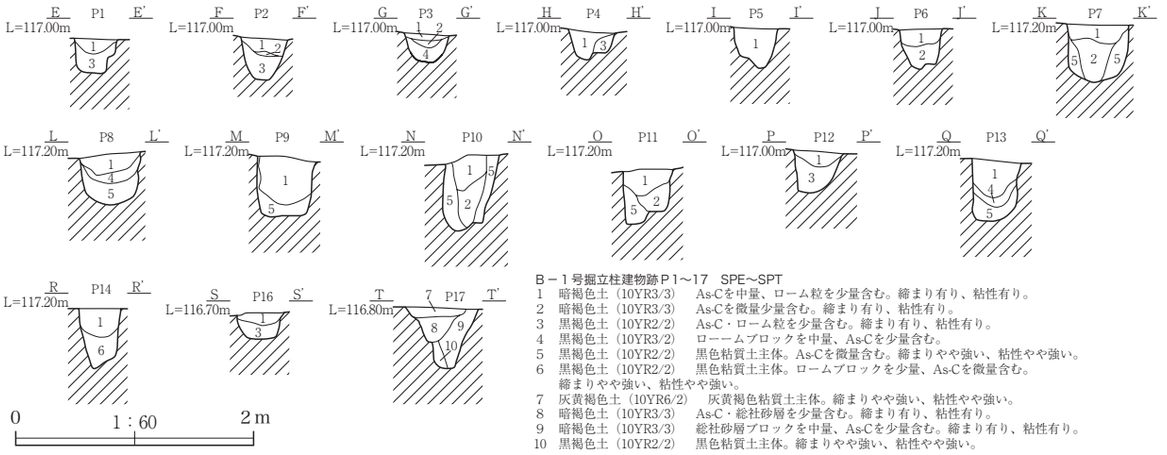


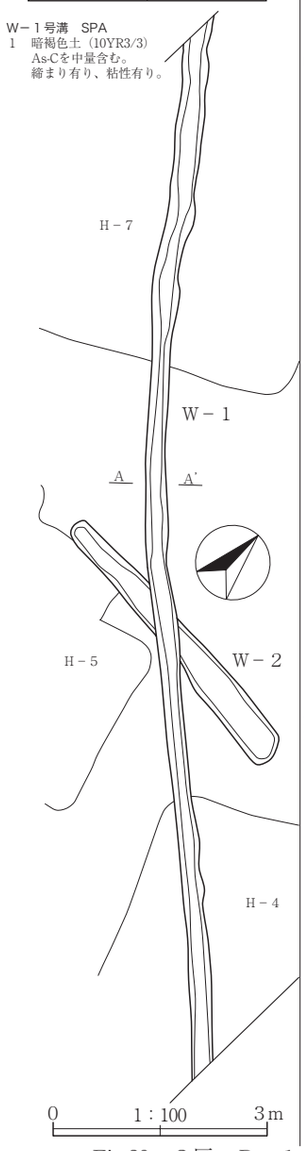
Fig.38　3区　H－9号住居跡、B－1号掘立柱建物跡

oumi035.indd　54　　2011/01/28　10:45:10



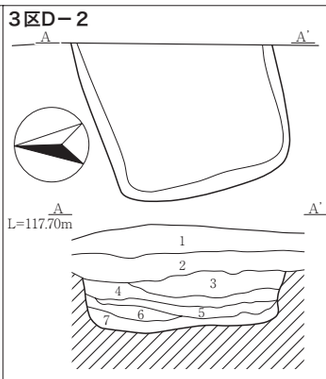
B－１号掘立柱建物跡Ｐ1～17　SPE～SPT
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを微量少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロックを中量、As-Cを少量含む。
5　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土主体。As-Cを微量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
6　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土主体。ロームブロックを少量、As-Cを微量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
7　灰黄褐色土（10YR6/2）　灰黄褐色粘質土主体。締まりやや強い、粘性やや強い。
8　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・総社砂層を少量含む。締まり有り、粘性有り。
9　暗褐色土（10YR3/3）　総社砂層ブロックを中量、As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
10　黒褐色土（10YR2/2）　黒色粘質土主体。締まりやや強い、粘性やや強い。

3区W－１・２



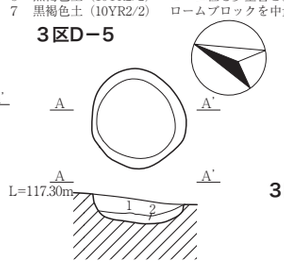
W－１号溝　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-Cを中量含む。
　締まり有り、粘性有り。

3区D－２



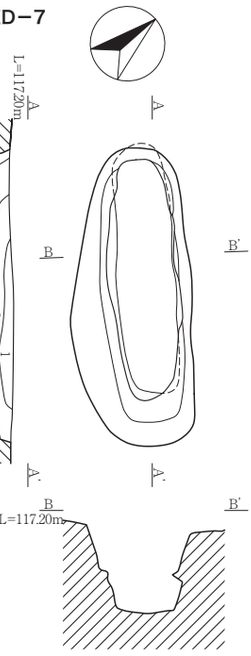
D－２号土坑　SPA
1　現耕作土
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-B混土を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR2/2）　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　褐灰色土（10YR4/1）　Hr-FA堆積層か。締まり有り、粘性やや強い。
6　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒を少量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
7　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロックを中量含む。締まりやや強い、粘性やや強い。

3区D－5

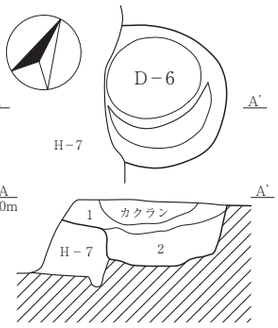


D－５号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　As-C・ロームブロックを少量含む。
　締まり有り、粘性有り。

3区D－7



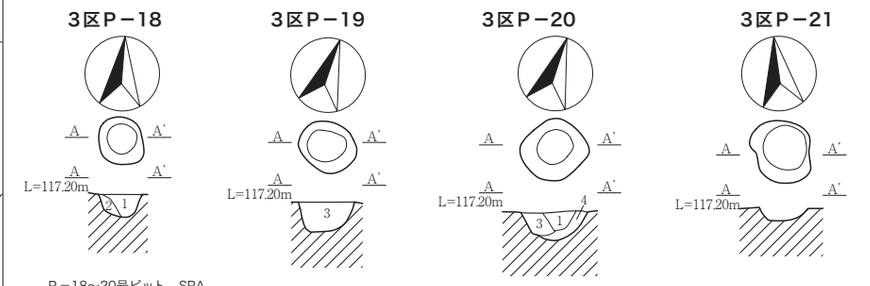
3区D－6



D－６号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　ローム粒を少量含む。
　締まり有り、粘性有り。
2　にぶい黄褐色土（10YR5/4）
　ローム粒主体。
　締まり有り、粘性有り。

D－７号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR2/2）　As-C混土主体。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　As-C混土主体。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを中量、ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを少量、ローム粒を微量含む。締まり有り、粘性やや強い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　As-Cを少量含む。締まり有り、粘性やや有り。
6　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性やや有り。
7　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒・黒色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性やや有り。
8　暗褐色土（10YR3/3）　As-C・ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性やや有り。
9　黒褐色土（10YR3/2）　As-C・ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
10　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
11　暗褐色土（10YR3/4）　As-Cを中量、ローム粒・総社砂層・黒色粘質土ブロックを少量含む。
　締まりやや強い、粘性やや強い。
12　黒褐色土（10YR3/2）　As-Cを少量、総社砂層ブロックを少量。締まりやや強い、粘性やや強い。

3区P－18　3区P－19　3区P－20　3区P－21



P－18～20号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　As-C混土・ローム粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　ロームブロック主体。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色粘質土主体。締まりやや強い、粘性やや強い。

0 1：60 2m

Fig.39　３区　Ｂ－１号掘立柱建物跡、W－１・２号溝、D－２・５～７号土坑、P－18～21号ピット

oumi035.indd　55　2011/01/28　10:45:11

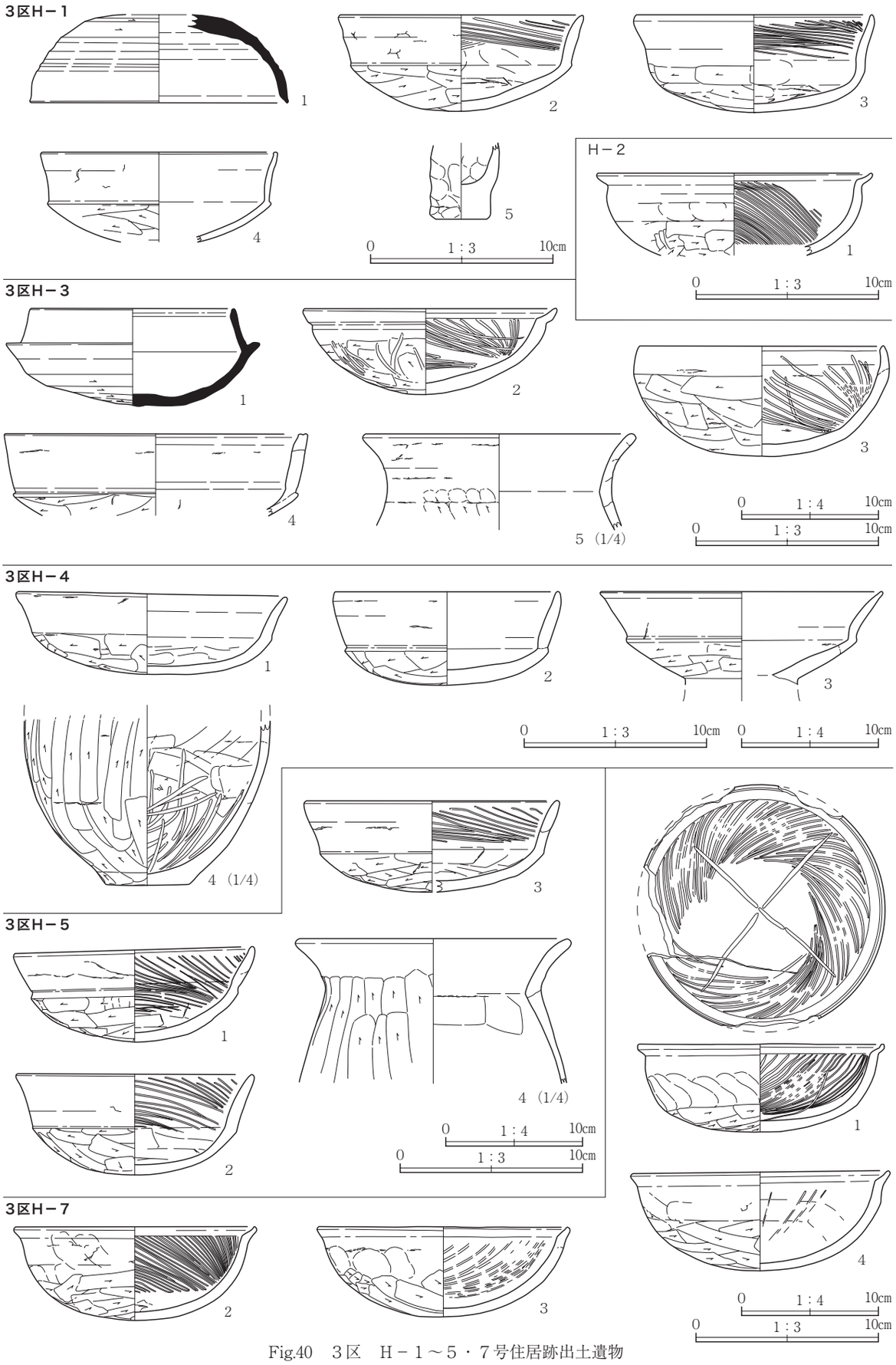


Fig.40　３区　Ｈ－１～５・７号住居跡出土遺物

oumi035.indd　56　　2011/01/28　10:45:11

3区H－7

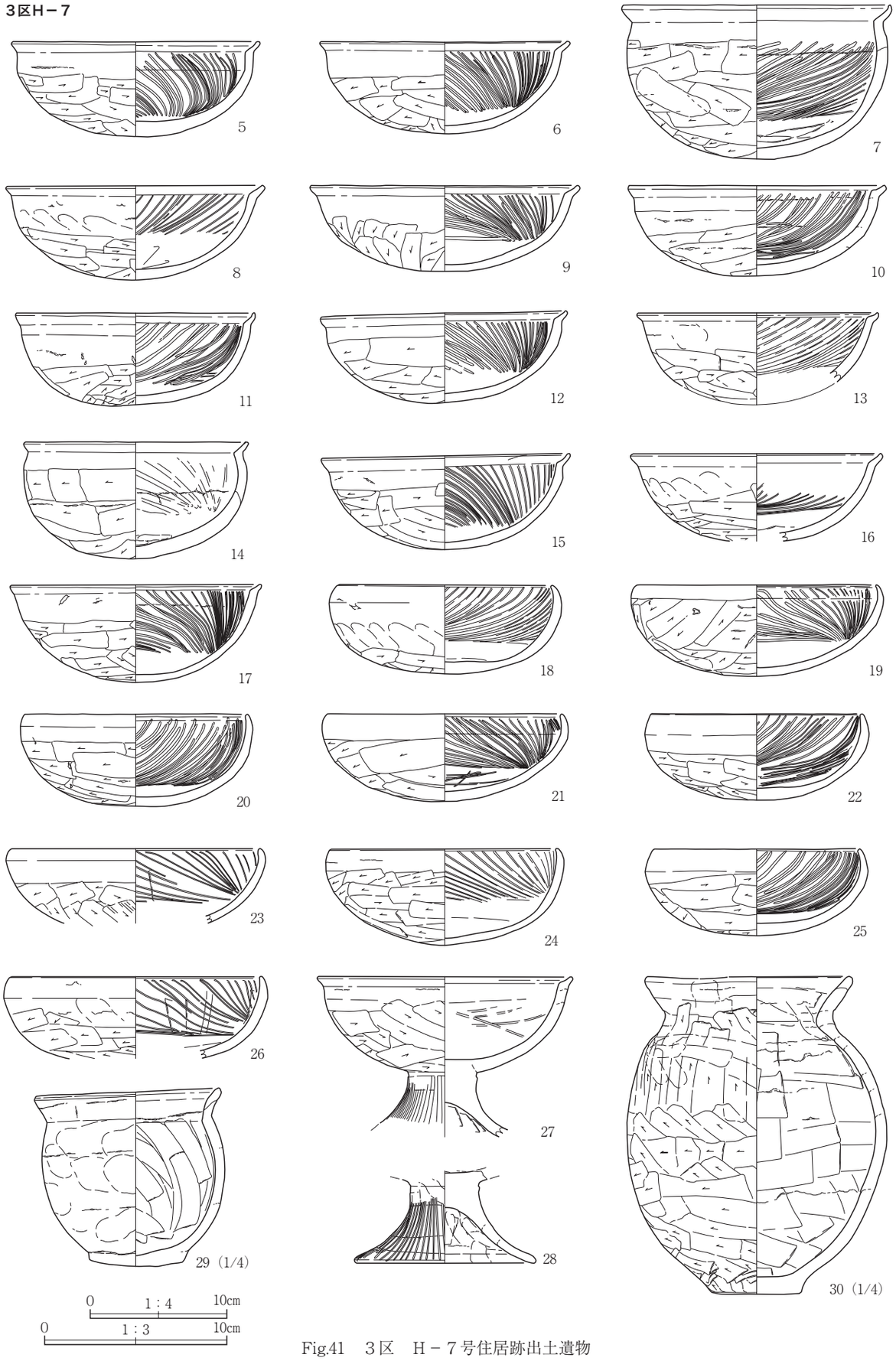


Fig.41　３区　Ｈ－７号住居跡出土遺物

oumi035.indd 57 2011/01/28 10:45:11

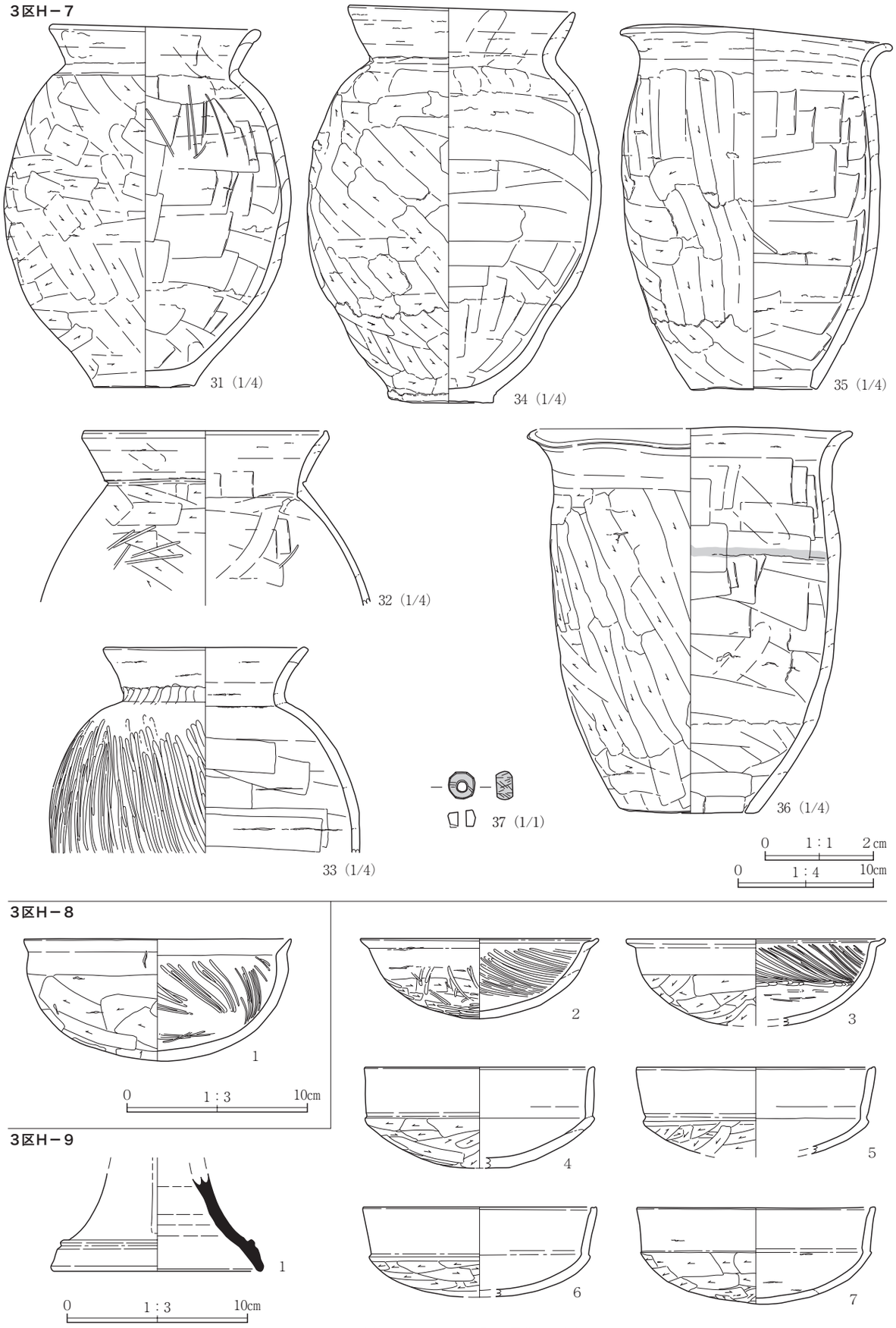


Fig.42　3区　H－7～9号住居跡出土遺物

oumi035.indd 58 2011/01/28 10:45:12

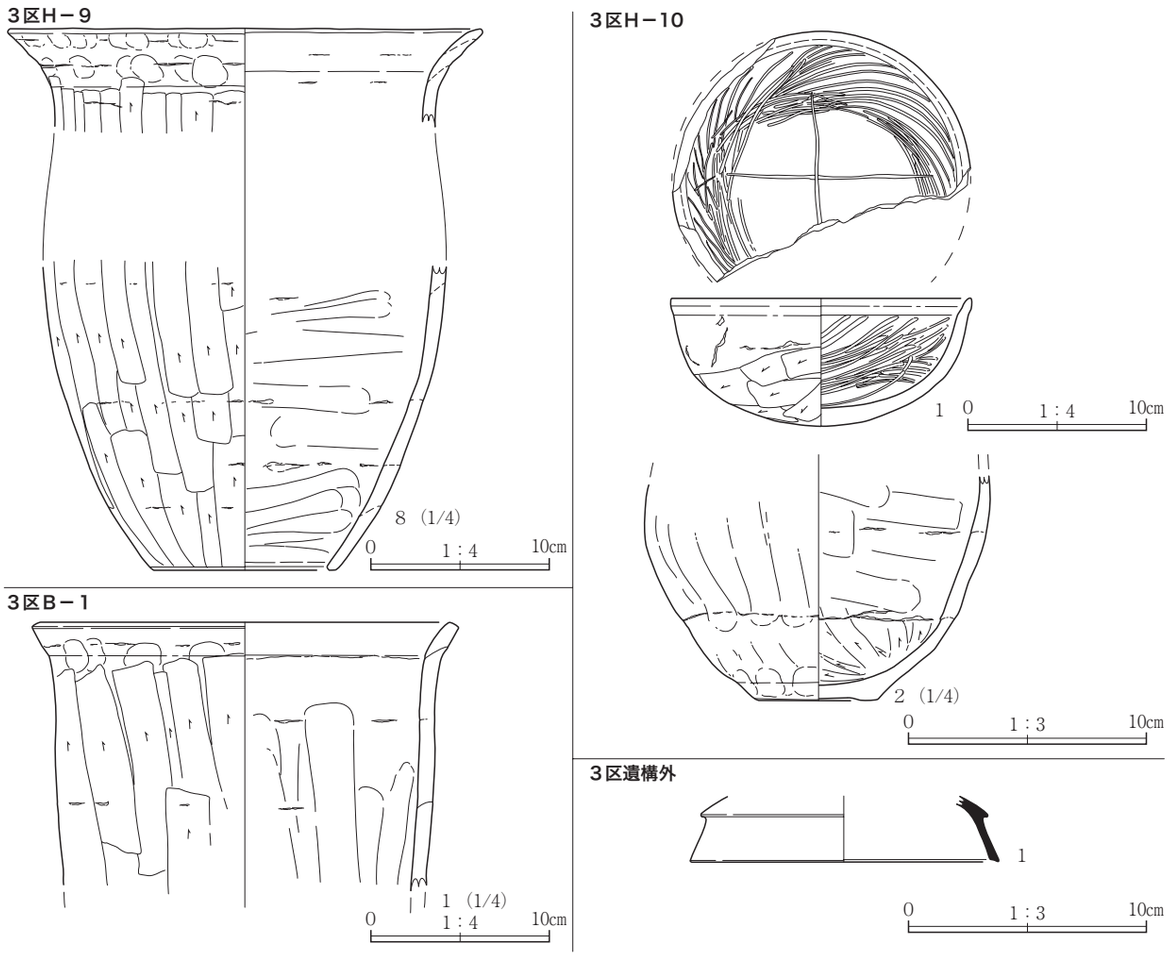


Fig.43　3区　H－9・10号住居跡、B－1号掘立柱建物跡、遺構外出土遺物

Tab.9　3区　出土遺物観察表

H－1

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　蓋	(14.0)	－	(4.8)	白色粒、石英	堅緻	暗青灰色	外面口縁部ヨコナデ、蓋上部ヘラケズリ、以下ロクロによるヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以上ロクロによるヨコナデ。	2/5残存。
2	床面直上	土師器　杯	13.2	－	5.3	白・黒・茶色粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラナデ後ナデ。	口縁部1/4欠損。
3	床面直上	土師器　杯	12.9	－	5.4	白・黒・茶色粒、水晶、チャート	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ及びユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラナデ後ナデ。	5/6残存。
4	覆土	土師器　杯	(12.8)	－	(5.0)	白・黒・橙色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ナデ。	1/4残存。
5	床面直上	土師器　手捏ね	－	2.8	(4.2)	白・黒色粒、黒雲母	良好	明褐色	内外面ともにユビナデ（手捏ね）。	体部～底部残存。

H－2

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	(15.0)	－	(4.5)	白・黒・橙色粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ後ミガキ。	口縁～体部片残存。

H－3

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　杯	(13.1)	－	4.4	黒色粒	堅緻	黄灰色	外面口縁部回転ナデ、以下回転ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/2残存。
2	床面直上	土師器　杯	14.4	－	4.7	石英、長石	良好	赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ後ミガキ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	2/3残存。
3	床面直上	土師器　杯	15.4	－	6.1	石英、長石、雲母	良好	外・黒褐色 内・にぶい赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ミガキ。	ほぼ完存。
4	床面直上	土師器　杯	(16.6)	－	(5.5)	白色粒	やや軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。口縁端部に凹線状のくぼみ。	1/8残存。
5	床面直上	土師器　甕	(19.3)	－	(6.7)	白・黒色粒、石英	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部1/4残存。

H－4

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	14.9	－	4.55	黒色粒	軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ及びユビオサエ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ナデ。	2/3残存。
2	床面直上	土師器　杯	(12.3)	－	5.15	石英、長石、雲母、白色粒	良好	赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/2残存。
3	床面直上	土師器　高杯	(15.0)	－	(5.1)	雲母、黒色粒	軟質	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ（摩滅が強く一部不明瞭）。 内面摩滅により詳細不明（おそらく回転ナデ）。	杯部1/4残存。
4	床面直上	土師器　甕	－	6.1	(12.0)	石英、長石	良好	外・にぶい黄橙色 内・浅黄橙色	外面ヘラケズリ。 内面ケズリ後ナデ後ミガキ。	胴下半～底部残存。

H－5

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	13.0	－	5.2	白・黒色粗粒、チャート、水晶	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ 内面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラナデ後ユビナデ。	完存。 内面黒色処理。
2	床面直上	土師器　杯	12.8	－	5.5	白・黒色粗粒、水晶	良好	にぶい赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラナデ後ユビナデ。	2/3残存。
3	床面直上	土師器　杯	13.8	－	5.0	白・黒・茶色粒、黒雲母	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ 内面口縁部ヨコナデ後ミガキ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	2/3残存。
4	床面直上	土師器　甕	(19.5)	－	(10.5)	白・黒・茶色粒	良好	浅黄色	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口縁部1/4残存。

oumi035.indd　59　　2011/01/28　10:45:13

H－7

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	13.5	－	4.8	石英、長石	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ユビオサエ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ（中央に十字状の暗文あり）。	ほぼ完存。
2	床面直上	土師器　杯	(13.1)	－	5.1	白・黒・赤色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヨコナデ及びナデ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ後ミガキ、底部ヘラケズリ。	1/4残存。
3	床面直上	土師器　杯	13.6	－	4.95	石英、長石、黒色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ユビオサエ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ（摩滅等により不明瞭）。	ほぼ完存。
4	床面直上	土師器　杯	14.0	－	5.5	白・黒色粒、黒雲母、水晶	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ 内面口縁部ヨコナデ後以下回転ナデ後ミガキ（摩滅等により不明瞭）。	ほぼ完存。 内面摩滅、剥落。
5	床面直上	土師器　杯	13.55	－	5.25	石英、長石、黒雲母	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	ほぼ完存。
6	床面直上	土師器　杯	13.6	－	5.05	石英、長石、赤色粒	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	完存。
7	床面直上	土師器　杯	14.6	－	8.5	石英、長石、雲母、黒色粒	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	ほぼ完存。
8	床面直上	土師器　杯	14.0	－	5.2	黒・茶色粒、黒雲母	良好	明石褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ後ミガキ、底部ヘラナデ及びナデ。	3/4残存。
9	床面直上	土師器　杯	(14.6)	－	4.7	石英、長石、黒色粒	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	1/2残存。
10	貯蔵穴	土師器　杯	14.0	－	4.95	石英、長石、雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	ほぼ完存。
11	貯蔵穴	土師器　杯	13.1	－	5.15	石英、長石、雲母	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	ほぼ完存。
12	貯蔵穴	土師器　杯	13.35	－	5.1	石英、長石	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	ほぼ完存。
13	貯蔵穴	土師器　杯	13.2	－	(4.0)	白・灰・茶色粒、水晶	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ後ミガキ。	ほぼ完存。 内面剥落。
14	床面直上	土師器　杯	12.0	－	6.4	石英、長石、雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ（摩滅により不明瞭）、底部ユビオサエ。	ほぼ完存。
15	床面直上	土師器　杯	13.6	－	5.3	黒・茶色粒、黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ後ミガキ。	完存。
16	床面直上	土師器　杯	(13.6)	－	(4.8)	白・黒・茶色粒、チャート、水晶	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヨコナデ後ナデ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ後ミガキ、以下ヘラナデ後ナデ。	口縁～体部1/4残存。 内面剥落。
17	覆土	土師器　杯	13.75	－	5.35	石英、長石	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	3/4残存。
18	床面直上	土師器　杯	11.2	－	4.9	白・黒・茶色粒	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ、底部ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ミガキ、底部ナデ。	口縁部一部欠損。
19	床面直上	土師器　杯	13.1	－	5.05	石英、長石	良好	外・にぶい橙色 内・明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ミガキ。	完存。
20	竈　覆土	土師器　杯	12.2	－	5.1	石英、長石、黒色粒	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ミガキ。	完存。
21	竈　覆土	土師器　杯	12.8	－	4.8	石英、長石、雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ後ミガキ。	ほぼ完存。
22	貯蔵穴	土師器　杯	11.5	－	4.75	石英、長石、黒色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ナデ。	完存。
23	貯蔵穴	土師器　杯	(13.7)	－	(4.1)	白・黒・赤色粗粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ナデ後ミガキ。	口縁部1/3残存。
24	貯蔵穴	土師器　杯	12.4	－	5.3	白・黒・赤色粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ミガキ、底部ナデ。	5/6残存。
25	床面直上	土師器　杯	13.3	－	4.75	石英、長石	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ミガキ。	完存。
26	床面直上	土師器　杯	(13.7)	－	(4.5)	白・黒・茶色粒、水晶	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ヘラナデ後ナデ後ミガキ。	口縁部1/4残存。
27	床面直上	土師器　高杯	14.0	－	(8.7)	白・黒・橙色粒、水晶	やや軟質	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。台部ナデ後ミガキ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ナデ後ミガキ？台部ヘラナデ。	台脚部欠損。 内面剥落。内・外面煤付着？
28	覆土	土師器　高杯	－	10.0	(5.0)	白・黒色粒、水晶、チャート	良好	明赤褐色	外面回転ナデ後ミガキ。 内面杯底部ナデ、台部ヘラナデ後ナデ。	台部3/4残存。
29	床面直上	土師器　甕	13.4	6.8	13.05	石英、長石	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部回転ナデ、胴部ナデか（摩滅等により不明瞭）。 内面口縁部回転ナデ、以下（ヘラ状工具による）ナデ。	完存。 外面黒斑あり。
30	竈　覆土	土師器　甕	14.9	6.6	23.3	白・黒・茶色粒、黒雲母	やや軟質	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下上半部縦位ヘラケズリ、下半部斜位・横位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	5/6残存。
31	竈　覆土	土師器　甕	15.3	7.4	26.9	白・黒・茶色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下肩部斜位ヘラケズリ、中位・横位ヘラケズリ、以下横位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	ほぼ完存。
32	竈　覆土	土師器　甕	(17.8)	－	(12.9)	白・黒色粒、白雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下横位及び斜位ヘラケズリ（後胴中位ミガキ）。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ユビナデ。	口縁～胴上部片残存。
33	床面直上	土師器　壺	15.55	－	(15.2)	石英、長石、雲母	良好	黄橙色	外面口縁部回転ナデ、頸部ユビオサエ、以下ミガキ。 内面口縁部回転ナデ、（板状工具による）胴部ナデ。	上半ほぼ完存。 外面黒斑あり。
34	床面直上	土師器　甕	16.6	7.8	29.6	白・黒・茶色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下肩部横位・中位斜位ヘラケズリ、下半横位・斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びナデ。	一部欠損。 胴下半部カマド粘土付着。
35	床面直上	土師器　甑	20.1	9.3	27.0	白・黒色粒、黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、胴上半部縦位ヘラケズリ、以下縦位及び斜位ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ及びヘラナデ。下端部及び底部ヘラケズリ。	ほぼ完存。
36	床面直上	土師器　甑	24.0	10.1	28.6	白・黒・橙色粒、黒雲母	良好	橙色 黒色	外面口縁部ヨコナデ、以下斜位ヘラケズリ、下部ヘラケズリ後ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁部一部欠損。 内面胴中位煤付着。

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	石質	焼成	孔径（cm）	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
37	床面直上	石製品　臼玉	0.5	0.5	0.3	滑石	-	0.2	0.1	全面研摩。側面は研磨によりやや陵を持つ。	一部欠損。

H－8

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	(15.4)	－	6.8	石英、長石、雲母	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ。	1/2残存。

H－9

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　高杯	－	(11.8)	(5.4)	白色粒	堅緻	灰黄色	内外面ともに回転ナデ、方形透孔が2箇所残る。（復元推定4個の透孔と思われる）	脚部1/4残存。
2	床面直上	土師器　杯	(13.2)	－	4.45	石英、長石	良好	外・明赤褐色 内・橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ後ミガキ。 内面回転ナデ後ミガキ。（摩滅・微細な剥離により単位不明瞭）	1/3残存。
3	床面直上	土師器　杯	(14.4)	－	(4.8)	石英、長石、雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ後ミガキ。	1/4残存。
4	床面直上	土師器　杯	(12.8)	－	(6.6)	石英、長石、白色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	1/2残存。
5	床面直上	土師器　杯	(13.2)	－	(4.8)	石英、長石	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。口縁端部に沈線あり。	1/4残存。
6	床面直上	土師器　杯	(13.0)	－	(4.95)	石英、長石	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。口縁端部に沈線あり。	1/6残存。
7	床面直上	土師器　杯	(13.2)	－	5.4	石英、長石、雲母	良好	橙色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。口縁端部に沈線あり。	1/2残存。
8	床面直上	土師器　甑	(26.6)	(10.2)	(22.55)	石英、長石	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部回転ナデ及びユビオサエ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ユビオサエ及びナデ。	3/4残存。

H－10

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　杯	(14.6)	－	5.4	石英、長石、雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部回転ナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ミガキ	1/2残存。
2	床面直上	土師器　甕	－	6.6	(12.6)	石英、長石	良好	外・灰黄褐色 内・灰白色	外面ナデ、胴下部ユビオサエ。 内面ナデ、胴下部ケズリか。（強いナデ？胎土の移動あり）	底部残存。

B－1

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　甑	(23.8)	－	(15.05)	石英、長石、黒色粒	やや軟質	外・にぶい黄橙色 内・灰黄褐色	外面口縁部回転ナデ及びユビオサエ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部回転ナデ、以下ナデ。	1/6残存。

遺構外

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　蓋	(12.8)	－	(2.7)	白・黒細粒	堅緻	蒼灰色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、体部ロクロによるヨコナデ。	小片残存。

oumi035.indd　60　　2011/01/28　10:45:14

Ⅵ　まとめ

今回の調査では１～３区合わせて竪穴住居跡39軒（縄文：１、古墳以降：38）、掘立柱建物跡３棟、溝８条、井戸２基、土壙墓１基等が検出された。ここでは調査結果を基に調査区ごとに概観し、特筆される遺構・遺物については個別に考察を行い、まとめとしたい。

１　調査区

（1）１区

縄文時代前期の竪穴住居跡を１軒確認。遺構確認段階から周辺では縄文土器・黒曜石が散在していた。元総社蒼海遺跡群においては牛池川と染谷川に挟まれた台地の西側で前～後期にかけての遺構・遺物の検出例が多く、染谷川を中心に集落が形成されたことが窺える。

古墳～平安時代の竪穴住居跡は22軒確認。調査区全体で上面からの削平を受けているためＨ－５・13等の確認面から床面までがやや深めの住居跡以外は残存状況は悪く、出土遺物も少ない。掘立柱建物跡（Ｂ－２）は布堀を伴い、コーナーにあたる柱穴は柱の部分を一段掘り窪めている。他の掘立柱建物跡とは違う掘り方構造となっている。

竪穴住居跡が確認されなかった南東部では土壙墓（ＤＢ－１）、落ち込み（Ｏ－１）、ピット群等の中世の遺構が主体を占めている。本調査区南東に位置する元総社蒼海遺跡群（17）・（29）では中世のピット群が集中して確認されており、本調査区の遺構もこれらの一端であると考えられる。特に元総社蒼海遺跡群（29）３区では溝で方形に区画された掘立柱建物跡（御堂か）が確認されており中世色の強い地域であることが窺える。

（2）２区

85㎡と狭い調査区ではあるが竪穴住居跡が４軒確認された。調査区の関係上竪穴住居跡の全体像を掴むには至っていないが、周辺遺跡でも同時期の住居跡が確認されており、状況から規模等には差異はないと考えられる。直近の遺跡である元総社蒼海遺跡群（８）では緑釉陶器片が多数出土しているものの本遺跡からは確認されなかった。

Ｗ－１は直角気味のコーナーを有する区画溝と考えられ、As-B火山灰・軽石によって埋没していることから降下直前まで機能していたと考えられる。

（3）３区

牛池川の左岸に位置する本調査区においては竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡１棟、溝２条が確認された。

竪穴住居跡はほぼ全てが６世紀代に収まる。[1] 残存状況は全体的に良好でＨ－７では確認面から床面までが0.82ｍとやや深い。本調査区における竪穴住居跡の特徴として上層からの遺物出土量が少なく、埋土にブロック状のローム･黒色土が多く混入することが挙げられる。これは人為的な埋め戻しが行われた可能性が高いと考えられ、特にＨ－７～10ではブロックの混入が顕著に見られる。調査区西隣の元総社蒼海遺跡群（20）３区Ｈ－３はほぼ同時期の住居跡であり、同様に黄褐色土ブロックによって人為的に埋め戻しが行われている。

大部分の住居跡の上層ではHr-FAのブロックの混入が認められる。ブロック状・少量のため一次堆積のものではなく二次的な混入と考えられる。Hr-FA降下（６世紀初頭）時に埋没途中であれば土層断面にHr-FA堆積層が認められるだろうが全く確認できない。住居の築造時期もHr-FAとの切り合い関係から導き出せるであろうが、堆積層位は削平され基本土層でもHr-FAが確認できないため不可能である。少なくとも降下以降に住居跡の埋没・埋め戻しが行われたということは確実であり、出土遺物の年代（６世紀代）との齟齬もない事が言えよう。

oumi035.indd　61　　2011/01/28　10:45:14

2　遺構・遺物

（1）住居内施設

ここでは３区で確認された住居内施設に触れたい。

３区Ｈ－７～11において段状の遺構が確認された。[2] 当初は住居跡の重複と思われたが他の住居跡でも同位置、ほぼ同幅で確認されたため住居内施設として扱った。段を有する施設として棚状施設が挙げられる。棚状施設については桐生直彦氏が研究を行っており「竈を有する竪穴住居跡の竪穴壁に接して平行に設けられた段差をもつ屋内施設」と定義付けている。また平面位置、構築方法や幅、床面からの高さから細分化し分類を行っている。[3] 本遺跡の遺構を上記の方法で分類し表にしたものが「Tab.10　棚状施設計測表」である。平面位置、構築方法については概ね共通している。幅に関しては 0.12 ～ 0.28 mとやや狭く、床面からの高さは 0.04 ～ 0.30 mとバラつきがある。次に個別の住居跡で検討してみたい。Ｈ－７では東・南壁の全面で検出されている。遺構平面図を注視すると竈奥壁に段を確認することができる。これも東壁の棚状施設の一部であり、竈構築以前に造り出していることがわかる。棚状施設付近の土層観察からは特異な堆積は見られず、一連の埋没・埋め戻されている状況である。棚上面は凸凹は無く、地山を削り平坦な面を造り出している。本住居跡の東・南壁際床面からは遺物が豊富に出土しているが、残念ながら棚上からは出土していない。出土した土師器坏の口径は平均 13cm、南壁の棚状施設の幅が 0.18 ～ 0.28 mということはなんとか坏が置ける位のスペースは確保できている。しかし東壁においては 0.05 m前後とモノを置くという棚の機能を失っており極めて狭い。同様のケースはＨ－８の東壁でも確認される。

以上、棚状施設としての検討を行ってきたが棚として使用可能な箇所も認められる一方で、狭くモノを置くという機能を失っている箇所も存在する。今回は棚状施設として報告を行ったが、別の施設や住居構築時の構造として再考しなければならないかもしれない。今後周辺域での事例確認やさらなる検討が必要である。

３区Ｈ－５～８の住居跡断面図を見ていただきたい。壁面の下位が住居外へと掘り込まれていることが確認できると思われる。壁面全体で確認されており、0.10 ～ 0.20 m掘り込まれている。Ｈ－８では高さ 0.05 mと掘り込みというよりは工具等で穿った感を受ける。上記の住居跡の他Ｈ－１・９でも部分的に僅かであるが検出されている。Ｈ－７～９では北壁で確認されている。これは上述した棚状施設が確認された壁面と対面する位置にあたる。位置関係から棚状施設との一連の施設・行為を連想してしまうのはやや強引であろうか。なぜこのような行為がなされたのか。竈構築材採取の為や住居内部構築の際の掘り方等想定されるが今回の調査結果ではそれらを実証する事ができなかった。今後の周辺域での住居跡調査の検討課題としたい。

以上住居内施設について検討を行ったが判然としない結果となった。今後調査事例が増え解明に繋がることを願いたい。

Tab.10　棚状施設計測表

遺構名	平面位置	面	構築方法・面状況	規　模（m）		
				長　さ	幅	床面からの高さ
3区　H-7	ABイン	A面	素掘り・平坦	5.76	0.05前後	0.15～0.22
		B面	素掘り・平坦	(4.26)	0.18～0.28	0.18前後
3区　H-8	ABイン	A面	素掘り・平坦	3.51	0.06前後	0.04前後
		B面	素掘り・平坦	(1.79)	0.17前後	0.06前後
3区　H-9	(Bイン)	(B面)	素掘り・平坦	(4.12)	0.19前後	0.10前後
3区　H-10	(Bイン)	(B面)	素掘り・平坦	(3.28)	0.14～0.20	0.04前後
3区　H-11	不明	不明	素掘り・平坦	(1.35)	0.12前後	0.30前後

※　H-9～10に関しては竈は確認されていないが周辺状況から東壁に竈が位置するという想定の上で分類した。

oumi035.indd　62　　2011/01/28　10:45:14

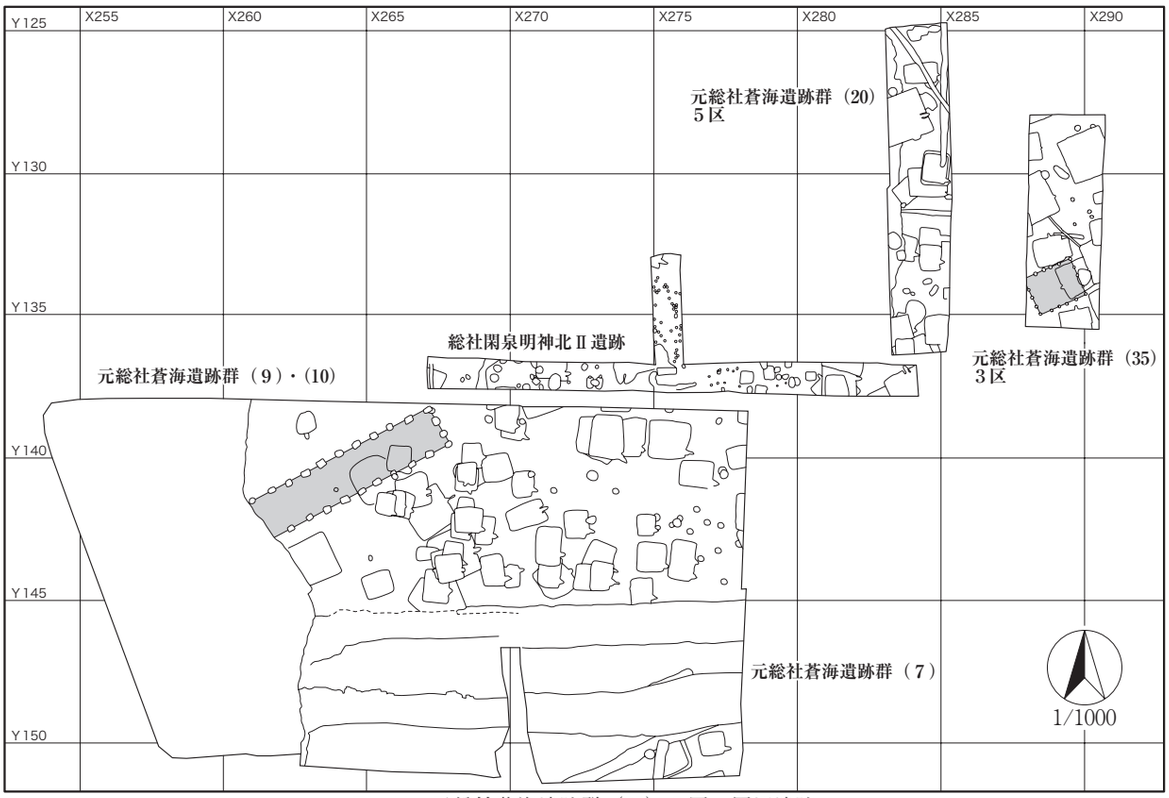


Fig.44　元総社蒼海遺跡群（35）３区　周辺遺跡

（２）掘立柱建物跡

３区で５×４間の掘立柱建物跡を確認した。主軸を北東―南西方向（N－66°－E）にとる中型の側柱建物であり、H－３との重複関係により７世紀以降と想定した。この建物跡に付随する遺構は本調査区からは確認されなかったが、主軸方向が一致する遺構として南西方向に位置する元総社蒼海遺跡群（９）・（10）の大型掘立柱建物跡が挙げられる。この大型建物跡（B－１号掘立柱建物跡）は10×３間、主軸N－62°－Eを測り、出土遺物等から７世紀中頃と想定されている。規模からみても特異性が強く官衙関連の遺構と報告されている。建物間は81.8ｍを測る。同軸方向だけで関連付けるには根拠に乏しいため、今回は関連する可能性があるに留め、周辺域での今後の検討課題としたい。

（３）畿内産土師器

１区H－18で畿内産土師器が出土した[(4)]。土器外面は密に横位のミガキ、内面は口縁～体部を放射状、底面には螺旋状の暗文が施されている。胎土は肌理細かく、焼成も良好、他の土師器と比べてやや硬質である。

西弘海氏によって提起された編年案（西1986）によれば飛鳥Ⅱ期の坏Cに比定される。飛鳥Ⅱ期は７世紀中頃の年代が与えられている。坏Cは径高数（器高／口径×100）により規格化されており、32の指数に対して本遺跡出土の坏は31.9と同規格と言える。

畿内産土師器が出土した１区H－18は6.51×5.97ｍとやや大型で複数の竈・柱穴が確認されていることから建て替えが行われたと考えられる住居跡である。上面の削平により確認面から床面までが約10cm程であるため出土遺物も少なく、また他住居跡との特異な点も見られない。

県内における畿内産土師器の出土分布は官衙関連遺跡が主体を占めており、国府推定域に近い本遺跡での出土の例外ではない。

oumi035.indd　63　　2011/01/28　10:45:15

（4）蒼海城関連の堀跡

蒼海城に関連する堀跡として１区Ｗ－１が挙げられる。東西方向に延びるこの堀跡は本調査区東側へ30ｍに位置する元総社小見Ⅲ遺跡でも確認されている（５区Ｗ－３）。規模・断面形状等に差異は見られないが、堀底に道路状遺構と考えられる硬化面が検出されている。本遺跡では硬化面等は検出されていないものの底面が比較的に平坦である。

１区周辺での蒼海城は山崎一氏の縄張図や絵図等でも明確にされておらず、城域の範囲を掴めていない状況である。しかし近年周辺での発掘調査により堀跡が確認されており、城域が広がる可能性があると考えられる。

３　結

古代群馬の中心地であった元総社地域では近年継続的に発掘調査が行われ、多種多様な遺構が検出されている。今回の調査でも縄文時代～中世に至るまでの遺構・遺物が確認されており、元総社地域の歴史の一端を垣間見る事ができたと思われる。

最後に、連日猛暑の中調査に従事した作業員の方々、現地調査・報告書作成の際にご指導とご助言頂いた方々に感謝の意を表し結びとしたい。

註

（１）出土遺物から想定される。３区住居跡出土遺物に関しては、坂口一氏からご教示いただいた。

（２）１区Ｈ－19（ＡＬアウトタイプ：竈左壁面に位置し、壁外へと張り出す）でも確認されている。

（３）桐生氏は全国842例に及ぶ棚状施設をもつ竪穴住居跡の集成を行っており、５世紀代から出現し９世紀代にピークを迎えている。本遺跡で確認された棚状施設を伴う住居跡の年代である６世紀代の類例は39例と少ない。平面分類は「竪穴部のうち、竈を有する壁面をＡ面と呼び、以下時計回りの方向にＢ～Ｄ面とする。」「竪穴壁よりも外側に張り出しているものを『アウトタイプ』、竪穴壁の内側に設けられているものを『インタイプ』とする」。構築分類は素掘り、化粧（粘土等を貼り付ける）、充填、盛土の４タイプがある。（桐生 2005）

（３）畿内産土師器に関しては、桜岡正信氏からご教示いただいた。

参考文献

山崎　一　1978　『群馬県古城類址の研究　上巻』　群馬県文化事業振興会

西　弘海　1986　『土器様式の成立とその背景』　真陽社

坂口　一　1986　『古墳時代後期の土器編年　－三ツ寺Ⅲ遺跡を中心とした土師器と須恵器の平行関係」『群馬文化』208　群馬県地域文化研究協議会

桜岡正信　1989　「群馬県内出土の暗文土師器について　－在地産を中心として－」『群馬県史研究』30号

桜岡正信　1991　「７世紀以降の土師器坏の画期とその要因について　－群馬県地域を中心としてー」『群馬考古学手帳』Vol. 2　群馬土器観会

桐生直彦　2005　『竈をもつ竪穴建物跡の研究』　六一書房

大阪府近つ飛鳥博物館　2006　『年代のものさし　－陶邑の須恵器ー』大阪府近つ飛鳥博物館図録40

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991　『荒砥北三木堂遺跡Ⅰ』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998　『下芝五反田遺跡　－古墳時代編ー』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006　『元総社蒼海遺跡群（７）』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2007　『元総社蒼海遺跡群（８）』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2007　『元総社蒼海遺跡群（９）・（10）』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（17）』

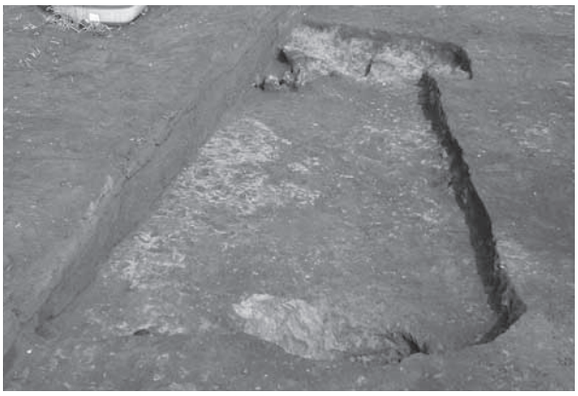
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（20）』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（24）』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2010　『元総社蒼海遺跡群（29）』

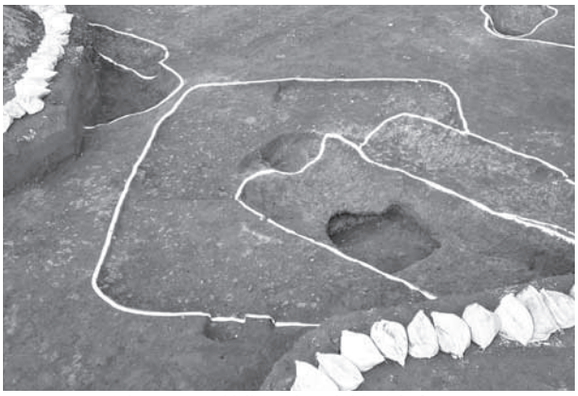
oumi035.indd　64　　2011/01/28　10:45:15

１区　Ｊ－１号住居跡　全景（東から）



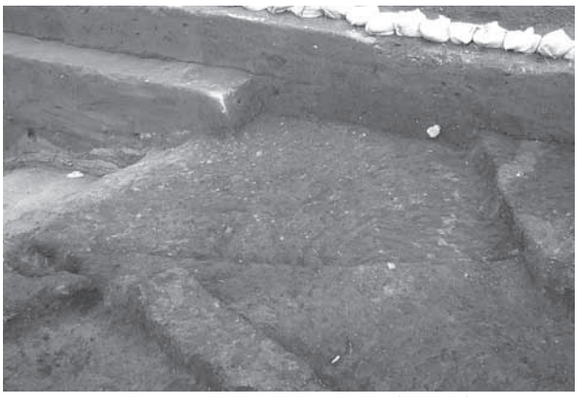
１区　Ｈ－１号住居跡　全景（西から）

１区　Ｈ－１号住居跡竈　全景（西から）

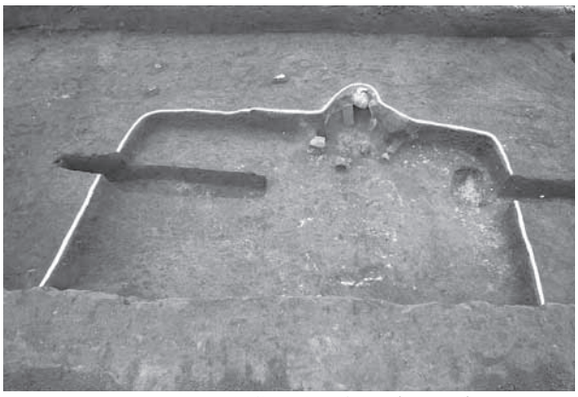


１区　Ｈ－２号住居跡　全景（南東から）

１区　Ｈ－３号住居跡　全景（西から）



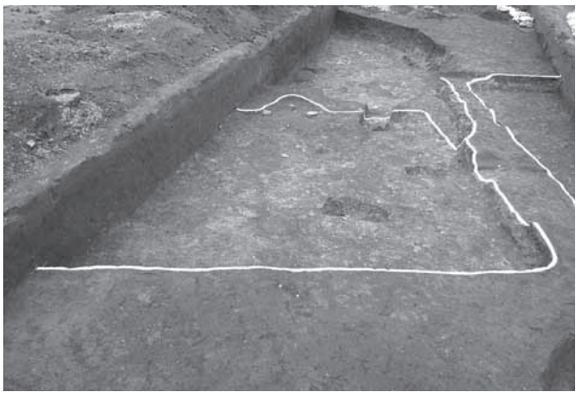
１区　Ｈ－４号住居跡　全景（西から）



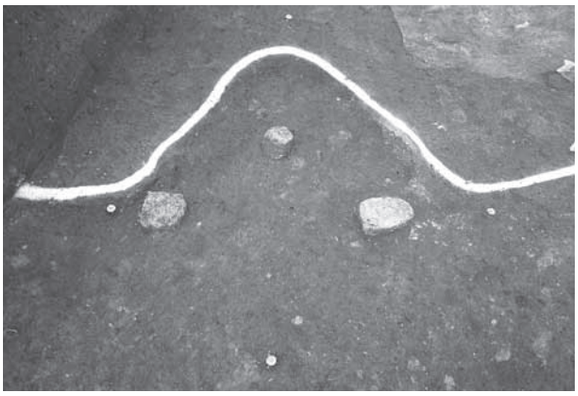
１区　Ｈ－５号住居跡　全景（西から）

１区　Ｈ－５号住居跡竈　全景（西から）

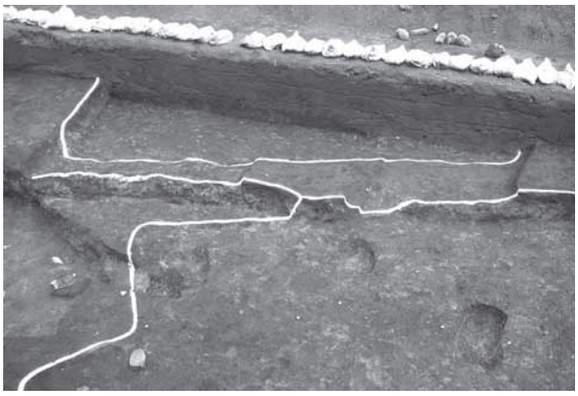
oumi035.indd　1　　2011/01/28　10:45:18



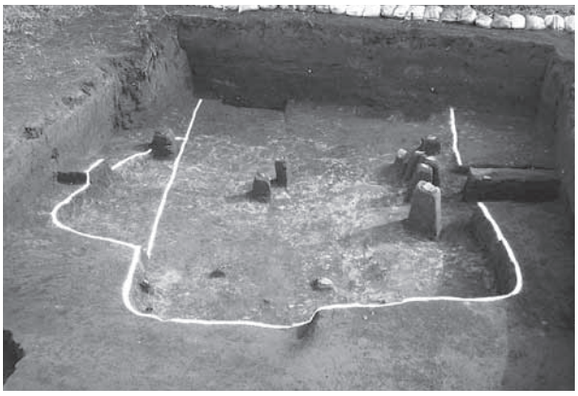
1区　H－7号住居跡　全景（南から）



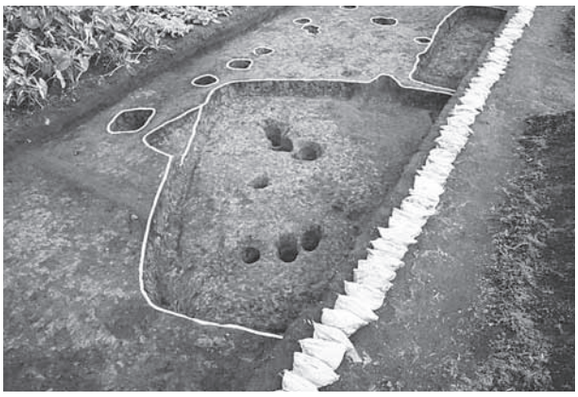
1区　H－7号住居跡竈　全景（南から）



1区　H－9号住居跡　全景（西から）

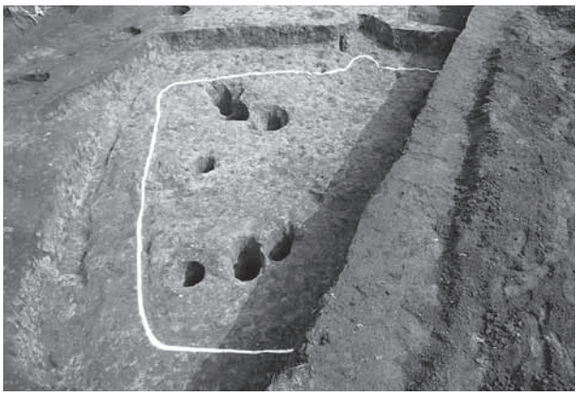


1区　H－10・11号住居跡　全景（北から）

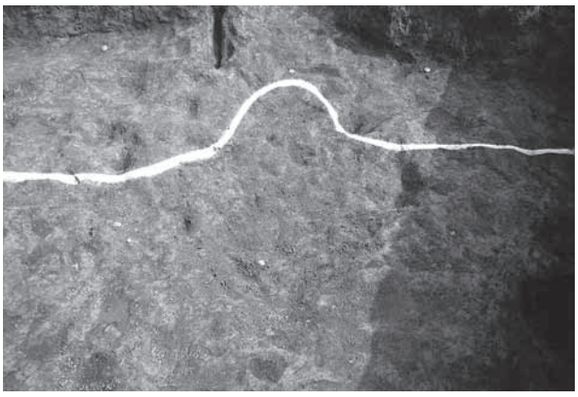


1区　H－13号住居跡　全景（西から）

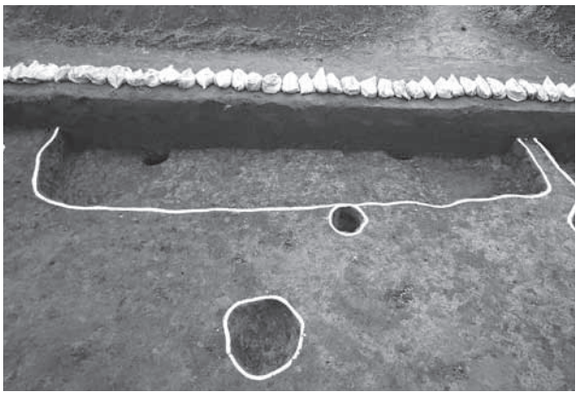
1区　H－13号住居跡竈　全景（西から）



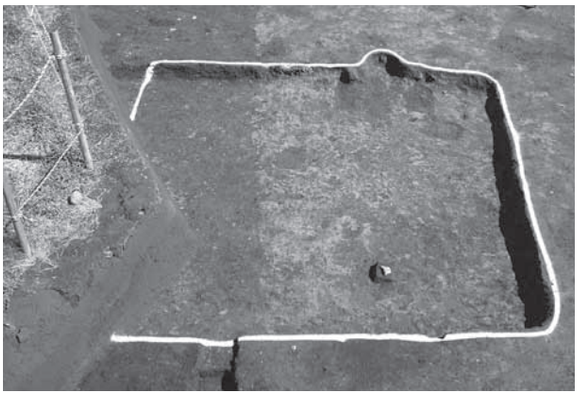
1区　H－14号住居跡　全景（西から）



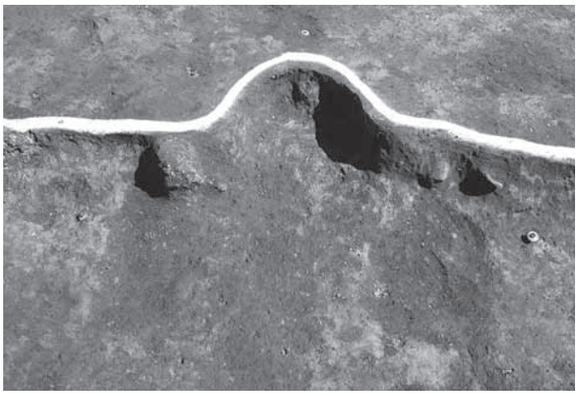
1区　H－14号住居跡竈　全景（西から）



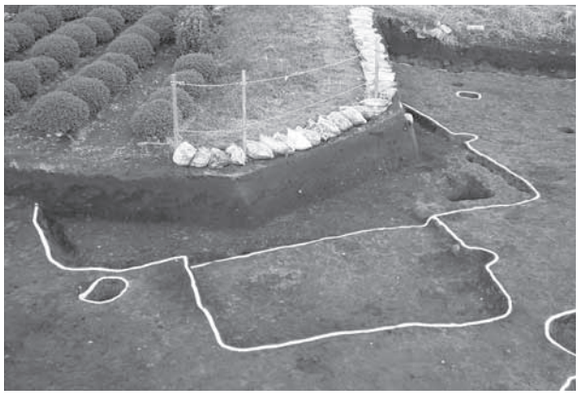
1区　H－15号住居跡　全景（北から）



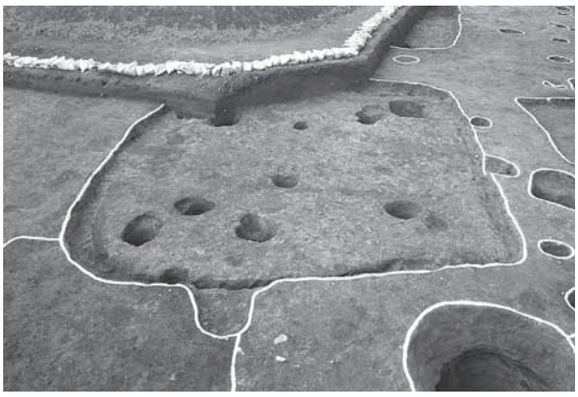
1区　H－16号住居跡　全景（西から）



1区　H－16号住居跡竈　全景（西から）

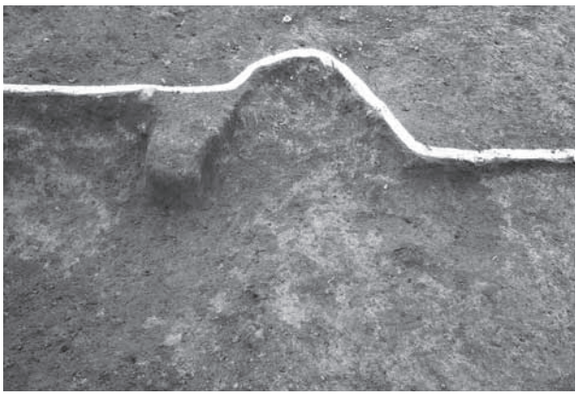


1区　H－17号住居跡　全景（南から）

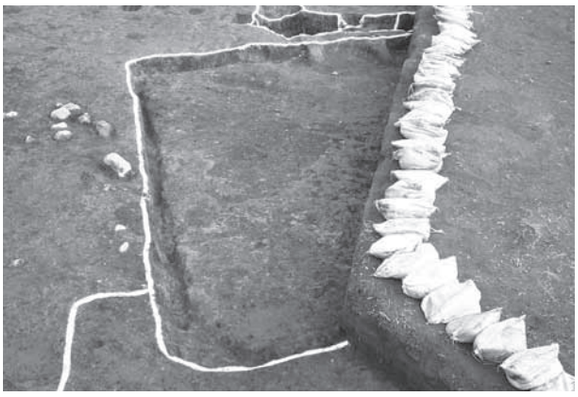


1区　H－18号住居跡　全景（東から）

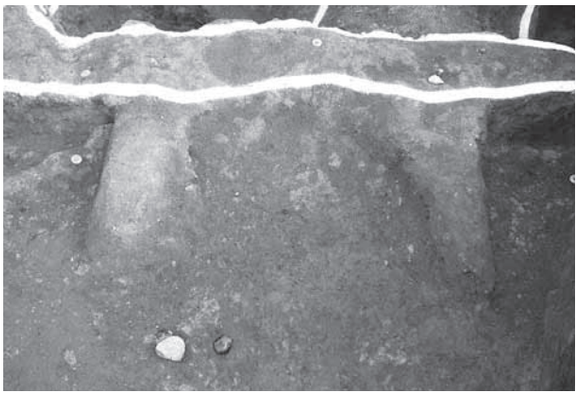
1区　H－19号住居跡　全景（北から）



1区　H－19号住居跡竈　全景（北から）

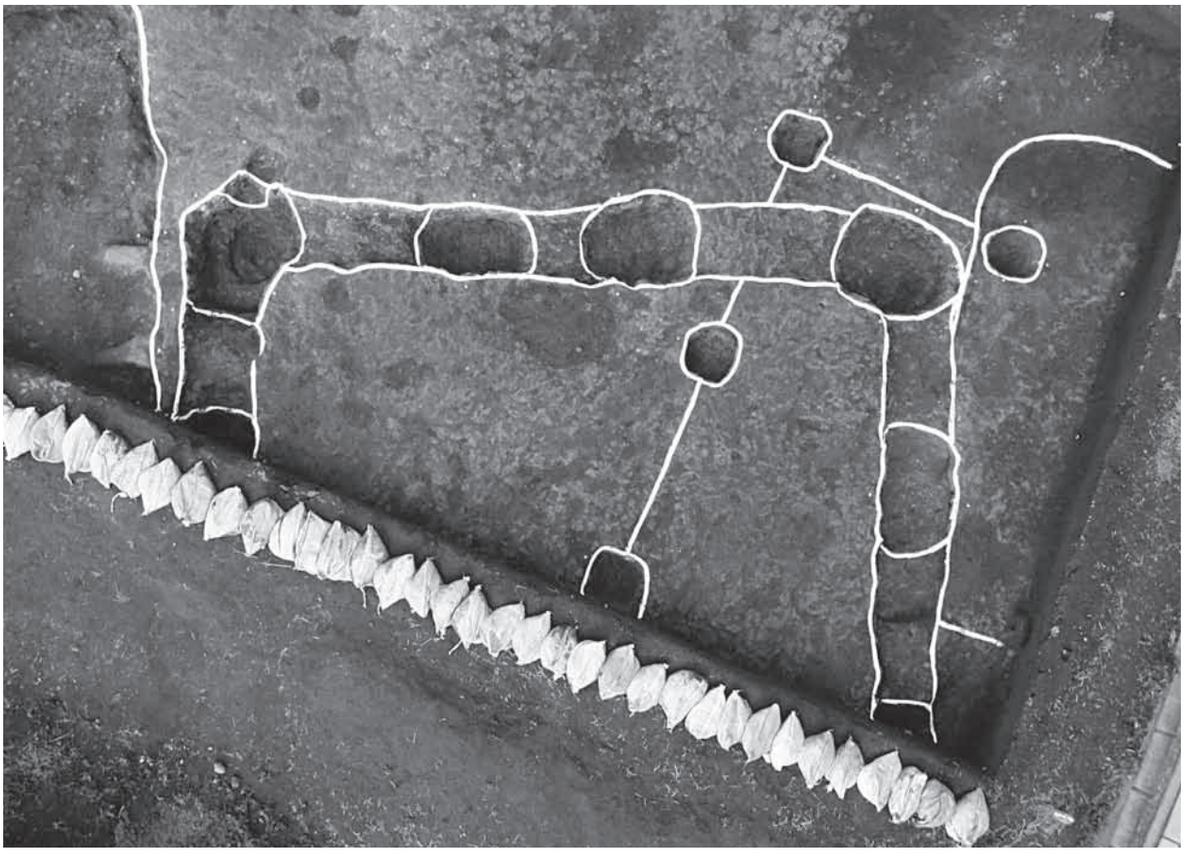


1区　H－20号住居跡　全景（西から）



１区　Ｈ－20号住居跡　全景（西から）

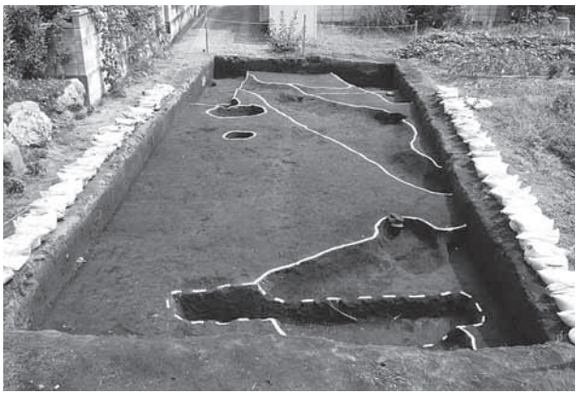
１区　Ｈ－22号住居跡　全景（西から）



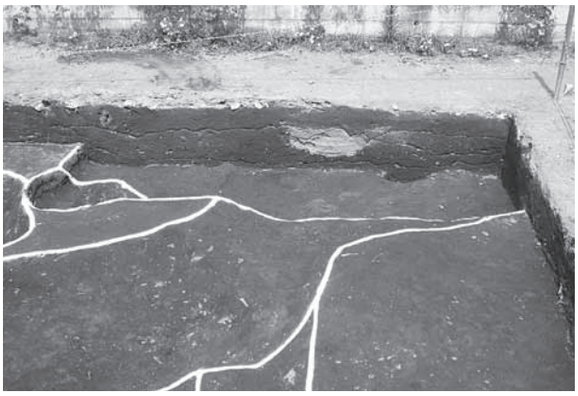
１区　Ｂ－１・２号掘立柱建物跡　全景（上が北）

１区　Ｗ－１号溝東側　全景（北西から）

１区　Ｗ－１号溝西側　土層断面全景（西から）

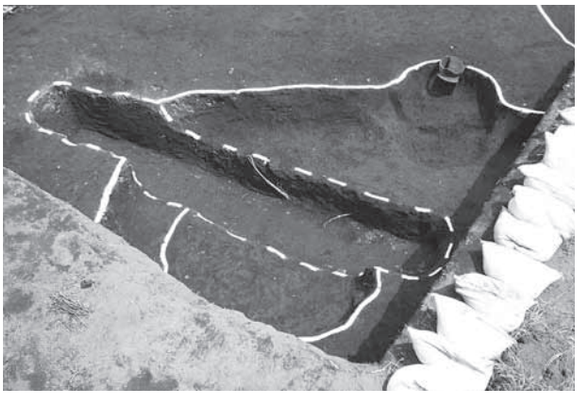


２区　調査区　全景（西から）



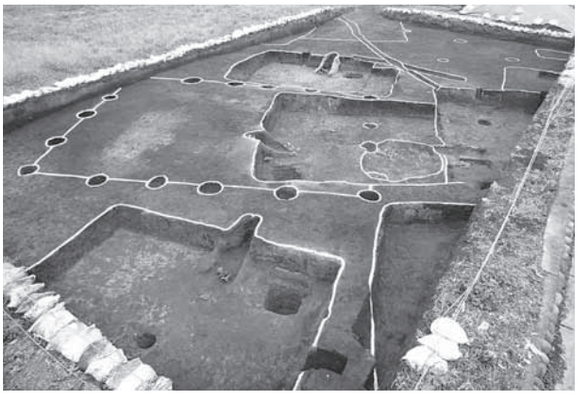
２区　Ｈ－１号住居跡　全景（南から）

２区　Ｈ－２・３号住居跡　全景（北西から）

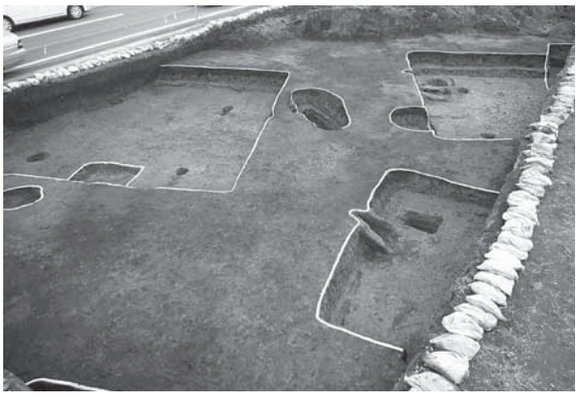


２区　Ｈ－４号住居跡　全景（西から）

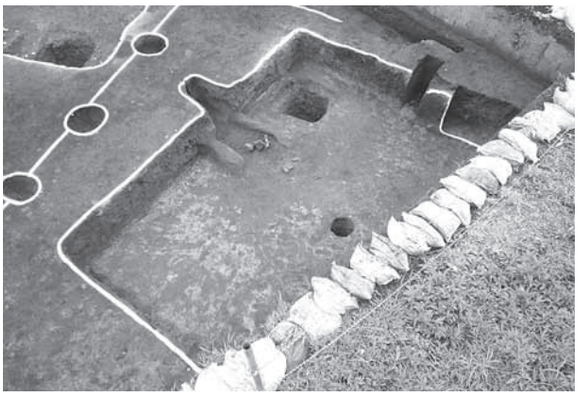
２区　Ｈ－４号住居跡竈　全景（西から）



３区　調査区　全景（南東から）



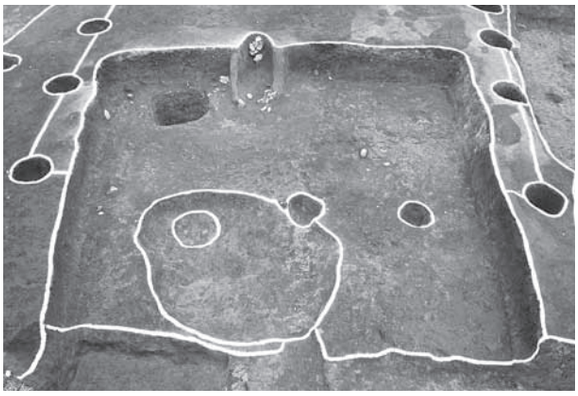
３区　調査区　全景（北西から）



３区　Ｈ－１号住居跡　全景（南西から）

３区　Ｈ－１号住居跡　全景（南から）

３区　Ｈ－２号住居跡　全景（南から）



３区　Ｈ－３号住居跡　全景（東から）

３区　Ｈ－３号住居跡竈　全景（東から）

３区　Ｈ－４号住居跡　全景（南から）

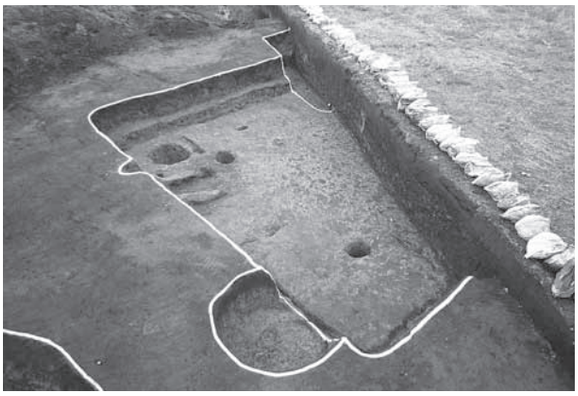
３区　Ｈ－４号住居跡竈　全景（東から）

３区　Ｈ－５号住居跡　全景（南から）

３区　Ｈ－５号住居跡　全景（南から）

oumi035.indd　6　　2011/01/28　10:45:35

３区　Ｈ－６号住居跡　全景（南から）



３区　Ｈ－７・11号住居跡　全景（北から）

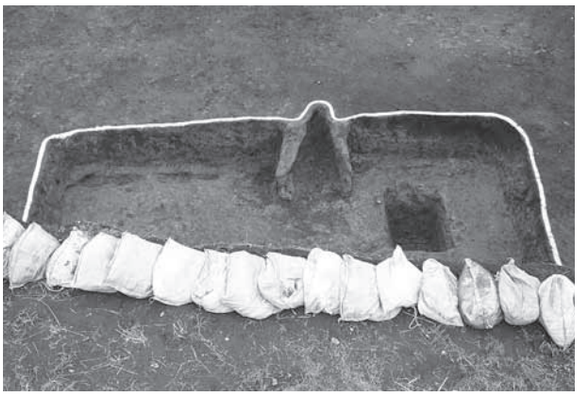
３区　Ｈ－７号住居跡竈　全景（西から）

３区　Ｈ－７号住居跡竈　検出状況（西から）

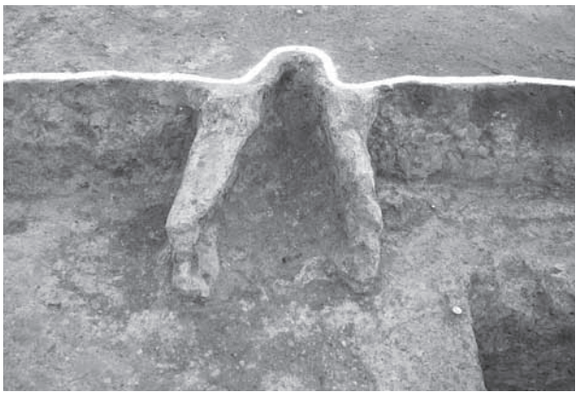
３区　Ｈ－７号住居跡　遺物出土状況（西から）

３区　Ｈ－７号住居跡貯蔵穴　遺物出土状況（西から）

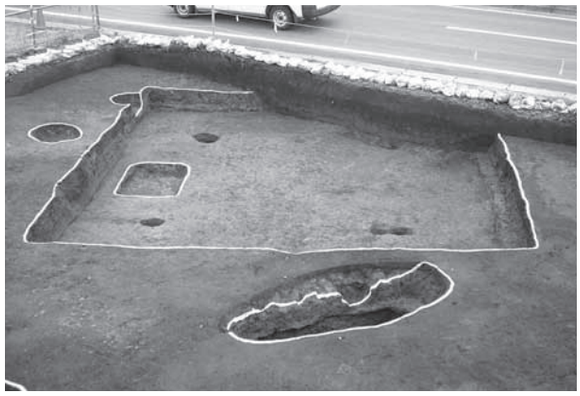
３区　Ｈ－７号住居跡棚状施設　全景（北から）



３区　Ｈ－８号住居跡　全景（西から）



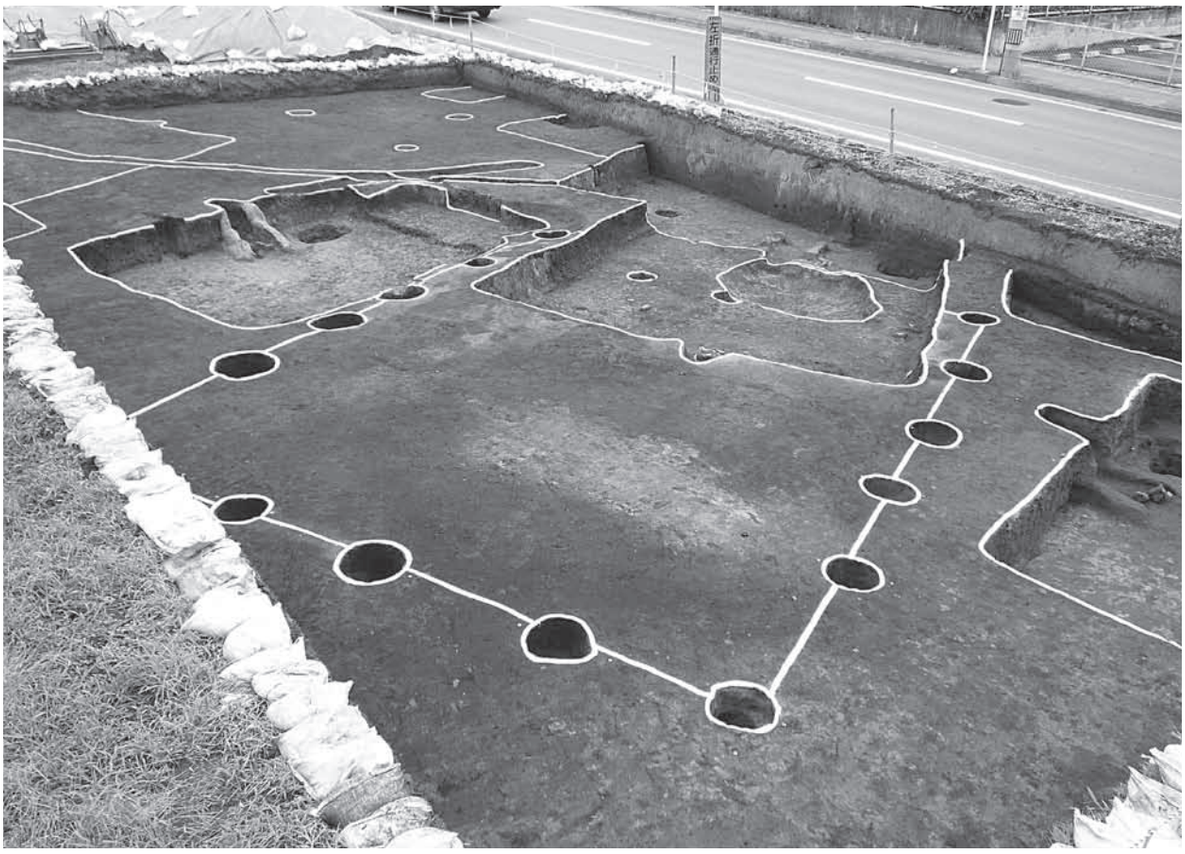
３区　Ｈ－８号住居跡竈　全景（西から）



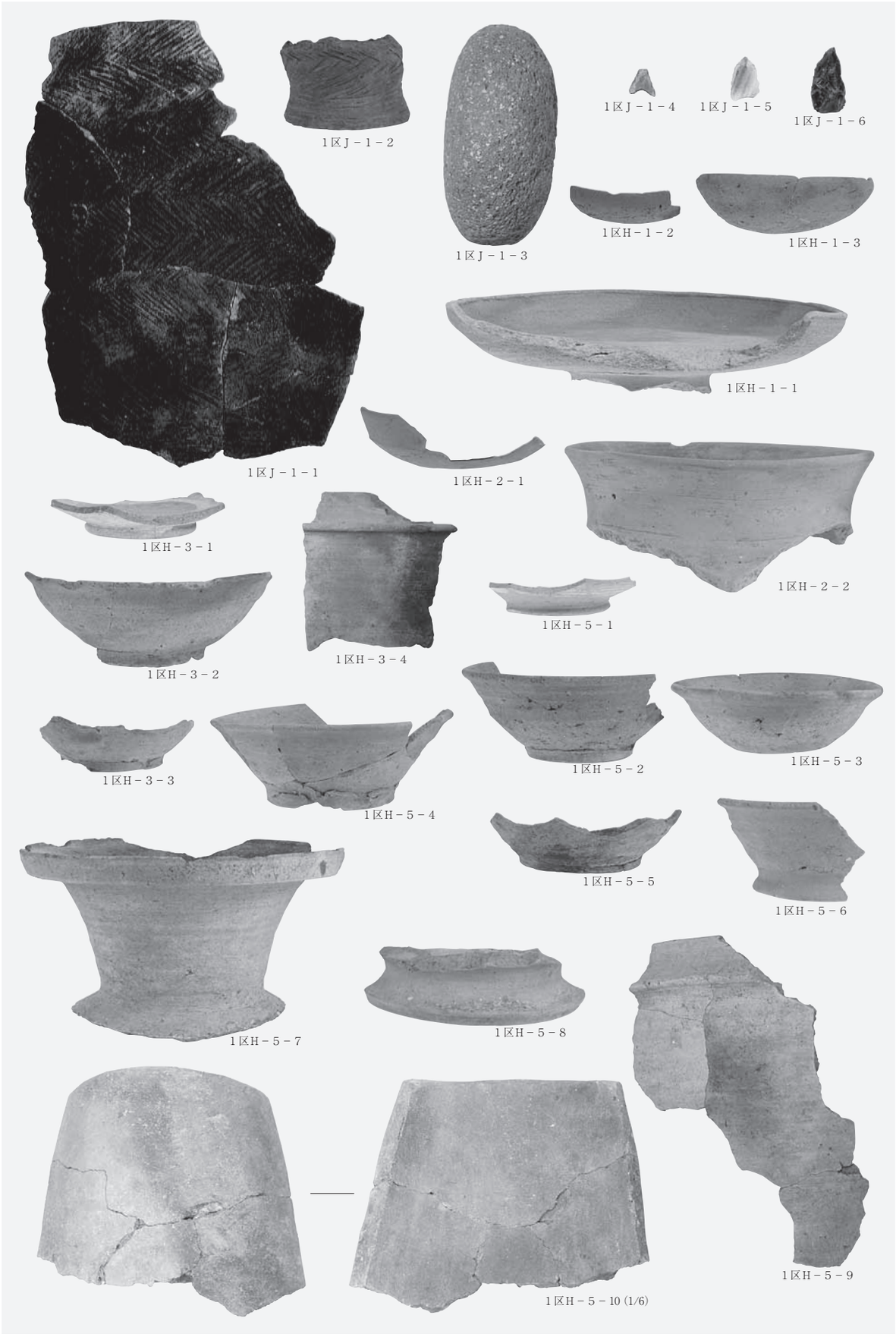
３区　Ｈ－９号住居跡　全景（南西から）

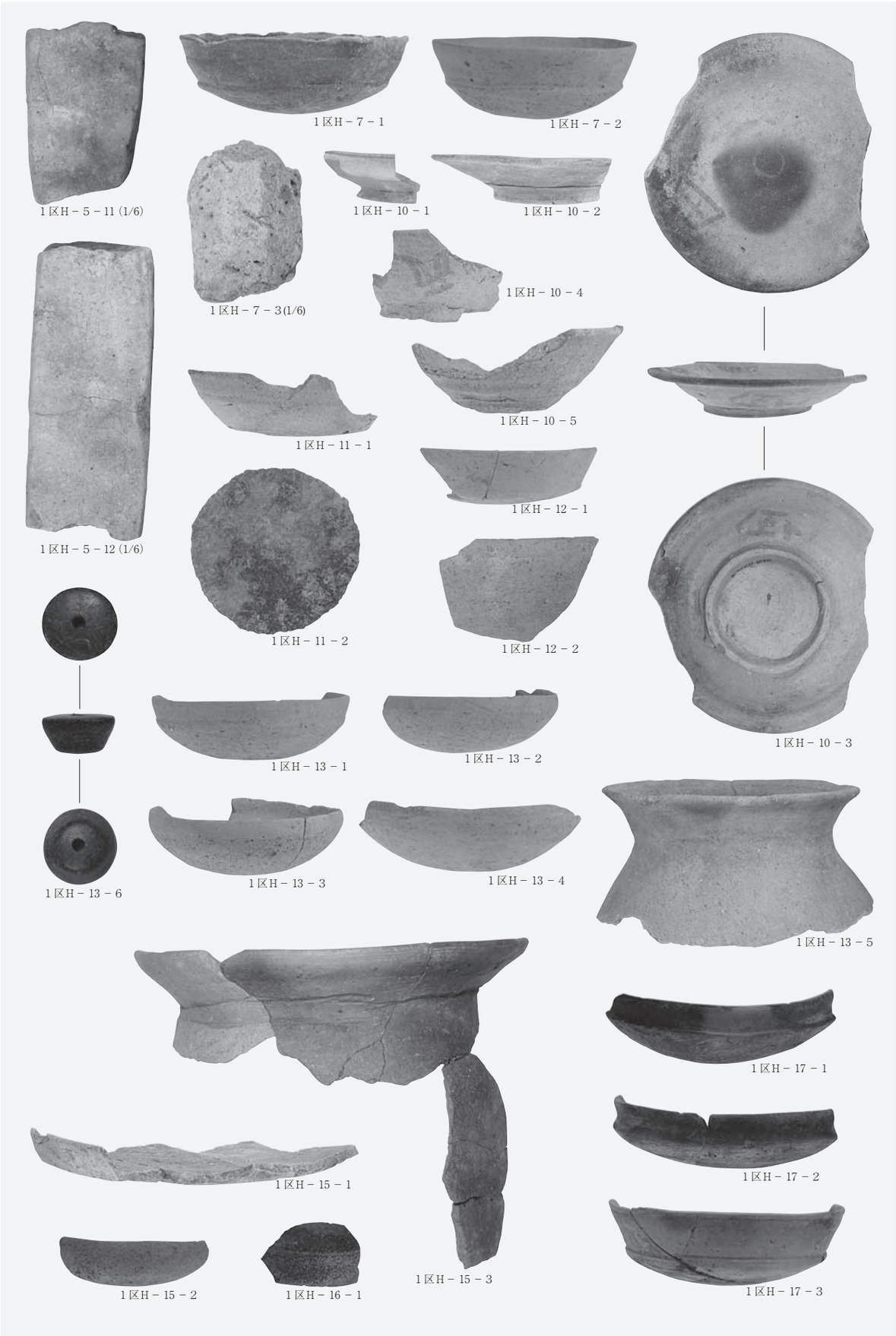
３区　Ｈ－９号住居跡棚状施設　全景（北西から）

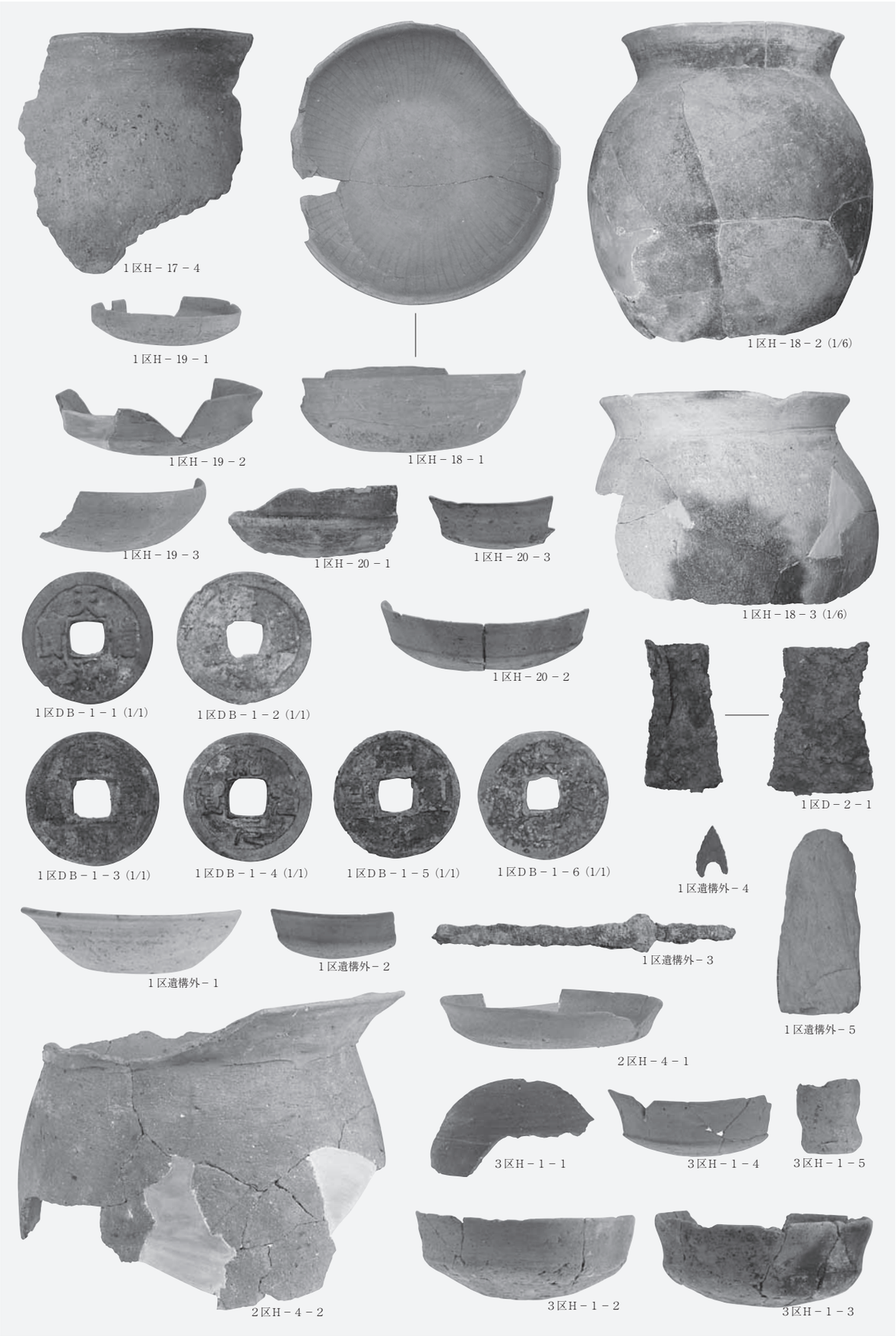
３区　Ｈ－10号住居跡　全景（西から）

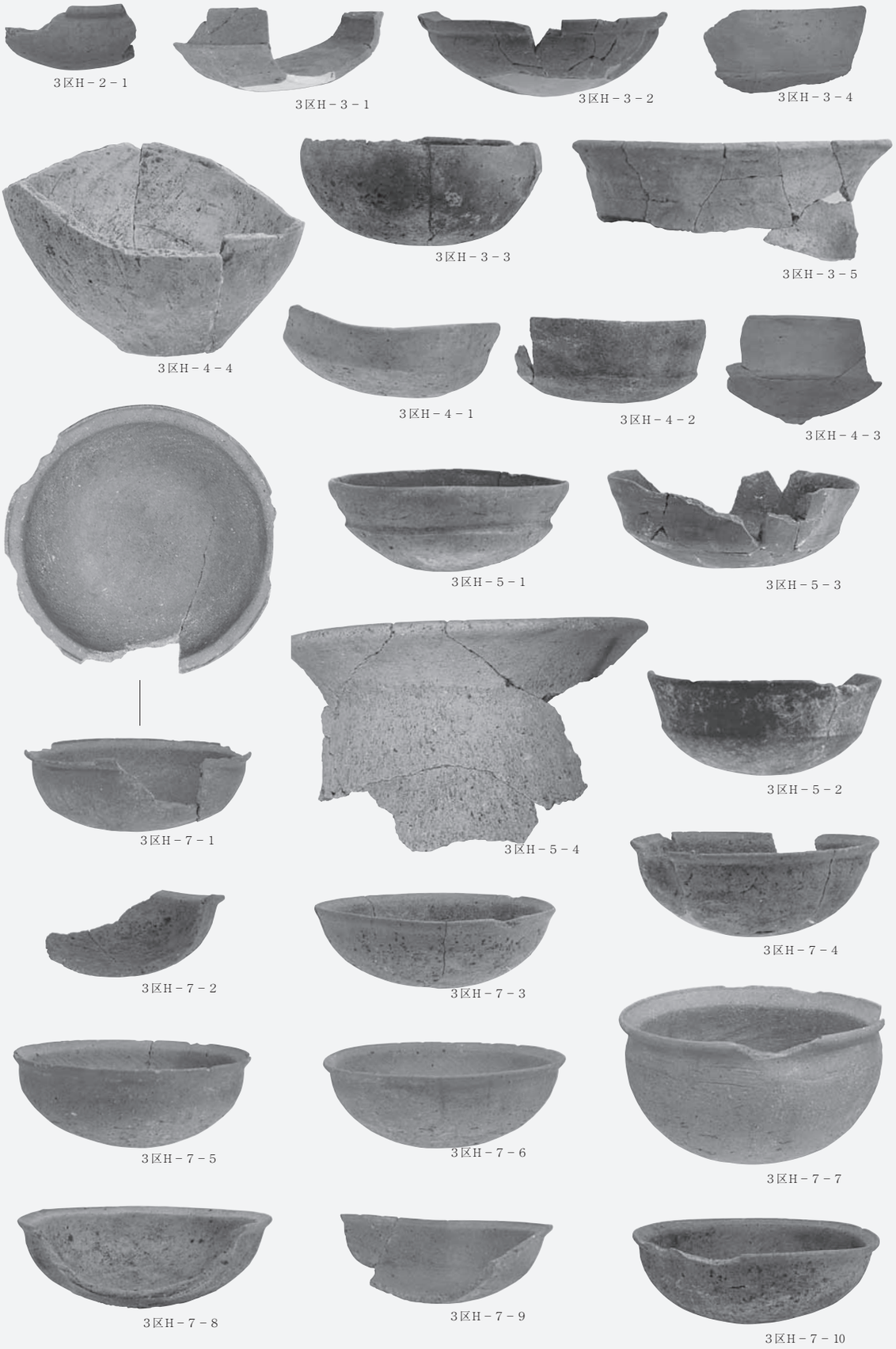


３区　Ｂ－１号掘立柱建物跡　全景（南西から）

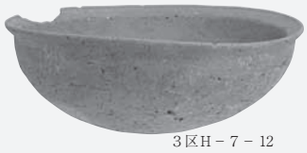

1区J－1－1
1区J－1－2
1区J－1－3
1区J－1－4
1区J－1－5
1区J－1－6
1区H－1－1
1区H－1－2
1区H－1－3
1区H－2－1
1区H－2－2
1区H－3－1
1区H－3－2
1区H－3－3
1区H－3－4
1区H－5－1
1区H－5－2
1区H－5－3
1区H－5－4
1区H－5－5
1区H－5－6
1区H－5－7
1区H－5－8
1区H－5－9
1区H－5－10(1/6)


1区H－7－1
1区H－7－2
1区H－5－11(1/6)
1区H－10－1
1区H－10－2
1区H－7－3(1/6)
1区H－10－4
1区H－10－5
1区H－11－1
1区H－12－1
1区H－5－12(1/6)
1区H－11－2
1区H－12－2
1区H－10－3
1区H－13－1
1区H－13－2
1区H－13－6
1区H－13－3
1区H－13－4
1区H－13－5
1区H－17－1
1区H－15－1
1区H－17－2
1区H－15－2
1区H－16－1
1区H－15－3
1区H－17－3

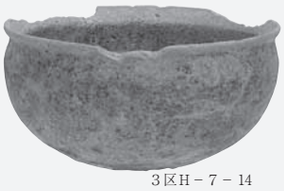

1区H－17－4
1区H－19－1
1区H－18－2（1/6）
1区H－19－2
1区H－18－1
1区H－19－3
1区H－20－1
1区H－20－3
1区H－18－3（1/6）
1区DB－1－1（1/1）
1区DB－1－2（1/1）
1区H－20－2
1区D－2－1
1区DB－1－3（1/1）
1区DB－1－4（1/1）
1区DB－1－5（1/1）
1区DB－1－6（1/1）
1区遺構外－4
1区遺構外－1
1区遺構外－2
1区遺構外－3
1区遺構外－5
2区H－4－1
3区H－1－1
3区H－1－4
3区H－1－5
2区H－4－2
3区H－1－2
3区H－1－3


3区H－2－1
3区H－3－1
3区H－3－2
3区H－3－4
3区H－3－3
3区H－3－5
3区H－4－4
3区H－4－1
3区H－4－2
3区H－4－3
3区H－5－1
3区H－5－3
3区H－5－2
3区H－7－1
3区H－5－4
3区H－7－4
3区H－7－2
3区H－7－3
3区H－7－5
3区H－7－6
3区H－7－7
3区H－7－8
3区H－7－9
3区H－7－10

3区H－7－11

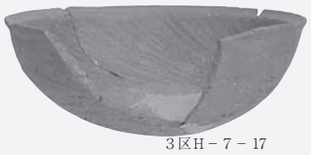

3区H－7－12

3区H－7－13

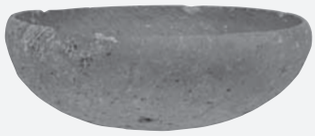

3区H－7－14

3区H－7－15

3区H－7－16


3区H－7－17

3区H－7－18


3区H－7－19

3区H－7－20

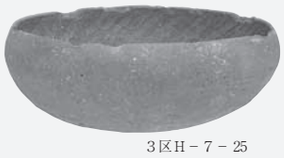
3区H－7－21

3区H－7－22

3区H－7－23

3区H－7－24

3区H－7－27


3区H－7－25

3区H－7－26

3区H－7－28

3区H－7－29 (1/4)

3区H－7－30 (1/4)

3区H－7－31 (1/4)

3区H－7－33 (1/4)

3区H－7－32 (1/6)

3区H－7－34（1/4）

3区H－7－35（1/4）

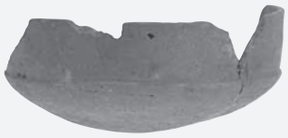
3区H－7－36（1/4）

3区H－9－1

3区H－9－2

3区H－10－1

3区H－8－1



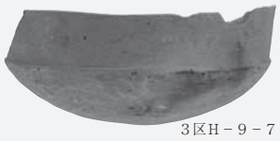
3区H－9－4

3区H－10－2（1/4）

3区H－9－3

3区H－9－5

3区H－9－6



3区H－9－7

3区H－9－8（1/3）

3区B－1－1（1/4）

3区遺構外－1

報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン（35）
書名	元総社蒼海遺跡群（35）
副書名	前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	神宮　聡・佐野　良平
編集機関	技研測量設計株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１-15-３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２
発行年月日	2011年２月10日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 （35）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町 1389ほか	102021	22A130-35	36°23'15	139°1'53	20100810 ～ 20101023	1235㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 （35）	集落跡 その他	【１区】 縄文時代 古墳時代 ～ 平安時代 中世	竪穴住居跡　１軒 竪穴住居跡　22軒 掘立柱建物跡　２棟 土坑・ピット等 堀・溝　４条 土壙墓　１基	縄文土器、石器 土師器、須恵器、 灰釉陶器、畿内産土師器 鉄製品、古銭	・古墳～平安時代の複合集落。 ・畿内産土師器。 ・布堀を伴う掘立柱建物跡。 ・蒼海城関連の堀跡。
		【２区】 奈良時代ほか	竪穴住居跡　４軒 溝・土坑・ピット	土師器、須恵器	・奈良時代ほかの集落。
		【３区】 古墳時代 奈良時代以降	竪穴住居跡　12軒 掘立柱建物跡　１棟 溝・土坑・ピット	土師器、須恵器	・古墳時代後期の集落。 ・５×４間の掘立柱建物跡。

元総社蒼海遺跡群（35）

前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011年２月３日　印刷
2011年２月10日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0018　前橋市三俣町２丁目10-２
TEL　027-231-9531

編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社

oumi035.indd　15　2011/01/28　10:48:33

oumi035.indd 16 2011/01/28 10:48:33

oumi035.indd 17 2011/01/28 10:48:33

oumi035.indd 18 2011/01/28 10:48:33

oumi035.indd 19 2011/01/28 10:48:33

oumi035.indd 20 2011/01/28 10:48:33